

授業科目名(英文名) ／Course Title	教育心理学特講		
担当教員(所属)／Instructor	石川 隆行(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S169115
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石川 隆行(【石川隆行】 takayuki-i@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石川 隆行(月曜日 12:10～12:50 事前にメールでのご連絡をお願いいたします。)		
授業の内容／Course Description	教育現場で求められる教育心理学に関する基礎的知識と研究の方法について、体験的に習得します。研究論文を自ら選択して講読、発表を行い、国内外の教育心理学に関する研究動向を理解します。また、教育心理学の基礎的知識をもとに、受講生が仮説を設定し、実際に調査、研究を行い、見出された知見について理解を深めます。		
授業の達成目標／Course Goals	教育心理学の基礎的知識とともに、教育心理学に関する調査、研究の方法や、データの解析方法と結果の読み方について理解を深めることを目指します。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	この授業は、学校教育専攻の専門科目、ならびに総合人間形成課程(人間発達領域)の領域専門科目となります。		
前提とする知識／Prerequisites	関連する科目として「教育心理学」や「心理統計学」を履修しておくことが前提となります。		
関連科目／Related Courses	関連する科目として「教育心理学」や「心理統計学」を履修しておくことが前提となります。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教育心理学に関する基礎的な知識と知見を深めるために、教育心理学(心理学)に関連した論文や、自身のレポートにもとづいた発表と討論を行います。授業形態は講義となっていますが、演習形式を取り入れた授業となります。なお、受講生の心理学についての知識に応じて授業内容を変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回ガイダンス：授業に向けての説明 第2回文献収集について：教育心理学研究、Journal of Educational Psychology 第3回国内研究論文の講読(1)：動機づけ、学習方略 第4回国内研究論文の講読(2)：いじめ、不登校 第5回国内研究論文の講読(3)：自尊感情、自己効力感 第6回国外研究論文の講読(1)：attachment 第7回国外研究論文の講読(2)：bullying 第8回国外研究論文の講読(3)：moral emotion 第9回 授業前半のまとめと到達度の確認 第10回研究における仮説と方法：仮説設定、研究方法 第11回データの収集と分析(1)：質問紙の作成 第12回データの収集と分析(2)：分析方法の検討 第13回分析および結果のまとめ(1)：基礎統計、統計表記 第14回分析および結果のまとめ(2)：多変量解析、統計表記 第15回授業後半のまとめと到達度の確認		
教科書・参考書等／Textbooks	テキスト(論文)：受講生と相談して選定します。 参考書：授業の中で必要に応じて指示します。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への参加態度を20%、ならびに授業内で実施する課題、および作成するレポートを80%として評価します。また、評価内容については解説をふまえ、個別に連絡する機会を設ける場合があります。		
学習上の助言／Learning Advice	将来の進路を見据えて積極的に受講していただくとともに、本授業が教育職を目指す受講生皆さんに役立てば幸いです。		
キーワード／Keywords	教育心理学、子ども、社会性		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	国語研究セミナーAⅡ		
担当教員(所属)／Instructor	澤崎 文(教育学部), 未設定(その他)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S226121
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	澤崎 文(金曜日 14:30~15:30 (できるだけ事前にメールで予約をとっておくこと))		
授業の内容／Course Description	4年次の卒業論文の執筆を念頭におきながら、日本語の文字・表記に関する現象について考える。受講者は、割り振られた担当時間に文字・表記に関する日本語学的な問題点を提示し、自らの意見を含めて発表する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の卒業論文作成に向けて、必要な基礎情報を得ると共に、研究を進めていく手法を学ぶ。 ・他者の論じた内容を理解し、自分のことばで説明できるようになる。 ・日本語学的な視点に基づいて問題点を見つけられるようになる。 ・発表者の提示した問題点に対し、さらなる問題点を指摘し、議論できるようになる。 ・自ら立てた仮説に対し、それを証明する論証能力が身に付く。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、日本語学的な問題の発見方法および調査・研究方法を学ばせ、4年次に卒業論文を日本語学の分野で執筆するために必要な能力を養成する。中学・高校の古典教育の教材研究に必要な基礎力の育成にもつながる。		
前提とする知識／Prerequisites	前期に開講される「国語研究セミナーAⅠ」を必ず履修すること。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	日本語の文字・表記に関する問題点について取り上げた論文をまず授業担当者が紹介し、問題点のありか、参考文献の調べ方、調査の手順、論理の立て方などについて解説する。その後、割り当てられた担当時間において、各々の問題意識に基づき受講者が順に発表をおこない、その内容について出席者全員で議論する。最後に、発表内容に授業内での議論の成果を加え、レポートとして提出する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	受講者数が未定のため、詳細な授業計画は提示できない。日時・担当者は第1回のガイダンス時に決定するため、受講者は必ず全員出席すること。 第1回 ガイダンス(授業内容の解説、発表順を決める) 第2～4回 講義(模範発表と発表方法の説明) 第5～14回 受講者による発表 第15回 まとめ(レポートについての指示)		
教科書・参考書等／Textbooks	授業内で適宜プリントとして配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	演習担当時の発表内容・議論への参加状況 50% 学期末のレポート 50%		
学習上の助言／Learning Advice	発表や質疑の場では失敗を恐れず、積極的に自分の考えを発言してください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	代数学Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	三橋 秀生(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S317006
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	本授業は、代数学Ⅰの続きであり、「群」「環」「体」とよばれる概念を学び、その世界の広さと、非常に基本的に思える定義から様々な性質が導かれることを学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・群の準同型写像について理解する。 ・群の準同型定理を理解する。 ・環、整域、体について理解する。 ・部分環、部分体について理解する。 ・イデアルと剰余環について理解する。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	数学教育専攻の選択専門科目である。中高における数学の内容の背景にある代数学の理論について学習する。		
前提とする知識／Prerequisites	代数学Ⅰ		
関連科目／Related Courses	代数学Ⅰ		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式で行う。新しく学ぶ概念について、例題や演習問題を解くことを通して理解を深めてほしい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回群についての復習 第2回写像の定義・全射・単射 第3回準同型写像(1) 準同型写像の定義と例 第4回準同型写像(2) 準同型写像の像と核 第5回準同型定理(1) 定理の証明 第6回準同型定理(2) 例題 第7回準同型定理(3) 応用 第8回環の定義と性質 第9回体の定義と性質 第10回整域について 第11回部分環と部分体 第12回環のイデアル 第13回剰余環(1) 剰余環の定義 第14回剰余環(2) 剰余環の例 第15回まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	参考書:「群・環・体 入門」新妻弘・木村哲三著、共立出版		
成績評価の方法／Evaluation	レポート(10%)と期末試験(90%)を総合評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	群・環・体は非常に抽象的な概念なので、整数や行列などの例を思い浮かべながら授業に臨んでほしい。これまでの学校教育で学んできた内容が、群・環・体とよばれる概念を通してどのように捉えなおすことができるのかに注意してほしい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	音楽研究セミナーCⅡ		
担当教員(所属)／Instructor	石野 健二(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 音楽教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S440025
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石野 健二(ishino-k@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石野 健二(〔火曜日〕 10時30分～12時)		
授業の内容／Course Description	教育現場での実践的な課題である歌唱時の姿勢、低音・中音・高音の際の呼吸法、声の響きの作り方、頭声発声の方法、母音処理の方法、子音の扱い方、言葉の抑揚の生かし方、レガート唱法とマルカート唱法、詩と音楽のかかわり方等の表現技法の整理と単純化を目指します。また、児童・生徒の主体的な歌唱をいかに引き出すかを、声楽教師として、また、学校の教師としての立場から、実践的に学んでゆきます。		
授業の達成目標／Course Goals	声楽Ⅰで学んだ歌唱法の基礎理論、声楽Ⅱでのより豊かな歌唱を目指す表現技法の獲得により、学生個人の技量は高まり、また、将来教員となって指導する際の指導方法の基礎が身についたことと思います。音楽研究セミナーCⅡでは学校教育における声楽の様々な問題に対応できるよう、歌唱表現のあり方、歌唱指導の技術・方法等を実践的に学んでゆきます。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	この科目は音楽教育専攻の専攻専門科目であり、特に卒業研究として声楽を選択する学生、あるいは声楽に関する教育実践力をさらに高めようとする学生のためのものである。		
前提とする知識／Prerequisites	声楽Ⅰ、声楽Ⅱ、声楽Ⅲ、声楽Ⅳ、音楽研究セミナーCⅠの履修。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業の前半では発声指導理論に関わることを扱い、後半では歌唱表現の指導法を中心に授業を進めます。また、ピアノを弾きながらの歌唱にも積極的に取り組みます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週ヴォカリーズによる弾き歌い1 第2週ヴォカリーズによる弾き歌い2 第3週ヴォカリーズによる課題発表 第4週イタリア歌曲による弾き歌い1 第5週イタリア歌曲による弾き歌い2 第6週イタリア歌曲による課題発表 第7週ドイツ歌曲による弾き歌い1 第8週ドイツ歌曲による弾き歌い2 第9週ドイツ歌曲による課題発表 第10週選択歌曲による弾き歌い1(実践) 第11週選択歌曲による弾き歌い1(改善研究) 第12週選択歌曲による弾き歌い2(実践) 第13週選択歌曲による弾き歌い2(改善研究) 第14週歌唱指導法のあり方について 第15週課題発表		
教科書・参考書等／Textbooks	特にありません。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への姿勢(30パーセント)、授業内容の理解度(30パーセント)、課題演奏(40パーセント)の結果を通じて判断します。		
学習上の助言／Learning Advice	音楽研究セミナーCⅡは、声楽Ⅰ・Ⅱ、音楽研究セミナーCⅠの実践経験を前提として、教育現場で実際に役立つような授業を目指しています。そういう意味で、真剣に歌唱と向き合ってほしいと思います。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	絵画Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	株田 昌彦(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S459017
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6, 月 /Mon 7	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	株田 昌彦（【株田 昌彦】mkabuta@cc.utsunomiya-u.ac.jp）		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	株田 昌彦(水曜13時～14時20分)		
授業の内容／Course Description	前半は人物画の制作を行う。後半は自由テーマによる絵画（油彩、水彩、鉛筆画、パステル等）の制作について実技指導を行う。使用素材は各自で選択し、参考とする作家の作品における表現について考察するための助言を与える。		
授業の達成目標／Course Goals	「デッサンⅠ、Ⅱ」、「水彩画Ⅰ、Ⅱ」、「絵画Ⅰ」で修得した内容を応用し、自己の絵画表現を構築できる。そのために、自分のテーマに即したイメージをデッサンやエスキースによって具現化し、適切な素材や表現を選ぶ事が出来る。中学校・高等学校の「美術」で扱われる構想画を描く題材における指導力（発想力、構想力、描画能力）を修得する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	高等学校の「美術」免許を取得するための必修科目であり、絵画分野の発展的な内容を扱う。絵画を構想するために必要な要素（テーマ、構図、配色、表現様式等）を理解し実践する。		
前提とする知識／Prerequisites	描写力の基礎が必要である。デッサンⅠ、Ⅱ（旧デッサンa、b）、水彩画Ⅰ、Ⅱ（旧水彩画a、b）、絵画Ⅰを受講していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses	描写力の基礎が必要である。デッサンⅠ、Ⅱ（旧デッサンa、b）、水彩画Ⅰ、Ⅱ（旧水彩画a、b）、絵画Ⅰを受講していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	デッサンⅠ、Ⅱ、水彩画Ⅰ、Ⅱ、絵画Ⅰで習得した内容を応用し、自己の絵画表現を構築する。具体的には自己の作品テーマに則した作品を美術館や画集で鑑賞し、その表現について分析した後、自己の表現様式を設定する。次にエスキースの制作、下絵の制作、下絵の修正、本画（タブロー）制作といった計画的な流れで構想画を制作する。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週オリエンテーション参考作品の紹介技法の説明、授業内容の提示 第2週人物画10号①下描き（構図の決定、プロポーションの把握） 第3週人物画10号②彩色（下塗り、動勢の把握） 第4週人物画10号③彩色（細部の描写） 第5週構想画のテーマの設定 第6週作品鑑賞、表現の分析、素材の選択 第7週エスキース制作（デッサン） 第8週下絵の制作（小画面によるサンプル制作） 第9週下絵の制作（修正） 第10週本画15号（タブロー）制作①下地塗り、マチエールの組み立て 第11週本画15号（タブロー）制作②下描き（構図の決定） 第12週本画15号（タブロー）制作③下塗り（配色） 第13週本画15号（タブロー）制作④描画（細部描き込み） 第14週本画15号（タブロー）制作⑤描画（全体の調和） 第15週講評会		
教科書・参考書等／Textbooks	洋画を学ぶ京都造形芸術大学編角川書店 絵具、筆、パレット、スケッチブック等（その都度授業の中で指示します。）		
成績評価の方法／Evaluation	授業への参加態度（25％）レポート（25％）提出作品（50％）を合計して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	本授業は絵画分野における全ての内容を含んでいる。また、テーマから素材選択、描画まで全て個別に設定するので、粘り強く取り組む姿勢が重要となる。使用教室の都合上受講人数は15人を上限とする。美術教育専攻および総合人間形成課程芸術文化領域以外の学生は要相談。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	環境生化学		
担当教員(所属)／Instructor	山田 洋一(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 理科教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S853005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	山田 洋一(yamadayo@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	山田 洋一(前期 木11:30-12:00 後期 金11:30-12:00)		
授業の内容／Course Description	糖質、脂質、アミノ酸とタンパク質、核酸とその成分、立体構造化学、反応のメカニズムに関わる基礎を理解し、応用力を身につけます。 中学校理科1・2分野、及び高校化学・生物の背景にある生化学分野の理論を習得することをめざします。		
授業の達成目標／Course Goals	生体関連物質（糖質、脂質、タンパク質、及びDNA）に関わる基礎を理解し、応用力を身につけます。 中学校理科1分野、及び高校化学の背景にある化学分野の理論を習得することをめざします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校理科1，2分野及び高校化学・生物についての指導内容・方法に関連します。		
前提とする知識／Prerequisites	高校化学・生物、及び本学の基礎の化学、及び化学の授業内容を修得していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses	高校化学・生物、及び本学の基礎の化学、及び化学の授業内容を修得していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義を中心とします。DNAの分子モデルを使用します。理解度を確認しながら進めます。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1. 糖の構造式の書き方 2. 単糖類の性質 3. 二糖類，オリゴ糖と多糖類 4. 脂質の構造と種類，加水分解反応 5. 脂質のはたらき 6. アミノ酸と構造と性質 7. ペプチド結合とタンパク質 8. 核酸（プリン，ピリミジン） 9. リボースの構造 10. リン酸の生化学 11. DNA（1） 12. "（2） 13. "（3） 14. "（4） 15. "（5）		
教科書・参考書等／Textbooks	授業中に資料を配付します。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への参加態度と出席状況を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	積極的な取り組みを期待します。		
キーワード／Keywords	生化学，環境，生態関連物質		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	音楽 A		
担当教員(所属)／Instructor	高島 章悟(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S101610
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	高島 章悟(028-649-5352(研究室直通)またはtakashima@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	高島 章悟(水曜11:00~12:00)		
授業の内容／Course Description	小学校の教員が音楽科の授業を行う際に必要な、音楽の基礎、簡単な楽典、楽器(リコーダー、打楽器など)の奏法などを扱います。また、楽譜を読む練習をしたり歌を歌ったりなどの実技や鑑賞も全体で行います。		
授業の達成目標／Course Goals	実技等の実践を通して、小学校音楽科の授業を行うのに最低限必要な知識、技能の習得をめざします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学校教育教員養成課程の必修科目です。 小学校音楽科の授業を行うための最低限必要な知識、技能の習得をめざす授業です。		
前提とする知識／Prerequisites	小・中学校での音楽経験(＃b1つまでの調号を持つ楽譜を読むことができる など)。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	楽典では、内容の説明の後、問題演習を行います。 打楽器、ソプラノリコーダーの実習は、奏法の確認の後、実技を行います。 歌唱(楽譜を読む練習も含む)やリズム打ちなどは、クラス全員で実習を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 オリエンテーション 第2回 鑑賞(1)、楽典(1) 楽譜とは 第3回 鑑賞(2)、楽典(2) 音符と休符 第4回 鑑賞(3)、楽典(3) 五線と音名 第5回 鑑賞(4)、楽典(4) 拍子の表し方(指揮法) 第6回 鑑賞(5)、楽典(5) 反復記号、強弱記号など 第7回 鑑賞(6)、打楽器(1) 概説 第8回 鑑賞(7)、打楽器(2) タンブリン、トライアングル、カスタネット、すず 第9回 鑑賞(8)、打楽器(3) ウッドブロック、クラベス、マラカス、シェイカー 第10回 鑑賞(9)、打楽器(4) ギロ、カバサ、カウベル、アゴゴー、ヴィブラスラップ、ウィンド・チャイム 第11回 鑑賞(10) 打楽器(5) ボンゴ、コンガ、シンバル、大太鼓、小太鼓、ティンパニ、木琴、鉄琴 第12回 鑑賞(11)、打楽器(6) トーンチャイム、ベル、リコーダー(1) リコーダーの種類、持ち方、構え方など 第13回 鑑賞(12)、リコーダー(2) 左手の練習、右手の練習 第14回 鑑賞(13) リコーダー(3) サミング 第15回 鑑賞(14) リコーダー(4) 派生音		
教科書・参考書等／Textbooks	知っておきたい おとなのための音楽知識 カワイ出版 きれいにうたいましょうソルフェージュ1 ヤマハ リズム練習とソルフェージュ2 全音楽譜出版社 リズムに強くなるソルフェージュ1 ショパン リズムに強くなるソルフェージュ2 ショパン 初心者のリコーダー基礎教本 自由現代社		
成績評価の方法／Evaluation	実技試験(50%)、筆記試験(50%)を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	ソプラノリコーダーを使用します。小学生の時に使用していたもので構いませんが、新たに購入する場合には、いくつかの注意事項がありますので、初回の説明を聞いてから購入してください。 実技能力の向上のために、予習・復習をしっかりと行ってください。		
キーワード／Keywords	鑑賞、楽典、打楽器、リコーダー		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	図画工作 A		
担当教員(所属)／Instructor	本田 悟郎(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S101759
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	図画工作科の内容「表現（造形遊び）」「表現（絵や立体、工作）」「鑑賞」各領域について、実技制作を軸に適宜講義を取り入れて、その教育方法や授業実践の視点、各題材の特性、図画工作科教育の理念などを解説する。		
授業の達成目標／Course Goals	小学校図画工作科の内容について、発達段階に即した理解を深め、創造的且つ児童の個性や主体性に根ざした図画工作の学習を担うことができる能力を身につけることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	小学校図画工作科学習指導の素養を身につけ、実践のための能力を育成する。		
前提とする知識／Prerequisites	教育および図工・美術に関するこれまでの経験を出発点としながらも、さらに、その枠組みを刷新するような学習姿勢を求めたい。		
関連科目／Related Courses	図画工作科教育法		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	実技制作を軸に適宜講義形式を取り入れて授業を展開する。また、個別の制作にグループの活動を連動させ、意見の交換と共有を図る。その他、レポートの作成や発表を行う。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週 ガイダンス(授業計画、授業方法等の説明) 第2週 実践「低学年の表現(造形遊び)」 第3週 実践「低学年の表現(絵、立体、工作)」 第4週 実践「低学年の鑑賞」 第5週 低学年学習指導の課題、レポート発表1 第6週 実践「中学年の表現(造形遊び)」 第7週 実践「中学年の表現(絵、立体、工作)①イメージ」 第8週 実践「中学年の表現(絵、立体、工作)②共同制作」 第9週 実践「中学年の鑑賞」 第10週 中学年学習指導の課題、レポート発表2 第11週 実践「高学年の表現(造形遊び)」 第12週 実践「高学年の表現(絵、立体、工作)①発想・構想」 第13週 実践「高学年の表現(絵、立体、工作)②表現の工夫」 第14週 実践「高学年の鑑賞」 第15週 高学年学習指導の課題、レポート発表3		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：必要資料を配布する。 参考書：『ベーシック造形技法』建帛社、2006年 『形・色・イメージ+これからの図画工作』日本文教出版、2009年 他、参考となる図書や文献は授業時に随時紹介する。		
成績評価の方法／Evaluation	出席とレポート、また、実習形式の授業であるため、取り組みの様子も重視し、総合的に成績を評価する。成績の秀は90%以上、優は80%以上90%未満、良は70%以上80%未満、可は60%以上70%未満。なお、2/3以上の出席がないと単位は取得できない。		
学習上の助言／Learning Advice	本授業は、2年生の受講クラス指定科目です。それ以外の受講希望者の受け入れは図画工作室席数の限りがあるため若干名のみとなり、高年次生を優先します。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	教育学演習Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	青柳 宏(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S176065
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	受講者が各自の問題意識（テーマ）に則して発表をおこない、全体で検討する		
授業の達成目標／Course Goals	教育に関わる諸問題について自ら課題を設定し、原理的に、また複眼的に考えることができる。また、他者と対話しながら、思考を深化させていくことができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学校教育専攻の専門科目であるが、他の科目とは異なり、受講者が自らの研究テーマについて探求し、発表、対話していく。卒業論文作成のための準備段階の学習として位置づけられる。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし		
関連科目／Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	一回に一人の発表者を決めおこなう。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1回：オリエンテーション 2～15回：発表及び検討		
教科書・参考書等／Textbooks	特になし		
成績評価の方法／Evaluation	出席及びレポート内容による		
学習上の助言／Learning Advice	人はそもそもどう生きるべきか、その点から教育を考えたい人はぜひ！！学校教育のイメージに縛られず、哲学、宗教、文学、政治等に関わる多様な視点から教育を見つめ直したいと思っています！！		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	教育心理学演習C		
担当教員(所属)／Instructor	石川 隆行(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S180019
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石川 隆行(【石川隆行】 takayuki-i@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石川 隆行(月曜日 12:10～12:50 事前にメールでのご連絡をお願いいたします。)		
授業の内容／Course Description	卒業論文の研究テーマの探索のために、教育心理学の研究論文を熟読し、その概要を発表すると同時に、発表者または教員の提示する話題について受講生同士で検討します。		
授業の達成目標／Course Goals	主に研究論文や専門の文献を講読し、発表、相互検討することによって個々の論文の内容について理解するとともに、その過程で研究論文の書き方の基礎を学び、さらに各自の卒業論文のテーマについて具体化していくことをねらいとします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学校教育専攻の専門科目であり、教育心理学関係の卒業論文に備えるための授業科目です。		
前提とする知識／Prerequisites	教育心理学関係の専攻専門科目(講義)について「心理統計学」を修得していること。		
関連科目／Related Courses	教育心理学関係の専攻専門科目(講義)について「心理統計学」を修得していること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	心理学関係の文献を分担して読み、毎週担当者が発表したものについて受講生全員で討論します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>具体的な授業計画の詳細は、授業開始時に説明しますので、必ず初回の授業(オリエンテーション)に出席して下さい。</p> <p>第1回オリエンテーション : 授業開始に向けての説明 第2回文献検索について : CiNii、NDL-OPAC 第3回文献収集について : 心理学研究、教育心理学研究 第4回感情に関する文献発表 : 罪悪感 第5回感情に関する文献発表 : 恥 第6回感情に関する文献発表 : 誇り 第7回教育に関する文献発表 : 動機づけ 第8回教育に関する文献発表 : いじめ 第9回教育に関する文献発表 : しつけ 第10回発達に関する文献発表 : 言葉 第11回発達に関する文献発表 : 道徳性 第12回発達に関する文献発表 : 共感性 第13回教育、発達心理学に関する研究計画 : 目的、方法の作成 第14回教育、発達心理学に関する研究計画 : 分析方法の検討 第15回教育、発達心理学に関する研究計画 : まとめと要旨の提出</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	授業の中で必要に応じて指示します。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への参加態度を20%、ならびに授業への貢献度(担当論文、箇所の発表)を80%として評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	本授業科目は、学校教育専攻で教育心理学関係の卒業論文を作成する学生にあっては受講しなくてはならない科目です。受講生皆さんの主体的な参加態度が強く期待されます。		
キーワード／Keywords	教育心理学、発達心理学、文献購読		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	日本文学史（古典）		
担当教員(所属)／Instructor	小林 とし子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S213057
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	小林 とし子(048-251-6341／runko@ae.auone-net.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	上代から中世までの日本文学史を通史的にたどる。		
授業の達成目標／Course Goals	・ 古典文学史に関する基礎的知識を修得する。 ・ 古代の韻文・散文がどのように誕生し、享受されたかを通史的に把握できるようになる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	国語教育専攻の選専攻専門科目の一つとして、中高の国語教員に必要な日本古典文学史の基礎知識を授け、この分野への幅広い興味関心を喚起する。		
前提とする知識／Prerequisites	日本の古代・中世に関する基本的な歴史。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	各時代ごとのテーマに沿って、代表的な作品を取り上げていく。作品の持つ歴史的な意義を、時代背景なども視野に入れながら概説する。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第一回 概要の説明、＜文学の発生＞ウタとカタリ 第二回 平安時代 国風文化の中での文学 第三回 // ウタの発展と展開 和歌文学 第四回 // ウタとカタリの展開 歌物語 第五回 // カタリからモノガタリへ 物語文学（うつば物語、竹取など） 第六回 // 源氏物語 物語の構造 第七回 // 日記文学（更級、蜻蛉、和泉式部など） 第八回 // 枕草子 第九回 // 時代と文化の変化 軍記物 第十回 鎌倉時代 文化と政治の担い手の変化 和歌 第十一回 // 女性の文学 「とはすがたり」他 第十二回 // 男性の文学 徒然草・方丈記など 第十三回 室町時代 和歌から連歌へ 第十四回 // 芸能の発生と展開 能 第十五回 // 物語のその後		
教科書・参考書等／Textbooks	テキストは使わず、毎回プリントで授業を行う。参考テキストは適宜紹介する。		
成績評価の方法／Evaluation	テストによって評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	講義で取りあげる作品は、授業の中ではほんの一部分しか扱えないので、興味のある作品は出来るだけ自分で読んでみることをお勧めする。また、プリントは早めに配布するので、次回までには目を通して内容把握をしていただきたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	イギリス文学演習BⅡ		
担当教員(所属)／Instructor	大野 直美(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S654012
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	大野 直美(ohno8@nifty.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	大野 直美(月曜日 授業終了後 講師控室)		
授業の内容／Course Description	イギリスの文学作品を取り上げます。Reading能力を高め、分析力や洞察力を養います。		
授業の達成目標／Course Goals	教職教育科目なので将来の英語教員の資質向上に向けた指導と実践を行います。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	英国文学を理解するために必要な文化・社会・歴史等の知識を得る方法を学習し、作品に慣れ親しんでいきます。		
前提とする知識／Prerequisites	前期にイギリス文学演習BⅠを履修していること。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	演習形式をとります。テキストの予習、授業で学んだ内容および単語と熟語の復習をしてください。授業への積極的な参加を希望します。電子辞書か英和辞典を持参すること。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 オリエンテーション 授業の詳細を説明します。 第2回～第14回 作品読解 テキストを毎回5ページ位読みます。適宜、映像を取り入れます。 第15回 後期まとめ レポート課題提出		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書: Emily Brontë Wuthering Heights Penguin Readers Person Japan KK 851円 参考書: 『嵐が丘』小野寺健訳 光文社古典新訳文庫		
成績評価の方法／Evaluation	出席状況(30%)、発表(20%)、レポート(50%)などから総合的に判断します。		
学習上の助言／Learning Advice	小説を読む楽しさを知り、英語力もつけていきましょう。文学に興味のある2年生の受講を希望します。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	障害児心理学演習 B II		
担当教員(所属)／Instructor	岡澤 慎一(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S719437
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	<p>言語やコミュニケーション、各種障害がある人との事例研究や実践研究に関する文献あるいは教育実践報告の吟味および種々の障害疑似体験を行なう。そのなかで、受講学生各々が自身の教育観や障害観、科学観などを吟味し、障害がある人への教育的対応において必要となる視点や方法論などについて自分自身の考えを構築し、深めることを目標とする。また、研究を進めていく上で必要となる種々の機材の使い方や記述記録のとり方などについても演習する。</p> <p>また、受講学生の希望に応じて、特別支援学校や特別支援学級、施設や病院、教育相談場面などの見学やそうした場での実践研究を行なうことも可能である。受講学生の主体的な参加を期待する。</p> <p>なお、本演習は、「障害児心理学演習 B I」と内容的に連続するものであり、続けて受講すること。</p>		
授業の達成目標／Course Goals	自身の教育観や障害観、科学観などを吟味し、障害がある人への教育的対応において必要となる視点や方法論などについて自分自身の考えを述べることができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	特別支援教育における実践的省察力の形成・促進を意図した科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	「肢体不自由児心理学」および「重複障害児教育概論」、「障害児心理学演習 B I」を履修済みであること。		
関連科目／Related Courses	「肢体不自由児心理学」および「重複障害児教育概論」、「障害児心理学演習 B I」を履修済みであること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	上記「授業の内容」にあるとおりに行なう。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1 オリエンテーション 2 教員からの話題提供と議論 3 受講学生からの話題提供と議論 4 障害疑似体験 5 機材の使い方 6 記述記録のとり方 7 学校や施設、教育相談などの見学 8 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	特になし。演習の進行状況および受講学生の興味関心に応じて適宜紹介します。		
成績評価の方法／Evaluation	発表内容およびプレゼンテーション(50%)および授業中の発言や発表態度(50%)で総合的に評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	<p>授業中の素朴な意見は歓迎します。わからないところや疑問があるところに関しては遠慮なく積極的に発言してください。</p> <p>なお、本演習は、卒業論文作成に向けた前段階に位置づけられ、3年生での履修が望ましいと考えます。特に実践研究(事例研究)で卒業論文に取り組むことを考えている学生は、早期からの取り組みが必要であり、3年次に履修すること。4年生の卒業論文指導(ゼミ)は、本演習とは別に、木曜の夜間に行ないます。</p>		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	「子どもと教育」探究講座		
担当教員(所属)／Instructor	皆川 純男(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S107508
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	皆川 純男(028-649-5272／minakawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	皆川 純男(月 13:00～16:00)		
授業の内容／Course Description	家庭教育及び幼児教育、小学校教育、中学校教育、高等学校教育、地域社会の教育に関する諸制度や教育の現状と課題について理解を深め、「生きる力」を育む教育の在り方について探究する。		
授業の達成目標／Course Goals	これからの変化の激しい社会の中で子ども達に「生きる力」(確かな学力、豊かな人間性、健康や体力)を育むために、家庭教育、幼児教育、学校教育、地域社会の教育等について理解を深めるとともに、実践的指導力を養成し、教員として求められる資質・能力の向上を図る。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学部専門教育科目の中の選択教職科目の一つである。授業の目標を達成するために、担当教員以外に、幼児教育、小学校教育、中学校教育、特別支援教育、生涯学習に係わる実地指導講師の講義も計画している。		
前提とする知識／Prerequisites	教育実習や学校支援ボランティアなどを通して学校教育現場における教育実践の経験を有していることが望ましい。また、学校の抱える様々な課題等についても一定の認識を有していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	担当教員及び実地指導講師の講義を中心としながら、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れたペアワークや事例研究(場面指導)、資料の読込・分析等をおこない、学生同士が探究し合うかたちで授業を進める。また、教員採用試験に関する情報提供をおこなう。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 ガイダンス、「生きる力」とは？ 第2週 教育関係法規(憲法、教育基本法、学校教育法) 第3週 教育行政の現状と課題(教育委員会制度、教員の服務・人事) 第4週 学習指導の在り方Ⅰ(学習指導要領、教育課程、学習評価) 第5週 学習指導の在り方Ⅱ(授業の具体的な進め方) 第6週 特別活動の意義(学級・HR活動、学校行事、生徒会活動) 第7週 幼児教育・家庭教育の現状と課題 第8週 小学校における指導の実際 第9週 中学校における指導の実際 第10週 高校教育の現状と課題 第11週 特別支援教育の実際 第12週 生涯学習の基本的な考え方 第13週 生徒指導の在り方Ⅰ(生徒指導提要、生徒指導の意義、問題行動への対応) 第14週 生徒指導の在り方Ⅱ(事例研究、場面指導) 第15週 「『生きる力』を育む」ために		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：使用しません。 参考書：授業の中で紹介します。 教材：毎授業ごとに資料を配布します。		
成績評価の方法／Evaluation	出席状況及びペアワーク等における授業参加態度とリフレクション(約70%)、課題レポート(約30%)を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	学校現場の教育活動に参加したり、日頃から学校教育に関する資料や新聞・TV等のマスコミ情報に注意を払い、近年の動向や諸課題等を把握しておくことが望ましい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	教育学演習Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	小野瀬 善行(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S176048
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	<ul style="list-style-type: none"> ・教育制度、教育行政、教育政策、学校経営の諸分野に関する国内外の文献を講読し、受講者同士で議論を深めることにより、様々な見方や考え方に触れ、さらに考察を深めていくというプロセスを体験していく。 ・卒業研究に向けて、研究とは何かを受講生同士で学ぶ契機とする。 		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・教育制度、教育行政、教育政策、学校経営の諸分野に関する専門的な文献を読み、自分なりの考察を深めることができる。 ・上記の作業を通じて、主体的な学習方法と論理的・複眼的な思考法を習得する。 ・受講者間の議論を通じて、さらに自分の思考を深める契機とすることができる。 ・研究成果をわかりやすく相手に伝えることができる。 ・卒業研究に向けて、自分が取り組むべき課題とそれを解明するための方法論について一定の手がかりを得ることができる。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学校教育専攻の卒業論文作成に向けて、研究課題の設定、それを解明するための方法論を習得するための選択必修科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	教育学に関する興味・関心と現実の教育問題に関する課題意識があることにより、学習がより深まると思われる。		
関連科目／Related Courses	教育行政学、教育制度、比較教育で扱うトピックとの関連が深い。教育学演習Ⅰ(小野瀬担当)を履修していることで、さらに学習が深まると思われる。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	各人が興味を持った領域やトピックに関する文献を読み、レジュメをまとめて発表し、その内容について受講者同士で討論、検討を行うという形式に加え、共同で共通のテーマに取り組み、それをまとめて発表する活動を行う。取り上げる文献やテーマは受講生の希望を尊重して決定するが、様々な内容や主張のものを取り上げることができるよう、アドバイスを行う。また、本演習は、卒業研究に取り組むことを念頭に置き、テーマや方法論の設定や小論文の執筆やプレゼンテーションの実施など実践的な取り組みを重視していく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 オリエンテーション 自己紹介と文献の設定 第2回 共通文献講読① 一人の発表と討論ー 第3回 共通文献講読② 〃 第4回 共通文献講読③ 〃 第5回 共通文献講読④ 〃 第6回 グループによる共同調査の検討 第7回 グループによる共同調査の検討 第8回 グループによる共同調査の検討 第9回 グループによる共同調査の検討 第10回 グループによる共同調査の検討 第11回 グループによる共同調査の発表(プレゼンテーション) 第12回 卒業研究に向けた各人の発表と検討(卒業研究計画の検討) 第13回 卒業研究に向けた各人の発表と検討 〃 第14回 卒業研究に向けた各人の発表と検討 〃 第15回 学習のまとめとふりかえり		
教科書・参考書等／Textbooks	適宜、紹介する。		
成績評価の方法／Evaluation	各自やグループにおける活動への取り組み状況(調査・発表)(50%)、討論への参加態度(50%)から総合的に判断する。正当な理由がなく出席が常でない学生の単位は認定しない。		
学習上の助言／Learning Advice	これから教員は、個人の資質向上を図ることはもちろん、様々な問題に協働して立ち向かうことが求められます。この演習を通して、これからの教員に求められる研究能力の一端を共に学んでいきたい。そのためにも日頃から大学での講義や演習、実習に主体的に取り組む、友人との語らいを大切に、教育に関する問題意識を醸成してほしい。		
キーワード／Keywords	教育制度、教育行政、比較教育		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	教育心理学演習 B		
担当教員(所属)／Instructor	澤田 匡人(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S179118
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	澤田 匡人(sawada@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	澤田 匡人(火曜日 12:30～13:30 (できる限り、事前ご連絡の上でご来室ください))		
授業の内容／Course Description	— 卒業論文の研究テーマの探索のために、教育心理学の研究論文を熟読し、その概要を発表すると同時に、発表者または教員の提示する話題について受講生同士で検討していきます。		
授業の達成目標／Course Goals	— 論文や専門の文献を講読しながら議論を重ねることを通じて心理学研究の手法やロジックの立て方を学ぶとともに、その過程で研究論文の書き方の基礎を学び、さらに各自の卒業論文のテーマについて具体化していくことを目指します。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	— 学校教育専攻の専門科目であり、教育心理学関係の卒業論文に備えるための授業科目となります。		
前提とする知識／Prerequisites	— 「心理統計学」を履修済みであることが受講の条件となります。		
関連科目／Related Courses	— 心理統計学／教育心理学実験／教育心理学		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	— 心理学研究に関する概念(統計的な知識も含む)について、担当者がそれぞれ文献を読んで発表する形式で進めていきます。 最終的には「プレ卒論構想」を作成を目指します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	— 具体的な授業の計画の詳細は授業開始時に説明するので、初回には必ず出席してください。 なお、内容は年度によって異なりますが、参考までにこれまで実施してきた演習の内容(計画例を含む)を以下に示します。 #01. ガイダンス(授業概要などの説明) #02. 文献検索の方法(検索サイト／学会誌／学会発表論文集) #03. 文献の収集(心理学研究／教育心理学研究) #04. 社会的感情に関する文献発表① #05. 社会的感情に関する文献発表② #06. 社会的感情に関する文献発表③ #07. 社会的感情に関する文献発表④ #08. いじめに関する文献発表① #09. いじめに関する文献発表② #10. いじめに関する文献発表③ #11. いじめに関する文献発表④ #12. 心理統計学に関する発表① #13. 心理統計学に関する発表② #14. プレ卒論構想の発表① #15. プレ卒論構想の発表②		
教科書・参考書等／Textbooks	— 授業内で適宜指示します。論文が主となります。		
成績評価の方法／Evaluation	— 授業における発表貢献度ならびに提出物などから総合的に判断します。		
学習上の助言／Learning Advice	— この科目は、学校教育専攻で教育心理学関係の卒業論文を作成する学生にあっては受講しなければならない科目です。受講希望者は必ず初回の授業ならびに前期に実施予定の演習ガイダンスに参加してください。		
キーワード／Keywords			

授業科目名(英文名) ／Course Title	歴史学特講 B		
担当教員(所属)／Instructor	高山 慶子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S260209
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	高山 慶子(k_takayama@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	高山 慶子(月曜14:30～16:00)		
授業の内容／Course Description	日本史の史料を実際に読み、そこから何が読み取れるのかを考えることで、歴史に対する理解を深める。		
授業の達成目標／Course Goals	日本史の史料の基礎的な読解力を修得する。また、日本史の史料を実際に読むことで、歴史社会のイメージを豊かにするとともに、歴史への関心を深める。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校「社会」・高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択科目であり、日本史の史料への関心と読解の基礎を養う。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	江戸時代のさまざまなテーマの史料(主に活字)を読み、それをどのように読み解き、そこからどのような歴史がわかるのかを、講義形式で解説する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1～15. 史料講読と解説 宇都宮藩の歴史 江戸町人との関係 大名戸田家の経済事情 宇都宮藩の幕末維新 宇都宮の近代製糸工場 ほか 江戸の女性 女大学を読む 庶民女性の生活 商家の女性 ほか		
教科書・参考書等／Textbooks	プリントを配付する。		
成績評価の方法／Evaluation	レポート(70%)、授業への取り組み(30%)		
学習上の助言／Learning Advice	特になし。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	和楽器		
担当教員(所属)／Instructor	和久 文子(その他)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S410080
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	中学校の教員に必要な器楽の学習においての和楽器の技能の習得を目指し、実技を中心に授業を進める。		
授業の達成目標／Course Goals	中学校音楽科の教員としての実践的能力や教材研究の基礎能力を身に付けるため、器楽実技の実践を通して演奏を学んでいく。ここで学ぶ基礎は将来の教員としての指導の土台となるものである。音楽を表現する上で、また音楽を指導する上での基礎的な事柄を箏、篠笛等の実技を通して身に付ける。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校・高等学校の「音楽」免許を取得するための必修科目で、音楽教育専攻の1分野である(器楽)の科目として意義をもつ。		
前提とする知識／Prerequisites	特に無し。		
関連科目／Related Courses	特に無し。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	伝統的な和楽器である、箏・篠笛の実技を通して、日本音楽の美意識を学ぶ。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週箏オリエンテーション楽器について 第2週箏簡単な楽曲旋律を中心に 第3週箏簡単な楽曲合奏を含めて 第4週箏色々な奏法について 第5週箏調弦と奏法の工夫 第6週箏楽曲(合奏の楽しみ) 第7週箏三味線とその歴史について 第8週箏試験 第9週篠笛オリエンテーション音を出す・呂音 第10週篠笛簡単な楽曲甲音 第11週篠笛わらべうた・抒情歌(指使い) 第12週篠笛〃(息のコントロール) 第13週篠笛〃(リズムにのって吹く) 第14週篠笛長唄(クリアーな音で吹く) 第15週篠笛民謡(ダイナミックに吹く) 第16週篠笛合奏・試験(笛でうたう)		
教科書・参考書等／Textbooks	実践「和楽器」入門しの笛ー(鯉沼廣行)プラスチック製篠笛7竿調子		
成績評価の方法／Evaluation	実技テスト(50%)、実技の達成状況(50%)		
学習上の助言／Learning Advice	音が出るまでに時間のかかる学生に対しては、必ずしも他と進度を合わせる必要のないことを伝え、個別の対応で笛に対する意欲を失わないよう、適切な助言をする。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	発達障害児教育概論		
担当教員(所属)／Instructor	石川 由美子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S702230
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石川 由美子(ym_ishikawa@cc.utsunomiya.ac.jp 教育学部B409)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石川 由美子(前期 金曜日7-8時限 後期 水曜日 11時30分～12時30分)		
授業の内容／Course Description	現在一般の小学校・中学校に知的に障害を伴わない高機能自閉症、アスペルガー症候群、LD、ADHDとが約6.3%存在するといわれています。共生社会を目指す現代の学校教育には、彼らの障害特性の理解と支援のあり方を学習することは極めて重要であると考えられる。 本講義は、発達障害当事者のライフストーリーを読み解くことまた、今日的に行われている支援の現状を学ぶことで、発達障害の特性理解と支援の方法について考察を深める。		
授業の達成目標／Course Goals	1. これまでの特性理解の概念と新たな特性理解の概念について知ることができる。 2. 発達障害それぞれの特性理解ができる。 3. これまでの支援方法や技法を知ること、発達障害に対するキャリア形成的観点からの教育の方法を考えることができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	本科目は特別支援学校の資格を取得するための特別支援教育に関する専門教育科目に位置づけられている。		
前提とする知識／Prerequisites	発達心理学や教育心理学的な領域の知識はあるほうが望ましい。		
関連科目／Related Courses	特別支援教育基礎論, 知的障害児心理・生理・病理		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	小集団グループで発達障害当事者のライフストーリーからの特性理解とこれまで言われてきた特性理解との比較と検討を行い、討議する。 前述の学習を踏まえ、文献を通して現在行どのような支援が発達障害児、者に行われているのかを知り、彼らのキャリア形成を視野に入れた教授・学習のあり方を検討・討議する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. オリエンテーション&発達障害とは 2. 発達障害児のこれまでの特性理解と新たな特性理解の視点：発達の連関と機能的連関を中心に 3. 当事者のライフストーリー① 4. 当事者のライフストーリー② 5. 当事者のライフストーリー③ 6. 共同学習の成果発表と討議① 7. 共同学習の成果発表と討議② 8. 発達障害児の新たな特性理解を視野に入れた支援の方向性：ASDの発達の連関と機能的連関射程に入れた教授・学習の観点より 9. 発達障害児への支援① 10. 発達障害児への支援② 11. 発達障害児への支援③ 12. 共同学習の成果発表と討議① 13. 共同学習の成果発表と討議② 14. 特性理解と支援について(文献検討) 15. 特性理解と支援について(文献検討)&まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	授業中に適宜、指示する。		
成績評価の方法／Evaluation	事前学習課題、レポート課題、共同学習への参加度(発表資料、発表、討議など)		
学習上の助言／Learning Advice	事前に示す資料については、個人的にしっかりと読み込んでおく必要があります。		
キーワード／Keywords	発達障害 特性理解 キャリア形成的,生涯発達の視点からの教授・学習		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	古典講読演習（漢文）		
担当教員(所属)／Instructor	荒井 礼(その他)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S205502
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 1, 火/Tue 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	荒井 礼(e-mailや口頭で事前に予約してください。)		
授業の内容／Course Description	句読点のない中国古典（白文）の読解力をつけると同時に、本文校訂の方法を習得する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文学の魅力と意義を理解する。 ・句読点のない中国古典（白文）を読解するための基礎的な知識と方法を修得する。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校・高等学校の「国語」免許を取得するための選択必修科目であり、句読点のない中国古典（白文）の読解力を育成する。高校1種免許を取得する者は必修。		
前提とする知識／Prerequisites	「漢文学概説」を受講済みであることを前提とします。 （「漢文学概説」のプリントを復習しておいてください。）		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	あらかじめプリントを配布しますので、それを基にして漢詩・漢文の読解をしてもらいます。発表者は、訓読・語釈・現代語訳・疑問点などをレジュメとしてまとめ、発表してもらいます。発表者以外の方にも、毎回意見を求めますので、必ず予習をしてください。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週 ガイダンス（授業の進め方） 第2週 模擬演習－李白「静夜思」を読む－ 第3週～第6週 唐詩を読む 第7週～第9週 唐宋八大家の散文を読む 第10週～第12週 日本漢文を読む 第13週～第15週 文学理論書を読む （第4週以降、具体的にどのような作品を読むかは参加者と協議した上で決定します）		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：指定しない。ただし漢和辞典を毎回持参すること。電子辞書は不可。 参考書：適宜紹介します。また、図書館等を活用して各自見ておいてください。 教 材：特に指定しません。		
成績評価の方法／Evaluation	授業態度（演習発表、予習、発言等）（60％）、レポート（40％）を総合して判断します。		
学習上の助言／Learning Advice	作品の読み方には正解がありません。他人の意見に耳を傾けるだけでなく、積極的に発言をして、古典を読む楽しさを見つけて下さい。また、訓読は練習すれば上達しますので、より多くの作品を読むことを心がけて下さい。楽しくやりましょう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	法学特講A		
担当教員(所属)／Instructor	黒川 亨子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S252650
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 1, 火/Tue 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	黒川 亨子(メールアドレス kurokawa@cc. 電話番号(内線) 5285)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	黒川 亨子(前期:水曜10:30~11:30 後期:水曜14:30~15:30 (事前にメールでアポを取ってください))		
授業の内容／Course Description	刑法の講義を行う。刑法とは、犯罪と刑罰について定める法律である。前半の講義で刑法総論(全ての犯罪類型に共通する成立要件)を、後半の講義で刑法各論(個々の犯罪類型に固有の成立要件)を取り上げる。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・刑法の基本的な概念や理論を理解すること ・実務の現状や問題点を批判的に考察できる力を修得すること ・法学の議論には、具体的争点に対して複数のアプローチや解決の方向があることを理解し、それぞれの立場から最も説得的な議論を組み立てられる力を養うこと 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学校教育教員養成課程:高等学校「公民」の免許を取得するための選択科目である。社会科教育専攻の1専門分野である「法学」に関する専門科目の発展編として位置づけられる。総合人間形成課程:地域公共領域の1専門分野である「法学」に関する専門科目の発展編として位置づけられる。なお、高等学校「公民」の免許を取得するための選択科目でもある。		
前提とする知識／Prerequisites	「法学概論」の履修を前提とする。		
関連科目／Related Courses	「法学概論」および「法学特講B」		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式で行う。毎回配付するレジュメに従って講義をすすめる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 ガイダンス、刑法を学ぶ意義 第2回 刑法総論(1)刑法の基本原則、刑法の適用範囲 第3回 刑法総論(2)犯罪論の体系、行為論 第4回 刑法総論(3)構成要件 第5回 刑法総論(4)違法性 第6回 刑法総論(5)責任 第7回 刑法総論(6)未遂、共犯 第8回 刑法総論(7)罪数論、刑罰論 第9回 刑法各論(1)個人的法益に対する罪①一生命・身体に対する罪 第10回 刑法各論(2)個人的法益に対する罪②一自由・プライバシー・名誉に対する罪 第11回 刑法各論(3)個人的法益に対する罪③一財産に対する罪 第12回 刑法各論(4)社会的法益に対する罪①一公共安全に対する罪 第13回 刑法各論(5)社会的法益に対する罪②一公共の信用に対する罪・風俗に対する罪 第14回 刑法各論(6)国家的法益に対する罪一国家の作用に対する罪 第15回 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	最新版の六法(ポケット六法(有斐閣)またはデイリー六法(三省堂))を毎回持参すること。レジュメや資料は、こちらで用意し配付する。 教科書:山口厚『刑法第3版』(有斐閣、2015年)を指定する。 参考文献:西田典之 他編『刑法判例百選I 総論 第7版』有斐閣(2014年) 西田典之 他編『刑法判例百選II 各論 第7版』有斐閣(2014年)		
成績評価の方法／Evaluation	学期末試験(論述式)で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	刑法学は、法学の中でも特に抽象的で難解だとされる分野である。できるだけ具体的な事例を取り上げながら講義をすすめるので、安心して受講されたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	生物科学		
担当教員(所属)／Instructor	上田 高嘉(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 理科教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S355005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 1, 火/Tue 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	生物学の入門的な内容で、社会的に話題となる生物学的諸問題について議論できる一般的知識、考え方を身につけていただく程度である		
授業の達成目標／Course Goals	科学技術の進歩に伴って世の中は目まぐるしく変化し、混沌としている。そんな中で人間とは何かをより深く知ることが大切である。生物学はその大きな助けになるように思える。本講義の目的は、生命現象を理解する上の基礎的情報を提供することにある。単なる知識の積み重ねでなく、自分なりの考えを身につけていただきたい。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	教科に関する知識及び指導法を習得し、より深く理解する		
前提とする知識／Prerequisites	前提科目は特に必要ないが、物理学、化学、地学等と関連させていけば論理的思考が膨らむことだろう。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義が中心であるが、身近な問題を取り上げて議論していただくことも考えている。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. 生命の誕生と生物の進化 2. 動物の行動 3. ウイルスについて 4. 性について 5. 生命工学		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は指定せず、必要に応じて資料を配付する。参考書はその都度紹介する。		
成績評価の方法／Evaluation	試験(およそ60%)、レポート(およそ10%)、出席状況(およそ30%)を総合評価する。聴講態度を考慮することもある。		
学習上の助言／Learning Advice	生物学に少しでも興味をもっていただけるように努力したい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	生命科学		
担当教員(所属)／Instructor	井口 智文(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S371302
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 1, 火/Tue 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	井口 智文(inokuchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	井口 智文(月) 10:30~12:00 AM 井口研究室 (左記以外はe-mailで予約してください)		
授業の内容／Course Description	生物分野の遺伝学や分子生物学の内容を解説する形の講義である。特に、生命の根幹に係ると考えられる「遺伝子」について、遺伝現象との関係を含め、説明する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生物で扱う、遺伝学領域の内容を正しく理解する。 ・分子生物学の基礎的内容を正しく理解する。 ・上記の内容を正確に説明できるようになる。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	高等学校の「理科」の免許を取得するための選択科目である。理科教育専攻の1専門分野である「生物学」、特に遺伝学や分子生物学に関する基礎的内容を取り扱い、この分野への幅広い興味関心を喚起する。		
前提とする知識／Prerequisites	受講資格は特にないが、高校生物(特に遺伝分野)の内容に目を通しておくことを望む。		
関連科目／Related Courses	基礎の生物科学」を受講しておくことが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	基本的には必要なプリントを配布し、講義形式で授業を進める。予習と復習については、高校生物の教科書や図説の関連項目について、良く読み理解するようにすると良い。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回DNAと遺伝子 第2回遺伝子研究の歴史 第3回RNAの合成(転写) 第4回蛋白質の合成(翻訳) 第5回DNAの複製 第6回遺伝の法則(1) 優性の法則、分離の法則 第7回遺伝の法則(2) 独立の法則 第8回色々な遺伝(1) 不完全優性 第9回色々な遺伝(2) 細胞質遺伝 第10回遺伝子と染色体 第11回遺伝子発現の調節(1) 原核生物 第12回遺伝子発現の調節(2) 真核生物 第13回遺伝子発現と発生 第14回遺伝子研究とその応用(1) 塩基配列決定法 第15回遺伝子研究とその応用(2) クローニング		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：特にありません。 参考書：ニューステージ 新生物図表(浜島書店編集部 編集、浜島書店) やさしい基礎生物学(南雲保 編集、羊土社) 生命科学のための基礎シリーズ生物(大島泰郎 監修、実教出版) 細胞の分子生物学 第3版(中村桂子他、Newton Press) 教材：必要に応じてプリント等を配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	学期末試験結果(70%)、授業時の課題(30%)を総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	事前に「遺伝子」に対する疑問点を考えるなど、能動的な姿勢で授業にのぞんでほしい。		
キーワード／Keywords	学校教育教員養成課程、 生物、 生命		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	中等家庭科教育法Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	良 香織(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S564114
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 1, 火/Tue 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	本授業では、中学校家庭科の指導案作成方法や教材開発の方法について学び、模擬授業を行う。授業観察、授業評価、授業後の意見交換も併せて行い、実践力を培うことを目指す。		
授業の達成目標／Course Goals	1. 中学校家庭科学習指導案（1時間）を作成できる。 2. 1時間の模擬授業ができる。 3. 模擬授業の観察、授業評価、意見交換ができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中等教育の家庭科の位置づけと対応。		
前提とする知識／Prerequisites	自らの小中高の家庭科の学習経験をふりかえる、生活における多様な経験		
関連科目／Related Courses	自らの小中高の家庭科の学習経験をふりかえる、生活における多様な経験		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	・本教科に関する教材化の事例等を提示しつつ、実践的な教材化の力、授業づくりの力がつくよう配慮していく。 ・個人または小グループによる討論、ワーク、実験・実習、課題研究・発表等を適宜行なう。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1)オリエンテーション（アイスブレイク、授業の計画、方法について、講義に関する簡単なアンケート） 2)家庭科の内容研究 3)家庭科における領域の特徴 4)家庭科における要点と課題 5)授業論研究 6)現場実践報告 7)授業実践の記録 8)教科書分析 9)指導案から実践にむけての課題 10)教材の紹介 11)教材づくりのポイント整理 12)教材づくりに向けて資料収集 13)教材の報告会と検討 14)教材化の意義に関するディスカッション 15)まとめにかえて		
教科書・参考書等／Textbooks	◆教科書： 佐藤文子・川上雅子共著『家庭科教育法（改訂版）』、高陵社書店 『技術・家庭科：家庭分野』（中学校教科書）、開隆堂 『家庭総合』（高校教科書）、開隆堂 『家庭科ACCESS資料集（食品成分表付き）』、開隆堂 ◆参考書： 鶴田敦子・伊藤葉子編著、『授業力UP家庭科の授業（第2版）』、日本標準 『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』 『中学校学習指導要領解説編』、『高等学校学習指導要領解説編』 ◆教材： 資料を適宜配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	出席・授業考察文（40%、但し出席2/3以上）、製作や教材研究発表（40%）、期末テスト（20%）。60%以上合格。		

学習上の助言／Learning Advice	<p>・「講義を受ける」と考えるのではなく、積極的に参加し、自分で考えること。そのプロセスを評価します。</p> <p>・家庭科は、生活をする上での諸問題についての学びを通して、社会と自らの生活のつながりを考え、多様な生き方があることを知り、どう生きるかということを子どもたち自身が考える教科です。学生の皆さんは、今後、教育に関わる者として、1つの物事を多面的に見ることができるようになってほしいです。「当たり前」「自然」と思ってきたことを改めて社会科学的に考えてみる。生きること全般に関する事象を様々な視点から考える＆様々な情報を集める。それによって本当の意味での「想像力」が身に付くのではないのでしょうか。学生時代、そして社会人になってからも継続してそういう経験を積み重ねることは、子どもたちに向き合う時にとても重要になるのではないかと思います。焦らずに、積み重ねていきましょう。</p>
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) ／Course Title	社会教育計画Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	佐々木 英和(教育学研究科 修士課程)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S818501
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 1, 火/Tue 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	佐々木 英和(sasakih@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	佐々木 英和(火曜日11:00-12:00)		
授業の内容／Course Description	社会教育主事有資格者にふさわしい実力を着実に身につけるために、応用的・実践的な授業を進め、学生が自らを研鑽する中で、「生涯学習まちづくり」における有効な手法として社会教育計画を作成することの意義を学んでもらう。		
授業の達成目標／Course Goals	実際に社会教育主事として働く場合には、どのような力量や心構えが必要かを自覚し、それを実行・実現できるようにする。また、社会人基礎能力の習得も視野に入れて、授業を進める。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	社会教育計画Ⅱは、大学の社会教育主事養成コースにおける教育内容のうち、「地域社会と社会教育」「学習情報提供と学習相談」「社会教育と広報・広聴」「社会教育の評価」について深めることを目標としたものである。		
前提とする知識／Prerequisites	社会教育計画Ⅱは、社会教育計画Ⅰと併せて、社会教育主事の資格取得のための必修科目である。原則として、生涯学習概論・生涯学習社会論・社会教育計画Ⅰを単位取得しておくこと。		
関連科目／Related Courses	社会教育計画Ⅱは、社会教育計画Ⅰと併せて、社会教育主事の資格取得のための必修科目である。原則として、生涯学習概論・生涯学習社会論・社会教育計画Ⅰを単位取得しておくこと。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	最初は、参加体験型学習が効果的に行われるための基礎的な授業を、講師主導で進めていく。その後は、学生主導型で積極的に進めざるを得ない構成にする。指定されたテーマについて学習した成果をグループ発表し相互評価し合うことが要求される。また、司会として発表全体を調整する機会も設ける。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 オリエンテーションおよび履修選抜 第2週 創造性開発トレーニング&コミュニケーション・トレーニング 第3週 グループづくり&発表順番決め 第4週 グループ発表(生涯学習概念)&講話 第5週 グループ発表(地域参画力)&講話 第6週 グループ発表(教育概念)&講話 第7週 グループ発表(教育技法)&講話 第8週 グループ発表(生涯学習啓発資料)&講話 第9週 グループ発表(生涯学習プラン)&講話 第10週 グループ発表(生涯学習プログラム)&講話 第11週 グループ発表(生涯学習テクニック)&講話 第12週 個人1分プレゼンテーション&講話 第13週 啓発資料コンペ&講話 第14週 総括および補足(全体コミュニケーションなど) 第15週 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	①鈴木眞理・佐々木英和編『社会教育と学校』学文社、2003年 ②倉内史郎・鈴木眞理編『生涯学習の基礎』学文社、1998年		
成績評価の方法／Evaluation	出席状況が整っていることが、単位取得のための必須条件である(50%)。他には、グループ活動、グループ成果物、個人プレゼンテーション、最終レポートなどの質に対する評価(50%)により加点する。		
学習上の助言／Learning Advice	単に机上の理論の表面的な習得で終わることのないよう、授業時間以外にもグループ活動を行わざるをえないなど、多大な学習時間を要するような授業構成にする。これに対する覚悟ができていない人、このような状況ゆえに魅力を感じる人の受講を希望する。なお、初回の授業で履修希望アンケートを配布し、それを提出してもらった人を対象として受講者を決定するので、やむをえない理由で初回に出席できなさそうな人は、事前に担当教員まで連絡すること。		
キーワード／Keywords	生涯学習。社会教育。学校教育。コミュニケーション。自己表現。		
備考／Notes	人数次第で、受講制限をする場合があります。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	技術学実験実習Ⅳ		
担当教員(所属)／Instructor	内海 能亜(その他)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S610005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 2, 火/Tue 3, 火 /Tue 4	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	機械の基礎となる原理を簡単な実験や演習を通してその理解を深める。題材は中学校等で実施されているものを取り上げ、講義と機械に係る教材製作を実施する。機械について基礎的な理論や概念的なものではない実質的な技術を習得し、機械に関する技術指導に必要な説明・支援方法を学び、教員としての資質と実践力を高めることを目指す。		
授業の達成目標／Course Goals	技術教育として必要な実験方法や実験機器の扱いを学び、教材開発法を修得することを目指す。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校(技術)、高等学校(工業)の教員免許状を取得するための科目です。技術教育として必要な実験方法や実験機器の扱いを学び、教材開発法を修得することを目指す。		
前提とする知識／Prerequisites	技術学実験実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、プログラミングⅠ、Ⅱや機械工学Ⅰ、Ⅱ、計測工学、エネルギー変換工学など技術教育専攻で開講している講義すべてにかかわりがあり、また日常生活の体験や経験が必要である。		
関連科目／Related Courses	技術学実験実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、プログラミングⅠ、Ⅱや機械工学Ⅰ、Ⅱ、計測工学、エネルギー変換工学など技術教育専攻で開講している講義すべてにかかわりがあり、また日常生活の体験や経験が必要である。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	グループになって演習、実験、製作を行う。課題や報告書を定期的に提出する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1回：機械技術の基礎(実験実習)に関するガイダンス、機械の概要と背景、社会とのつながりと役割 2回：資源とリサイクル、エネルギーを含めた環境問題および内燃機関について 3～5回：ガソリンエンジンの分解と組立てとバイオエタノール対応型内燃機関への改造および排 6回：機械製作のための基礎的な機械材料・力学、材料の強さについて 7回：実験装置の製作と測定法、梁のたわみ実験 8回：各種機械要素と簡単な機構学について 9回：教材としての機械要素(歯車およびカム)の製作および各種リンク機構の製作 10～11回：各種機械要素を利用した教材用ロボット製作 12回：計測のためのセンサーについて、計測制御のためのプログラミングと動作確認 13回：安全教育(ヒヤリハットの原因とその対策)および教材開発のための機械的エネルギー(エネルギー変換) 14～15回：教材としての風車発電機の製作、仕事・機械的エネルギー・機械効率・動力の出力方法とその測定		
教科書・参考書等／Textbooks	特になし		
成績評価の方法／Evaluation	小テスト、レポート提出の上、課題に対する理解、内容を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	1. 実験実習はその結果をレポート(報告書)の形にまとめて、提出することにより終了となります。レポート作成は、自分が実験内容をどの程度理解しているか知り、また、論理的な思考力を養うことにもつながる大切なものです。 2. レポートは各テーマ終了後1週間以内に提出することを義務付けます		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	体育B		
担当教員(所属)／Instructor	茅野 理子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S101832
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	体育Aを基礎とした上で、さらに陸上運動、体づくり運動、ボール運動、表現運動における発展的な技能とその指導法を学ぶ。また、小学校で扱われる保健の内容についても学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	本授業では、体育Aを基礎におき、さらに陸上運動、体づくり運動、ボール運動、表現運動の発展的な技能とその指導法を習得し、それらの実践的指導力を身につけることを到達目標とする。また、小学校で扱う保健の学習内容を理解することができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	本授業は、学校教育教員養成課程専門教育科目の選択科目であり、小学校における体育指導の専門的知識と技能を学び、実践的指導力を体得することを目標とする。		
前提とする知識／Prerequisites	受講の前提としての知識・経験は問わない。		
関連科目／Related Courses	受講の前提としての知識・経験は問わない。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	陸上運動、体づくり運動、ボール運動、表現運動、保健について、ローテーションで授業の実際を実践することにより、有効かつ実践的な指導法への理解につなげる。授業全体をとおして、ペア学習やグループ学習などの学習形態を主体とする。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1. オリエンテーション 2. かけっこ・短距離走 3. リレー 4. 走り高跳び 5. ボール運動（低学年） 6. ボール運動（高学年） 7. ボール運動（ソフトバレーボール） 8. 表現運動（リズムダンス） 9. 表現運動（フォークダンス） 10. 表現運動（表現） 11. 保健領域の指導①（位置づけ、学習内容、教材等） 12. 保健領域の指導②（指導方法、連携等） 13. 保健領域の指導③（まとめ） 14. 模擬授業 15. 模擬授業		
教科書・参考書等／Textbooks	小学校学習指導要領解説体育編（平成20年8月）および配付資料		
成績評価の方法／Evaluation	授業への参加態度（60％）、レポート・実技テスト等（40％）により総合的に評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	実技科目であるため、本授業では、授業への参加態度を重視します。体育が不得意であっても、教師として子どもたちの支援ができるように、その指導法を習得する努力ができる学生を望みます。また、そのような課題意識をもって受講してください。 なお、授業計画上、一部変更の可能性があります。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	生徒指導・進路指導		
担当教員(所属)／Instructor	澤田 匡人(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S107303
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	澤田 匡人(sawada@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	澤田 匡人(火曜日 12:30～13:30 (できる限り、事前ご連絡の上でご来室ください))		
授業の内容／Course Description	<p>—</p> <p>児童・生徒の健全な発達の促進と、彼らの充実した学校生活を援助するための教育活動に役立つ理論と方法を「学習指導」「適応指導(教育相談を含む)」「進路指導」などの諸側面に大別した上で、個別の具体的なテーマについてそれぞれ解説していきます。</p>		
授業の達成目標／Course Goals	<p>—</p> <p>生徒指導・進路指導(生徒のよりよい発達の促進と、充実した学校生活を援助するための教育活動)に関するさまざまな現象の理解を深めます。</p>		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	<p>—</p> <p>教員になった場合に、学校教育で必要とされる生徒指導・進路指導の基礎となる考え方や関連する現象についての知識を網羅的に習得することを目指します。</p>		
前提とする知識／Prerequisites	<p>—</p> <p>特にありません。</p>		
関連科目／Related Courses	<p>—</p> <p>教育心理学／教育相談</p>		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	<p>—</p> <p>生徒指導・進路指導に関連した具体的なテーマについて「1話完結型」の講義を行います(但し、テーマに応じて2～3回に分かれる場合もあります)。</p> <p>授業の方法はスライドを用いた講義となります。</p> <p>授業の展開は、全てのテーマに共通した三部構成となります。</p> <p>①導入：学生からの感想・質問の紹介 ②本編：概要の説明 ⇒ 概念の定義 ⇒ 各論 ③総括：まとめ</p>		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>#01. 生徒指導・進路指導の基礎(ガイダンス：生徒指導・進路指導の定義・意義)</p> <p>#02. 生徒指導の理論①(認知の発達理論：感覚運動的段階／表象的思考段階)</p> <p>#03. 生徒指導の理論②(人格の発達理論：ライフサイクル説／アイデンティティ)</p> <p>#04. 生徒指導の理論③(道徳性の発達理論：役割取得の発達／自律的道徳／正義推論)</p> <p>#05. 生徒指導の理論④(学習指導の理論Ⅰ：記憶の二重貯蔵モデル／忘却の理論)</p> <p>#06. 生徒指導の理論⑤(学習指導の理論Ⅱ：知能の定義と理論／知能検査の種類)</p> <p>#07. 進路指導の理論Ⅰ(進路指導の理論Ⅰ：自己効力とコンピテンス／社会的学習理論)</p> <p>#08. 進路指導の理論②(進路指導の理論Ⅱ：自己決定／アンダーマイニング効果)</p> <p>#09. 生徒指導の方法①(適応指導：不登校の実態／不登校児童・生徒への対応)</p> <p>#10. 生徒指導の方法②(適応指導：いじめの定義／いじめと攻撃行動)</p> <p>#11. 生徒指導の方法③(適応指導：いじめの構造／いじめ関係者への対応)</p> <p>#12. 生徒指導の方法④(適応指導：非行の実態／犯罪少年の分類／非行の臨床)</p> <p>#13. 進路指導の方法①(進路指導の方法Ⅰ：汎用的能力を育てる進路指導)</p> <p>#14. 進路指導の方法②(進路指導の方法Ⅱ：進路指導の全体計画及び年間指導計画の作成)</p> <p>#15. 生徒指導・進路指導のまとめと到達度の確認</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	<p>—</p> <p>特にありません。</p>		
成績評価の方法／Evaluation	<p>—</p> <p>到達度(授業で解説した専門用語に関する理解度)を確認するための課題から評価します(基準：100%)</p>		
学習上の助言／Learning Advice	<p>—</p> <p>原則として、初回(ガイダンス)を欠席した学生の受講は認めません。</p> <p>—</p> <p>講義は線形プレゼン(Keynote)および非線形プレゼン(Prezi)を用いて行われますが、そのコンテンツを配布することはありません。メモを取る時間を考慮して授業を進めていきますので、デジカメや携帯での撮影は厳禁とします。</p> <p>—</p> <p>教員採用試験(教育心理学に相当)に出題されやすいテーマを積極的に扱っていく予定です。今後の学習に役立ててください。教授対策を兼ねた聴講も歓迎致します。</p>		

キーワード／Keywords	
備考／Notes	<p>【履修登録時の注意事項】</p> <p>この科目の受講を希望する平成22年度以前の入学者は、このシラバスの時間割コードではなく旧コード「S107310」で履修してください。1～4年生は、このシラバスに記載されている「S107303」で登録してください。これを間違えると卒業できなくなる可能性があります。</p> <p>農学部・国際学部・工学部の平成22年度以前の入学者で、中・高校の教員免許状を習得を希望する者は、前期に開講される同名科目を履修しても免許状が習得できません。</p> <p>地域デザイン科学部の学生は、前期に開講される同名科目ではなく、こちらを履修してください。</p>

授業科目名(英文名) ／Course Title	生徒指導・進路指導（中・高校を中心とする）		
担当教員(所属)／Instructor	澤田 匡人(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S107310
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	澤田 匡人(sawada@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	澤田 匡人(火曜日 12:30～13:30 (できる限り、事前ご連絡の上でご来室ください))		
授業の内容／Course Description	<p>【履修登録時の注意事項】</p> <p>この科目の受講を希望する平成22年度以前の入学者は、このシラバスの時間割コード「S107310」で履修してください。それ以外の1～4年生は、このシラバスの時間割コードではなく、必ず「S107303」で登録してください。これを間違えると卒業できなくなる可能性があります。</p>		
授業の達成目標／Course Goals	—		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	—		
前提とする知識／Prerequisites	—		
関連科目／Related Courses	—		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	—		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	—		
教科書・参考書等／Textbooks	—		
成績評価の方法／Evaluation	—		
学習上の助言／Learning Advice	—		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	教育方法学		
担当教員(所属)／Instructor	久保田 善彦(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S156002
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	子どもたちがより深く学ぶことのできる学習環境を実現するために、学習環境デザインの基本的な考え方と改善のサイクルを習得する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境デザインの主要な概念について、説明することができる。 ・授業の中でどのような学びが生じていたのか、グループで分析することができる。 ・学習環境デザインの視点から、グループで授業を再デザインすることができる。 ・学習環境デザインの視点を生かして、グループで模擬授業を実施することができる。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学部専門教育科目の中の選択教職科目の1つである。		
前提とする知識／Prerequisites	前提とする知識や経験は特に問いません。		
関連科目／Related Courses	前提とする知識や経験は特に問いません。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教科書は使用せず、毎回用意するレジュメに沿って授業を進める。また、講義で扱ったテーマ・内容に関しての小レポートを、授業の最後の時間を使って作成する。これは質問票および出欠確認を兼ねる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1, オリエンテーション ・仲間作り 2, 休講 3, 教えることと学ぶこと ・小学校1年生の算数と国語から考える 4, 思考を外に出そう(1) ・マップ型(概念地図, マインドマップ, イメージマップ) ・フィンランドの授業を体験しよう(カルタ) 5, 思考を外に出そう(2) ・運勢ライン法 ・スパーボールで授業を考える。 6, 子どもの作品を見取ろう ・真正な評価について(ポートフォリオ・パフォーマンス) ・子どもの作品を見取る 7, 協調学習(1) ・足場かけ ・知識構成型ジグソー学習法(おてがみ) 8, 協調学習(2) ・学びの共同体の基本構造 ・テクノロジーの活用(XingBoard等) 9, 授業ビデオを見よう(1) 10, 授業ビデオを見よう(2) 11, ワークシートを作製しよう 12, 指導案を検討しよう 13, 模擬授業をしよう(1) 14, 模擬授業をしよう(2) 15, 再度模擬授業をしよう		
教科書・参考書等／Textbooks	特になし		
成績評価の方法／Evaluation	レポート, 出席状況等の総合評価とする。		
学習上の助言／Learning Advice	・授業中の子どもの学びを分析する力が身につきます。また、それらをもとに授業改善を進める力を養います。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	地理学概論 B		
担当教員(所属)／Instructor	奥井 正俊(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 社会科教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S251501
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	系統地理学の輪郭を講義する。地理学の諸分野で用いる種々のモデルの概要と適用事例を紹介するとともに、なぜ現実世界・諸地域をモデルで見るかについて一緒に考える。		
授業の達成目標／Course Goals	地理学における理論・法則・モデルの役割を理解し科学的思考力を身につける。これにより、地理学の研究力を養う。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学社会、高校地歴の免許取得聴講科目(必修)。社会科教育専攻の専門分野である地理学、とくに系統地理学の入門編としての意義を有する。		
前提とする知識／Prerequisites	高校地理AまたはBを履修済みであることが望ましいが、特別の専門知識を必要とするものではない。		
関連科目／Related Courses	地理学概論 A、地誌学概論 A、地誌学概論 B。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	ごく普通の講義形式の授業であるが、若干の机上実習をとり入れる。授業時間外の学習(1回の授業につき30分間)では、専門用語の意味をよく調べること。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	地理学の課題と学問的体系を概観したのち地理学的モデルの役割に言及し、次いで自然・人文地理学の両分野で用いる主要モデルをとりあげ、各モデルの概要、適用事例、有効性、問題点と限界、展望などを明らかにさせる。地形輪廻モデル、水流次数モデル、気候地域モデル、チューネン孤立国モデル、ハフ商圈モデル、重力モデル、都市地域構造モデル、中心地モデルその他を予定している。初回の授業中に講義目次を板書する。		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書の代わりにプリント(全40枚程度)を随時配布する。その他の教材は使用しない。		
成績評価の方法／Evaluation	考査は平素の履修状況・レポート(100%)により行う。		
学習上の助言／Learning Advice	地理学においてなぜモデルなのか、という根本的問題について考えるとともに、学習の成果を中学社会地理分野や高校地歴の教科にどう役立てるか自発的に考えてもらいたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	数学研究セミナーAⅡ		
担当教員(所属)／Instructor	酒井 一博(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S327001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	複素数や複素関数は単に数学的に魅力があるだけではなく、自然現象を、数学的に説明したり表現したりするときに非常に有効である。この講義では、複素数や複素関数の性質、複素関数の微分積分法について学習し複素数の世界における解析学に親しむことを目標とする。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・複素積分の意味がわかり、複素関数を積分できる。 ・コーシーの積分定理が応用できるとともに、正則関数を級数展開できる。 ・留数定理を応用し積分できる。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校・高等学校の「数学」免許を取得するための必修科目であり、数学教育専攻の専門分野の1つである「解析学」における基礎・基本である。本授業では、主に複素関数の微分・積分についての基本的な知識・技能を習得する。一方、総合人間形成課程の専門領域の学習を深めていく上で、数学は基本的な知識の1つである。また、社会における普遍的・今日的課題の考察や課題の解決に向けたプロセスには、論理的・科学的な思考力など、数学の学習を通し培われる素養が必要である。本授業では、数学の基本的な知識を習得するとともに、素養を養う。		
前提とする知識／Prerequisites	前期開講の「解析学Ⅰ」の履修		
関連科目／Related Courses	前期開講の「解析学Ⅰ」の履修		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	複素数を変数とする関数について考察し、その微分積分に関する基本的な問題について演習を行う。後半では簡単な複素力学系に触れ、力学系から作られる複素平面上のフラクタル集合についてコンピュータ支援による解説を試みる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. オリエンテーション(授業計画、講義と演習の方法、成績評価の方法) 2～3. 複素積分 4～6. コーシーの積分定理・公式 7. テイラー展開 8. 中間試験 9. ローラン展開、留数定理 10. 留数定理の応用 11～12. 複素力学系 13～14. ジュリア集合 15. まとめ 16. 期末試験 ただし履修者の理解状況に応じて内容・順序を変更することがある。		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：立花俊一 他 著エクササイズ複素関数(共立出版) 参考書：デニー・ゲーリック著、「カオスとの遭遇(日本語)」, 産業図書, 1995.		
成績評価の方法／Evaluation	主に中間試験・期末試験の得点で評価(90%)。授業中は数多くの演習も行いますので、出席数も評価対象とします(10%)。		
学習上の助言／Learning Advice	教科の実力が十分にあることが、教員には必要不可欠。授業では厳密な理論よりもイメージを大切に授業・演習を進めていくので、演習においては積極的に参加してもらいたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	理科研究セミナーⅡ		
担当教員(所属)／Instructor	井口 智文(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S388015
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	井口 智文(inokuchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	井口 智文(月) 10:30~12:00 AM 井口研究室 (左記以外はe-mailで予約してください)		
授業の内容／Course Description	生物分野、生物教育の論文や研究報告を取り上げ発表を行う、演習形式の授業である。特に、取り上げた内容が、生物分野のどの単元と結びついているかを述べ、教科書での内容の解説も合わせて行う。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・生物を中心とした教育問題、最新の生物学の研究動向を知る。 ・専門性の高い文献の内容を正しく理解する能力を身につける。 ・プレゼンテーションの基礎的な能力を身に付ける。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	理科教育専攻専門の必修科目である。中学校「理科」、高等学校「生物」で必要な、教材の研究法と、生物学の研究の最新の動向とを理解することを目標とする。		
前提とする知識／Prerequisites	受講資格は特にないが、高校までの生物分野の内容を理解しておくことを勧める。		
関連科目／Related Courses	「基礎の生物科学」「生物科学」「基礎生物学実験」の受講を終了し、「生命科学」を同時に受講することが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	論文や報告書の内容の解説と説明を行う演習方式で行なう。受講者は資料等を全員が予習し、発表者の発表を足がかりに、全員で議論を行い、疑問点の整理と解決、内容の理解を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回ガイダンス 第2回論文紹介(1) 生物教育教材開発中学校 第3回論文紹介(2) 生物教育指導方法中学校 第4回論文紹介(3) 生物教育教材開発高等学校 第5回論文紹介(4) 生物教育指導方法高等学校 第6回卒論・修論のテーマについての解説(1) 第7回論文紹介(5) 生物学に関する最新動向1 第8回論文紹介(6) 生物学に関する最新動向2 第9回論文紹介(7) 生物学に関する最新動向3 第10回論文紹介(8) 生物学に関する最新動向4 第11回論文紹介(9) 生物学に関する最新動向5 第12回論文紹介(10) 生物学に関する最新動向6 第13回論文紹介(11) 生物学に関する最新動向7 第14回論文紹介(12) 生物学に関する最新動向8 第15回卒論・修論のテーマについての解説(2)		
教科書・参考書等／Textbooks	参考書：小学校学習指導要領解説理科編文部科学省 中学校学習指導要領解説理科編文部科学省 ニューステージ 新生物図表(浜島書店編集部、浜島書店) 小・中・高等学校の生物関係の教科書 教材：必要に応じてプリント等を配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業内の発表(70%)、レポート(10%)、授業への参加態度(発表に対する質問など)(20%)で、総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	ニュースや新聞記事に目を通し、現在問題となっている事柄を興味・関心を持ち、能動的な姿勢で授業に臨んでほしい。		
キーワード／Keywords	学校教育教員養成課程、 理科教育、 生物教育		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	伴奏法		
担当教員(所属)／Instructor	平井 李枝(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S410075
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	平井 李枝(rie@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028-649-5356)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	平井 李枝(水曜 9:45～10:20 事前にメールでご連絡ください。)		
授業の内容／Course Description	学校の音楽授業で取り上げる歌唱教材を中心としたピアノ伴奏および弾き歌い、旋律への伴奏づけ(コードネームによるものを含む)の実技演習をおこなう。本授業では主に中学校音楽授業で必要となる歌唱教材や合唱教材を取り上げ、伴奏の技能と授業の円滑な遂行能力を高める。		
授業の達成目標／Course Goals	小・中学校歌唱教材のピアノ伴奏および弾き歌いに慣れる。またコードネームを理解し、旋律のみの楽譜を見ながら簡単な旋律への伴奏づけができるようになることを目指す。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校・高等学校「音楽」免許を取得するための必修科目です。		
前提とする知識／Prerequisites	音楽教育専攻入試課題をこなせる程度。		
関連科目／Related Courses	音楽教育専攻入試課題をこなせる程度。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	歌唱教材を中心に課題を取り上げ、実技を中心に授業を進めていく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回オリエンテーション、ピアノの基本的奏法について1 第2回ピアノの基本的奏法について2 第3回中学校歌唱教材伴奏実技1 第4回中学校歌唱教材伴奏実技2 第5回中学校歌唱教材伴奏実技3 第6回中学校歌唱教材伴奏実技4 第7回中学校合唱教材伴奏実技1 第8回中学校合唱教材伴奏実技2 第9回中学校合唱教材伴奏実技3 第10回中学校合唱教材伴奏実技4 第11回中学校合唱教材伴奏実技5 第12回中学校合唱教材伴奏実技6 第13回コードネームによる伴奏づけ1 第14回コードネームによる伴奏づけ1 第15回まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	中等科音楽教育法 音楽之友社 クラス合唱用 MY SONG 教育芸術社		
成績評価の方法／Evaluation	中間発表(50%)，期末発表(50%)		
学習上の助言／Learning Advice	能力向上のため、予習・復習を必ずおこなうこと。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	図法Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	梶原 良成(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S479006
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	梶原 良成(kajihara@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	梶原 良成(木曜日 13:00-14:00)		
授業の内容／Course Description	図は、形をつくり、それを伝達する美術の基礎となる表現手段であり、図法には図形一般を科学する図学と製図法が含まれる。この授業では中学校高校美術科で必要となる平面図学の基礎を主として扱う。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン・工芸・絵画における図像・文様や平面計画の基礎となる平面図形の実践的な作図能力を修得する。 ・製図用具を正しく用いて、正確で美しい図を描けるようにする。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、図画工作科・美術科、高校工芸科に広く共通する基礎的な理論科目としての意義を持つ。また、デザイン・工芸実技を行う上での実践的基礎となる意義を持つ。		
前提とする知識／Prerequisites	図形のもつ美しさ楽しさへの興味・関心。 デザインAI受講者には履修をすすめる。デザインBI受講者は履修済であることが望ましい。		
関連科目／Related Courses	図形のもつ美しさ楽しさへの興味・関心。 デザインAI受講者には履修をすすめる。デザインBI受講者は履修済であることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業では、毎回平面図形に関するテーマを選び、実際に描きながら作図法を解説するとともに、その演習を合わせて行なっていきます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 オリエンテーション(図法について、授業の進め方、製図器具についてなど) 第2週 直線と角1 第3週 直線と角2 第4週 多角形1 第5週 多角形2 第6週 円と接線1 第7週 円と接線2 第8週 円弧と弧成曲線 第9週 黄金比とモデュロール1 第10週 黄金比とモデュロール2 第11週 円錐曲線1 第12週 円錐曲線2 第13週 サイクロイド 第14週 トロコイド 第15週 渦巻き線		
教科書・参考書等／Textbooks	参考書： <ul style="list-style-type: none"> ・「造形の図学」小山清男／面出和子著 日本出版サービス ・「美術系図学・製図」堤浪夫著 鳳山社 教材：製図用具一式(ノート、筆記用具、三角定規一組(20cm程度)、コンパス、直定規(30cm)、字消し板		
成績評価の方法／Evaluation	授業と演習の取り組み(50)、試験(50)で総合的に評価します。 遅刻・欠席は減点です。		
学習上の助言／Learning Advice	1. この授業では図学の理解と共に製図能力の向上も大きな課題ですので、しっかりていねいに書くことを心掛けてください。 2. 毎回新しいことを学びますので、遅刻・欠席するとその部分の理解が欠落してしまいます。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	運動生理学		
担当教員(所属)／Instructor	小宮 秀明(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S524001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	生理学で学習した内容を基礎として、学校体育・スポーツ活動の場において実際に活用できる内容について授業を展開する。		
授業の達成目標／Course Goals	運動生理学の立場から運動中及び運動後の安全管理と障害の予防および運動パフォーマンスの向上について基礎的知識を理解ができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	本授業科目では、これまでの中学校や高等学校の保健体育の教員採用試験に出題された問題などについて取り上げ、その対策を含め講義を行う。小・中・高等学校の体育、保健体育の指導要領に記載されている事象を念頭に置きながら授業を展開する。		
前提とする知識／Prerequisites	運動生理学の講義は生理学を基礎として成り立っているもので、前期に行った生理学の基礎知識をしっかりと身につけてほしい。日頃の部活動の経験を振り返りながら学問と運動経験を融合させ、自分自身の身体活動や今後の指導に生かしてほしい。		
関連科目／Related Courses	生理学、解剖学		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	運動生理学は活動時、活動後の身体機能の変化を明らかにする学問である。運動生理学を十分に理解するためには基礎生理学の理解が必須であるため生理学の基礎的な知識をしっかりと理解しておくこと。生理学を基礎として運動パフォーマンス、障害の予防、安全管理などスポーツや運動と直接結びつく内容と関連させながら講義を展開する。 また、最近のスポーツ・健康に関連したトピックスについても紹介し、学生の興味似合った話題を提供したい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	【授業計画】 1. スポーツと骨格筋 2. スポーツと骨格筋 3. スポーツと神経 4. スポーツと神経 5. スポーツとエネルギー代謝機構 6. スポーツとエネルギー代謝機構 7. スポーツと呼吸 8. スポーツとホルモン 9. スポーツとホルモン 10. 体温調節 11. コンディショニング 12. 体組成 13. 筋疲労の要因 14. スポーツと栄養 15. スポーツと加齢		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：スポーツ生理学、富樫健二 編著(化学同人) 2600円		
成績評価の方法／Evaluation	試験100%の結果で評価する。 遅刻・欠席は減点とする。 なお、優の中から特に優れたものを秀とする。		
学習上の助言／Learning Advice	講義は特別難しいことを話してはいないが、専門用語が多く用いられるため、専門用語に慣れ心でほしい。予習よりも復習を十分に行うこと。また、教員養成の観点から、教員として最小限必要な資質能力を確実に身に付けるように取り組んでください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	調理実習Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	大森 玲子(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S585000
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	大森 玲子(028-649-5367, rohmori(a)cc.utsunomiya-u.ac.jp ※(a)を@に置き換えてください)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	大森 玲子(木曜日16:00-17:00 ※事前にメールにて予約してください)		
授業の内容／Course Description	調理実習Ⅰの基礎的知識や技術を発展させた内容となり、和食、洋食、中華等の他、各国のメニューを取扱う。また、行事食、伝統食について食文化的背景を踏まえながら実習する。最後は各班で献立立案から実習までを行う。		
授業の達成目標／Course Goals	○調理における知識や技術を高度に活用できる。 ○行事食・郷土食や各国の料理について説明でき、作成することができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	家政教育専攻の選択専門科目の一つとして、教員として不可欠な調理実習の技術を向上させ、調理実習への指導法について学ぶ。		
前提とする知識／Prerequisites	調理実習Ⅰを受講済みであること。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	各料理の特徴とマナーについて講義した後、実習に入る。実習の手順等を記した資料を事前に配布するので十分に予習しておくこと。実習後、各回レポートにまとめて提出する。自由献立による調理では主食・副食・汁物・デザートを設定し、地域的食文化を踏まえた料理を取り入れるように献立立案する。最終週には調理技術の試験を課す。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	※授業計画は途中で見直すことがあります 第1週ガイダンス 第2週日本料理の特徴とマナー（講義） 第3週西洋料理の特徴とマナー（講義） 第4週中国料理の特徴とマナー（講義） 第5週和風料理の応用1だしの取り方復習 第6週和風料理の応用2飾り切り 第7週洋風料理の応用1ソースの応用 第8週洋風料理の応用2肉の取扱い 第9週アジア系料理の応用1韓国料理 第10週アジア系料理の応用2タイ料理 第11週行事食（クリスマス料理） 第12週行事食（正月料理） 第13週行事食・郷土食（節分・節句料理） 第14週自由献立 第15週調理技術の確認とまとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	適宜資料を配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	全回のレポート提出済で評価対象とし、授業態度40%、レポート30%、調理技術試験30%により総合的に評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	○実習時にはエプロンおよび三角巾を必ず準備すること。忘れた場合は衛生上受講できません（欠席扱い）。 ○オリエンテーション当日に班分けするため無断欠席した場合は履修できません。初回に欠席する場合はあらかじめ連絡すること。また、調理実習室スペースの関係上、定員を18名とし、超過した場合は家庭科教員免許取得予定者を優先します。 ○授業の特性上、無断欠席、当日欠席および遅刻は他受講者に迷惑が掛かるため、原則、認めません。やむを得ず欠席等する場合は当日10時までに教員と班員に連絡すること。無断遅刻・欠席の場合は以後の受講を認めません。 ○材料費としてオリエンテーション時に3500円徴収します。 ○毎回、布巾を2～3枚準備して下さい（調理台・食器・調理器具を拭くため）。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	英語科教育法Ⅰb		
担当教員(所属)／Instructor	山野 有紀(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S663126
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	山野 有紀(電子メール: yyamano@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	山野 有紀(火曜日12:00 -13:00)		
授業の内容／Course Description	「英語科教育法Ⅰa」に引き続き、英語教育法に関する学びを深め、その応用力も身につける。公立の小・中・高校の教員による実践について考察を行う。さらに、模擬授業、グループディスカッションによる授業分析と授業の振り返りを行い、英語教員としての実践指導力を高める。		
授業の達成目標／Course Goals	英語教師として必要な知識を深め、授業内容をより豊かなものとするための考察を行い模擬授業とその振り返りによって実践力を養う。グループディスカッションを行い、個人の気づきを共有し、指導力を向上させる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	英語科教員免許取得には必修の専門教育科目になる。英語教育法についての理論と実践の学びをさらに深め、教員として総合的コミュニケーション能力を育てる指導法を身につけるための基礎力とともに、応用力も養う。		
前提とする知識／Prerequisites	英語科教育法Ⅰaあるいはそれに相当する科目の履修		
関連科目／Related Courses	英語科教育法Ⅰaあるいはそれに相当する科目の履修		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義と実践授業考察、ディスカッション・質疑応答・模擬授業・振り返り		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回 オリエンテーション・授業の進め方の具体的な説明 第2回 学習指導案作成（小学校・中学校） 第3回 学習指導案作成（中学校・高等学校） 第4回 英語評価と言語テスト（1）：言語テストの目的・種類・役割 第5回 英語評価と言語テスト（2）：言語テストの実際 第6回 第2言語習得理論と外国語教授法（1）：第2言語習得理論 第7回 第2言語習得理論と外国語教授法（2）：外国語教授法 第8回 模擬授業（1）・振り返り・小学校高学年児童への英語指導 第9回 模擬授業（2）・振り返り・中学校の英語指導 第10回 模擬授業（3）・振り返り・高等学校の英語指導 第11回 模擬授業（4）・振り返り・コミュニケーション・アプローチによる指導 第12回 模擬授業（5）・振り返り・CLILによる指導 第13回 模擬授業（6）・振り返り・タスク活動 第14回 英語学習と心理要因 第15回 英語教師論・プロの英語教師になるために		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書： 1. 村野井仁・渡辺良典・尾関直子・富田?一. 2012. 『統合的英語科教育法』成美堂 2. 和泉伸一. 2009. 『「フォーカス・オン・フォーム」を取り入れた新しい英語教育』大修館書店 参考書： 1. Lightbown, P.M. & Spada, N. 2013. How language are learned. Oxford University Press. 2. 高島英幸. 2005. 『文法項目別英語のタスク活動とタスク：34の実践と評価』大修館書店 3. 渡辺良典・池田真・和泉伸一. 2011. 『CLIL内容言語統合型学習・原理と方法』上智大学出版		
成績評価の方法／Evaluation	課題演習・授業参加（70%）と模擬授業（30%）を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	英語教育・英語指導などについて、自らの課題を見つけて関連資料を読み、まとめ、その学びを模擬授業での実践にいかすよう、積極的に取り組んでください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	英語研究セミナー B II		
担当教員(所属)／Instructor	谷 光生(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S691000
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	This course will explore and develop basic research methods and skills for investigating topics and issues in theoretical and descriptive linguistics.		
授業の達成目標／Course Goals	This seminar course is designed for students who wish to write a graduate thesis in the field of linguistics.		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	This course will benefit students who wish to be a teacher in developing their own teaching materials and their methods.		
前提とする知識／Prerequisites	Seminar in English Studies AI or Seminar in English Studies BI		
関連科目／Related Courses	Seminar in English Studies AI or Seminar in English Studies BI		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	The class will be conducted as a participatory seminar.		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. Syntactic Overview (4): The Clause: complements 2. Syntactic Overview (5): Nouns and Noun Phrases 3. Syntactic Overview (6): Adjectives and Adverbs 4. Syntactic Overview (7): Prepositions and Prepositional Phrases 5. Syntactic Overview (8): The Clause: Adjuncts 6. Syntactic Overview (9): Negation 7. Syntactic Overview (10): Clause Types and Illocutionary Force 8. Syntactic Overview (11): Content Clauses and Reported Speech 9. Syntactic Overview (12): Relative Constructions and Unbounded Dependences 10. Syntactic Overview (13): Comparative Constructions 11. Syntactic Overview (14): Non-finite and Verbless Clauses 12. Syntactic Overview (15): Coordination and Subordination 13. Syntactic Overview (16): Information Packaging 14. Syntactic Overview (17): Deixis and Anaphora 15. Course Summary		
教科書・参考書等／Textbooks	There is no assigned textbook.		
成績評価の方法／Evaluation	Grades are determined by attendance (40%), class participation (30%), and exams (30%).		
学習上の助言／Learning Advice	Classroom attendance is mandatory. Students are expected to prepare in advance for each class by reading materials distributed or assigned in class.		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	論理的思考演習		
担当教員(所属)／Instructor	天沼 実(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S802100
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	身近な課題を巡るセミフォーマルなディベート形式での討論の方法や思考法を学び実践する。		
授業の達成目標／Course Goals	身近な課題を巡るセミフォーマルなディベート形式での討論の方法や思考法を学び実践することにより、事実の調査・分析や資料の収集、立論・反論の論理や提示方法などを実践的に身につける。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	総合人間形成課程専門教育の学習・教育目標のうち、主として(B)知識基盤社会における普遍的・今日的課題について考察し、その解決に向けて適切に判断できる、および(C)社会や文化の形成に関する活動に取り組むため、専門的技能と幅広い表現力を身につけている、に関連する。		
前提とする知識／Prerequisites	特にないが、「新入生セミナー」や「カリキュラム設計演習」などでの発表(スピーチ)に関する振り返りをポートフォリオに記録しておくこと。「コミュニケーション演習」で学んだことをよく振り返っておくこと。		
関連科目／Related Courses	特にないが、「新入生セミナー」や「カリキュラム設計演習」などでの発表(スピーチ)に関する振り返りをポートフォリオに記録しておくこと。「コミュニケーション演習」で学んだことをよく振り返っておくこと。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	ディベートの目的、形式・方法などを学んだ後、実践的な練習やレビューを重ねる。実際にチームに分かれてトーナメントを行う予定。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	おおむね以下のとおり。詳細は開講時に説明する。 第1週～第5週：ディベートの形式、目的、準備の仕方、議論の展開法、評価の方法 第6週～第10週：立論、反駁、質疑応答の実践、ミニディベートによる練習と相互レビュー 第11週～第14週：トーナメント実践 第15週：まとめと反省		
教科書・参考書等／Textbooks	随時指定、紹介する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業内容の性質上、出席は大きく評価に反映される。その他、課題に対する取り組みやチーム作業への参加の度合いなどを組み合わせて総合的に評価を行う。		
学習上の助言／Learning Advice	議論の仕方を考える習慣をつけましょう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	民法		
担当教員(所属)／Instructor	杉田 明子(その他)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S809502
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	杉田 明子(授業時間後に、当該教室または非常勤講師室において)		
授業の内容／Course Description	民法の基礎知識を学びながら、日常生活とどのように関わるのか、これらの知識を用いて日々の生活において直面する問題にどのように対応したらいいのか、を考える。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・民法の基本原則や基礎知識の修得すること ・単に条文の内容や知識を学ぶだけでなく、民法の学習を通じて法的なものの考え方を修得すること 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	地域公共領域の1専門分野である「法学」に関する専門科目の発展編として位置づけられる。		
前提とする知識／Prerequisites	法学概論		
関連科目／Related Courses	法学概論		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	民法の基礎知識につき、レジュメに従って講義する。また、演習問題(事例)にも取り組む。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 民法について 第2週 意思表示(契約はどのように成立するか) 第3週 代理 第4週 契約総論 第5週 契約各論1 - 売買契約 第6週 契約各論2 - 賃貸借契約 第7週 契約各論3 - 消費貸借契約(消滅時効・保証契約など) 第8週 契約各論4 - 雇用契約 第9週 契約各論5 - 雇用契約2 第10週 不法行為 第11週 物に対する権利(所有権・担保権など) 第12週 婚姻・離婚 第13週 親子関係 第14週 相続 第15週 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	六法は必ず持参してください。参考書等は、初回講義時に紹介します。		
成績評価の方法／Evaluation	学年末のレポート結果を評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	皆さんは、これまで法律を学ぶ機会はありませんでしたが、交通事故を起こしてしまった場合どうしたらいいのか、アパートから引っ越しをする際に敷金を返してくれないときはどうしたらいいのか、など日常生活で生じる様々な問題の解決には、民法の知識が不可欠です。また、民法を含む様々な法律にかかわる問題は、毎日のように新聞記事やテレビのニュースなどで取り上げられています。興味関心を持ってこれらの記事やニュースなどに目を通すようにしてください。講義の際は、民法の条文を参照しますので、六法は必ず持参してください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	保育内容の指導法（表現）		
担当教員(所属)／Instructor	株田 昌彦(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S900607
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	株田 昌彦（【株田 昌彦】mkabuta@cc.utsunomiya-u.ac.jp）		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	株田 昌彦(水曜13時～14時20分)		
授業の内容／Course Description	授業の前半では、幼児の造形活動の支援に有効と思われる造形技法について教授し、後半ではそれらを踏まえた紙芝居の制作指導を行う。授業の最後には制作した紙芝居を子どもの前で発表し、またそのための指導を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	幼児の成長発達過程における造形表現について関心を高め、造形表現支援に重要と考えられる「素材の発見」、「プリミティブな表現」、「見立て」といった視点や技術を修得する。また、応用例として紙芝居を制作し子どもの前で発表する事で、子どもの視点に立った言葉掛けを考える事が出来る。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	幼稚園教諭及び保育士免許取得のための開設授業として、造形活動を支援する上で必要な技法や技能を伝授し、幼児教育における興味関心を喚起する。		
前提とする知識／Prerequisites	特にないが、興味、関心を持ち、チャレンジ精神で臨んでほしい。		
関連科目／Related Courses	特にないが、興味、関心を持ち、チャレンジ精神で臨んでほしい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	幼児や児童の造形活動や作品を紹介し、保育師にとって必要な見識を持つ。また様々な素材に触れ、課題に取り組む中で造形活動の本源的な楽しさを体感し、幼児や児童の視点に立った指導、支援法を考える。次に紙芝居を制作し、園児の前で発表する事で、子どもとのコミュニケーション能力を磨き、保育に関係する表現の関心を深める。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週オリエンテーション 第2週幼児における表現について 第3週様々な表現技法①（モノタイプ、スパッタリング等） 第4週様々な表現技法②（マーブリング、フロッターージュ等） 第5週紙芝居のグループ分け 第6週台本作り①テーマ設定、物語の大筋の考案 第7週台本作り②台詞の細案 第8週紙芝居作り①コマ割の設定 第9週紙芝居作り②仕掛けの考案 第10週紙芝居作り③作画（下描き） 第11週紙芝居作り④作画（彩色） 第12週発表リハーサル 第13週保育園での発表①前半グループの発表（後半グループは観察） 第14週保育園での発表②後半グループの発表（前半グループは観察） 第15週まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	幼児造形教育の基礎知識建帛社 スケッチブック、水彩絵の具、クリアファイル等（その都度授業の中で指示する。）		
成績評価の方法／Evaluation	授業への参加態度50%、小レポート20%、レポート30%を合計して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	自ら考え、のびのびと課題に取り組んで欲しい。授業の中で行った活動について、記録メモをとりながらファイリングすると良い。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	家庭（平成23年度以降入学用）		
担当教員(所属)／Instructor	陣内 雄次(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S101505
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	<p>家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活の分野から教科・家庭の内容に関して、4名の教員が講義を行います。家庭生活領域については、家庭生活と家族など、家庭科のガイダンスにあたる内容を講義します。消費生活領域については、宇都宮市消費生活センターの方から悪徳商法などに関する内容となります。食生活領域については、世界や日本における食の現状と課題、なぜ食べるのか、栄養と食品との関わり、調理の基礎とは何か、家庭科の食生活に関する教育と「食育」との共通点と相違点等について展開します。衣生活領域については、小学校家庭科における衣生活の学習内容、すなわち衣服の着方、洗濯・管理、布を用いた製作などについて概説するとともに、それらに関して科学的な観点から論じます。また、「もの」をつくるという視点をもつ衣生活領域の果たして行くべき役割について講義をします。住生活領域については、豊かな生活を創造していくため、住環境の物的・質的基準を具体的に要求できる知識を習得し、また、少子高齢化社会を支えることができる住環境形成の主体となりうる力を育成していく教育（「まちづくり教育」）が重要に課題になっています。このため、小学校家庭科における住生活の学習を「まち環境」と関連させつつ、講義を行います。</p>		
授業の達成目標／Course Goals	家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活の分野から家族生活に関する理解を深めます。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	小学校教員免許取得に必要な教科です。小学校家庭科の必要な家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活分野の知識を獲得することを目指します。		
前提とする知識／Prerequisites	日常生活経験の意識化・客観化主体的・自立的な生活の創造的態度。		
関連科目／Related Courses	日常生活経験の意識化・客観化主体的・自立的な生活の創造的態度。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教科書は使わず、その都度必要な資料を配布します。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週 授業についてのオリエンテーション、家庭生活領域 第2週 消費生活領域 第3週～第5週 食生活領域 第6週～第10週 住生活領域 第11週～第15週 衣生活領域 ※担当順は変更になることがあります。		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は使用しません。授業中必要に応じて資料を配布し、課題図書などを指定します。		
成績評価の方法／Evaluation	各教員の試験、小レポート、出席により評価します。小レポート(80%)、出席点(20%)を総合して、到達目標に対する到達度を評価します。4人の教員の授業に出席し、及第点をとることが必要です。		
学習上の助言／Learning Advice	第一回目は、履修上重要なことをガイダンスしますので、第一回目には出席しないものは原則として履修できません。		
キーワード／Keywords	家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	算数科教育法		
担当教員(所属)／Instructor	牧野 智彦(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S102131
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	小学校算数科の学習指導に関わる基本的な知識の習得をねらい、算数科の目標、内容、指導方法、評価について、具体的な教材を例に挙げながら講義する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の目標、内容、指導方法、評価についての基礎的な知識・技能を修得する。 ・指導案や授業展開の仕組みなど、指導法の基礎について理解する。 ・児童の算数の学習指導上の実態についての理解を深める。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	小学校教員免許取得に必須の科目である。「算数」で教科内容の専門的理解を深めるのに対して、ここでは、教職の観点から、児童の発達に即した算数の学習指導の基本的事項を学ぶ。		
前提とする知識／Prerequisites	算数や数学(中学校程度)の問題を解くことができることが望ましい。 ※「算数を」受講済みであること。		
関連科目／Related Courses	算数や数学(中学校程度)の問題を解くことができることが望ましい。 ※「算数を」受講済みであること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義および演習で進める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1時授業の目的と方法 第2時算数教育の変遷 第3時日本の子どもの現状 第4時学習指導要領について 第5時数と計算 第6時量と測定 第7時図形 第8時数量関係 第9時算数的活動(1)操作的活動 第10時算数的活動(2)発展的活動 第11時算数的活動(3)言語活動 第12時指導案について(実地指導講師担当分) 第13時算数科授業の実際(実地指導講師担当分) 第14時評価 第15時振り返りとまとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	資料は適宜プリントで配布する。 次のものを参考にする。 ・文部科学省(2008)．小学校学習指導要領解説(算数編)，東洋館出版社．		
成績評価の方法／Evaluation	授業への参加態度・出席状況(20%)，期末試験(80%)で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	まずは、学ぶ立場での算数と教える立場での算数の違いを実感して下さい。そして、算数は公式や計算の手続きを覚え、それを適用して答えを求めることだけではないことを理解し、算数自体を見直す機会にして下さい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	初等社会科教育法		
担当教員(所属)／Instructor	熊田 禎介(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S102220
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	熊田 禎介(kumata@cc.)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	小学校教科「社会」に関する教育目的・内容・方法について講義する。具体的には、小学校社会科の現在・歴史や諸問題を取り上げるとともに、発問や授業構成の方法についても実際の授業場面をもとに講義する。		
授業の達成目標／Course Goals	小学校社会科の現在・歴史や諸問題について、具体的な教材や実践例をもとに理解する。また、発問の仕方や授業構成の方法についての基礎的知識・技能を修得する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	小学校教員免許取得のための必修科目である。教科科目「社会」で教科内容の専門的理解を行うのに対し、本授業は教職科目として小学校社会科の指導法についての基礎的知識・技能を修得する。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	基本的には、教材プリントに基づき講義していくが、可能な限り、話し合いや作業なども取り入れながら進めていく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第 1回オリエンテーション 第 2回小学校社会科の現在(1)学習指導要領, 教科書, 年間指導計画 第 3回小学校社会科の現在(2)副読本, 地域学習, 同心円の拡大主義 第 4回小学校社会科の歴史(1)墨塗り教科書, 初期社会科, 「試案」 第 5回小学校社会科の歴史(2)コア・カリキュラム, 地域教育計画, 川口プラン 第 6回社会科における授業構成の方法(1)導入, 発問, 授業記録 第 7回社会科における授業構成の方法(2)学習指導案, 単元, カリキュラム 第 8回社会科における授業構成の方法(3)問題解決学習, 教材, 切実性 第 9回小学校社会科の授業実践に学ぶ(1)低学年社会科 第10回小学校社会科の授業実践に学ぶ(2)地名教育 第11回小学校社会科の授業実践に学ぶ(3)シミュレーション教材 第12回小学校社会科の授業実践に学ぶ(4)歴史学習 第13回小学校社会科の実践 現職教員による講義(1) 第14回小学校社会科の実践 現職教員による講義(2) 第15回本講義のまとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	資料・教材等は、毎回プリントを配布します。 参考書：文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』（東洋館出版社，2008年） 日本社会科教育学会編『新版 社会科教育事典』（ぎょうせい，2012年） その他，小学校社会科の教科書は，図書館等で参照してください。		
成績評価の方法／Evaluation	出席状況(20%)，授業ごとの感想・課題(20%)および学期末試験(60%)の総合評価によって成績を評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	みなさんが受けてきた小学校社会科の授業を常に振り返りながら，将来，小学校の先生として社会科の授業を行う際の具体的なイメージと考えをもってもらえたらと思います。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	初等体育科教育法		
担当教員(所属)／Instructor	加藤 謙一(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 保健体育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S102832
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	体育科の目標と内容、児童の発達特性と学習課題、運動の特性とその効果的な指導法や指導計画の立案などについて、実践例を紹介しながら概説します。		
授業の達成目標／Course Goals	体育に必要な基礎的知識を理解すること、体育における基礎的な指導方法を理解すること、体育の指導計画および学習指導案を作成することができるようにします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学校教育教員養成課程共通科目における小学校教科教育法の選択専門教育科目として、小学校の教員に求められる体育科指導における知識や技能を身に付ける科目としての意義を持ちます。		
前提とする知識／Prerequisites	自分が受けてきた学校教育(小中学校における体育授業)を振り返り、自分が授業者としての教員養成段階での課題意識をもって受講してください。		
関連科目／Related Courses	自分が受けてきた学校教育(小中学校における体育授業)を振り返り、自分が授業者としての教員養成段階での課題意識をもって受講してください。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	主に講義を中心に進め授業の終わりに授業の要約を行います。それをもとに毎時の授業内容を確認します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週教科「体育」で何を学ぶのか？ 第2週就学前における子どもの運動発達 第3週小学校期における子どもの運動発達 第4週小学校学習指導要領「体育編」の概説及び学習指導案作成の基本的な考え方 第5週学習指導案のみかたと授業観察の観点 第6週教育実習生の授業実践例(VTRによる授業観察) 第7週教育実習生の授業省察 第8週低学年から高学年児童の運動領域に応じた教材研究 第9週現職職員の授業実践例(VTRによる授業観察と授業の見方) 第10週実地指導講師による講義(児童の実態に応じた指導例と評価) 第11週実地指導講師による講義(体育科の指導計画立案) 第12週体育指導案の作成1 第13週体育指導案の作成2 第14週模擬授業1 第15週模擬授業2		
教科書・参考書等／Textbooks	小学校学習指導要領解説体育編(平成20年8月) 配付資料を用意します。		
成績評価の方法／Evaluation	出席状況(授業への関わり方:20%)と体育指導案の内容(80%)によって総合的に評価します。 成績の対象は、学部の履修案内に記載されている試験内規に準じて行います。		
学習上の助言／Learning Advice	小学校教員になるイメージを描きながら、教員としての使命感や責任感、教育的愛情なども念頭におきながら積極的に受講してください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	国語研究セミナーＢⅡ		
担当教員(所属)／Instructor	守安 敏久(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 国語教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S226126
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	守安 敏久(028-649-5260, t-moriya@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	守安 敏久(木) 12:00～12:30(守安研究室)		
授業の内容／Course Description	4年次の卒業論文を念頭におきながら、近代日本の文学作品(安部公房・三島由紀夫の戯曲)をとりあげ、作品研究をセミナー形式で行う。作品を受講者に割り当て、担当発表してもらう。		
授業の達成目標／Course Goals	文学作品を題材として、高度で創意ある口頭発表の訓練を積むことを目的とする。テキストの読解を前提として、それに関する諸文献の調査を踏まえたうえで、各自の分析と考察を論評する。さらにその成果を卒業論文へと接続させる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、近代日本文学(主として昭和文学)の様々な研究方法を幅広く体験的に学び、4年次に日本近代文学分野で卒業論文を書く際に必要な学力の育成をめざす(教員として必要な高度な文学的知識と思考を学ぶ)。		
前提とする知識／Prerequisites	課題に対して文献を調べる力と、それを踏まえて自分なりに考察していく力。「日本文学演習Ⅰ・Ⅱ」「国語研究セミナーＢⅠ」を修了していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	作品を受講者に割り当て、担当発表してもらう(担当発表は受講者全員に課す)。受講者は担当する作品・作家について調べ、先行文献を参照しつつ、さらに自分なりの観点から考察を加え、論じることになる。各自の興味・関心に応じて、創意ある発表を望む。問題提起の豊かな発表を評価する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 安部公房略述 第2週 安部公房ラジオドラマ「耳」 第3週 安部公房ラジオドラマ「棒になった男」 第4週 戯曲「棒になった男」 第5週 戯曲「友達」 第6週 戯曲「榎本武揚」 第7週 演劇「どれい狩り」鑑賞 第8週 演劇「どれい狩り」鑑賞(続) 第9週 安部公房補説 第10週 三島由紀夫「鹿鳴館」 第11週 三島由紀夫「只ほど高いものはない」 第12週 三島由紀夫「夜の向日葵」 第13週 三島由紀夫「朝の躑躅」 第14週 三島由紀夫補説 第15週 補説		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書:「友達・棒になった男」安部公房、新潮社(宇大生協で販売) 「鹿鳴館」三島由紀夫、新潮文庫(宇大生協で販売) 参考書:「劇人三島由紀夫」堂本正樹、劇書房(図書館所蔵) 「三島由紀夫事典」松本徹他・編、勉誠出版(図書館所蔵) 「安部公房の演劇」高橋信良、水声社(図書館所蔵) 「安部公房メディアの越境者」鳥羽耕史編、森話社(図書館所蔵) 「安部公房全集」全30巻、新潮社(図書館所蔵)		
成績評価の方法／Evaluation	担当発表(70%)、および毎回出席をとり、授業態度も参照材料とする(30%)。わかりやすく、かつ問題提起の豊かな口頭発表が評価される。出席は重視され、また授業中討論に積極的に参加しているか否かも、評価基準に加わる。教員をも啓発するような創意ある受講者にのみ「秀」を与える。		
学習上の助言／Learning Advice	安部公房・三島由紀夫の小説にも親しんでおきたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	社会調査実習		
担当教員(所属)／Instructor	小原 一馬(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S278302
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2, 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	小原 一馬(koharak@cc)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	小原 一馬(原則として水曜・木曜 7－8限だが、教員が研究室にいるときには随時受け付ける)		
授業の内容／Course Description	社会調査法で行ったアンケート調査のデータ分析を行う		
授業の達成目標／Course Goals	量的調査法の基本を学び、調査を企画・実施・分析できるようになる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校「社会」・高等学校の「公民」の選択科目であり、社会調査を実際に行う能力を育む。		
前提とする知識／Prerequisites	社会調査法を受講していることが、この授業をとるための条件である。		
関連科目／Related Courses	社会調査法が、この授業を受講するための基礎となる。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	WEB上の統計学の自習サイトを用いながら、統計学的な考え方について学びつつ、統計ソフトを用いて、実際に分析を行っていく。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1～2 社会調査法のおさらい、（ハ）1平均と分散 3～4 入力データの修正（ハ）2信頼区間 5～6 エクセルによるクロス表集計1（ハ）3カイ2乗検定 7～8 エクセルによるクロス表集計2（ハ）4t検定（対応なし） 9～10 SPSSへのデータの移行新しい変数の作成（ハ）5t検定（対応あり） 11～12 SPSSによるクロス表分析（ア）1散布図と相関 13～14 SPSSによる平均の検定（ア）2相関係数 15～16 SPSSによる相関の分析1（ア）3無相関検定 17～18 SPSSによる相関の分析2（ア）4単回帰 19～20（ア）5偏相関 21～22（ア）6重回帰 23～24（ア）7相関行列 25～26（ア）8因子分析(1) 27～28（ア）9因子分析(2) 29～30 レポート作成		
教科書・参考書等／Textbooks	ハンバーガーショップで学ぶ楽しい統計学⇒（ハ） アイスクリーム屋さんで学ぶ楽しい統計学⇒（ア）		
成績評価の方法／Evaluation	授業参加80%、最終レポート20%		
学習上の助言／Learning Advice	統計ソフトを用いれば、分析の手続き自体は簡単に行えるようになりました。しかしその統計学的な意味もある程度は理解できるようにしていきましょう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	音楽研究セミナーC II		
担当教員(所属)／Instructor	平井 李枝(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S440027
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	平井 李枝(rie@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028-649-5356)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	平井 李枝(水曜 9:45～10:20 事前にメールでご連絡ください。)		
授業の内容／Course Description	ピアノ演奏における基本的な奏法を習得し、個人のレベルに合わせた楽曲を取り上げ、演奏法や演奏解釈の研究を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	基礎演習と応用演習においてテクニックを習得し、様々な楽曲に応用しながらレパートリーを拡充することを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	音楽教育専攻専門科目の選択科目		
前提とする知識／Prerequisites	教育学部音楽教育専攻の各学年段階での習得知識・能力を前提とする。		
関連科目／Related Courses	教育学部音楽教育専攻の各学年段階での習得知識・能力を前提とする。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	基礎演習や応用演習においてテクニックの向上を目指しながら、様々な時代の主要作品を取り上げ、演奏法や演奏解釈を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週エチュード演習①ロマン派作品① 第2週エチュード演習②ロマン派作品② 第3週エチュード演習③ロマン派作品③ 第4週エチュード演習④ロマン派作品④ 第5週エチュード応用演習①近代作品① 第6週エチュード応用演習②近代作品② 第7週エチュード応用演習③近代作品③ 第8週エチュード応用演習④近代作品④ 第9週エチュード応用演習⑤近代作品⑤ 第10週自由曲① 第11週自由曲② 第12週自由曲③ 第13週自由曲④ 第14週自由曲⑤ 第15週発表		
教科書・参考書等／Textbooks	メトロノーム、ハノン・ピアノ教本(全音楽譜出版社、音楽之友社刊のいずれか)。その他教材は個人の技能レベルに応じて指示する。		
成績評価の方法／Evaluation	基礎演習、応用演習の到達度、作品の演奏習熟度及び理解度を総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	ハノンの速度は、メトロノーム四分音符1拍60、72、96、120の4段階で練習すること。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	情報科教育法Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	丸山 剛史(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S923100
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 1, 水/Wed 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	情報科教育法Ⅰで修得した高等学校共通教科「情報」および専門教科「情報」の教育目標、内容、方法に基づいて、教科「情報」の指導のあり方や学習指導を实践するための知識・技能について多面的に講義・演習します。		
授業の達成目標／Course Goals	本講義は、高等学校学習指導要領の情報編に示されている指導目標・内容などに基づき、授業を計画・実践・評価するための基礎となる知識・技能を修得し、次の事項を到達目標とします。 ・教科「情報」の学習指導案を作成できる。 ・授業の目標分析やカテゴリ分析ができる。 ・模擬授業を实践できる。 ・授業分析を通じて、授業の評価と改善策を検討できる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	高等学校の教科「情報」の免許取得のための必修科目です。高等学校学習指導要領の情報編に示されている指導目標や指導内容などに基づき、授業の計画・実践・評価について修得します。		
前提とする知識／Prerequisites	「情報科教育法Ⅰ」を受講済みであることを前提にします。		
関連科目／Related Courses	「情報科教育法Ⅰ」を受講済みであることを前提にします。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	本授業は、e-ラーニングシステムを交えて授業をすすめます。 授業の内容は概ね、年間指導計画、授業事例の紹介、授業設計、目標分析、学習指導案の作成、授業分析、教材・教具の準備、模擬授業の实践、授業分析の实践、授業評価の实践、授業実践結果の発表などから構成します。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1. 導入、実施計画 2. 授業の仕組み、授業計画・実施・評価 3. 教科「情報」の指導計画 4. 授業の实践事例1 5. 授業の实践事例2 6. 目標の設定、目標分析の考え方 7. 目標分析に基づいた評価の検討、S-P表 8. 学習指導の形態、指導案の作成 9. 学習指導の細案 10. 授業のカテゴリ分析 11. 模擬授業の準備、教材・教具について 12. 模擬授業の实践 13. 模擬授業の实践 14. 授業の分析 15. 授業実践結果と改善策の検討・発表		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：高等学校学習指導要領解説情報編，平成22年5月，文部科学省，開隆堂出版 生協等で入手できます。		
成績評価の方法／Evaluation	演習課題レポートやその発表(40%)と、模擬授業の实践及びその分析結果や改善策の発表(60%)を総合して評定します。		
学習上の助言／Learning Advice	授業内容は段階的に進み積み重ねが多いため、毎回欠かさず出席することを勧めます。		
キーワード／Keywords	情報科、高等学校、学習指導、学習指導案		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	工芸 II		
担当教員(所属)／Instructor	松島 さくら子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S458029
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 2, 水/Wed 3, 水 /Wed 4	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	松島 さくら子(松島研究室 sakurako@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	松島 さくら子(質問・相談がありましたら、躊躇せずにメールにて問い合わせの上訪ねてください。Students wishing to meet with me should first email.)		
授業の内容／Course Description	工芸IIは、木工の基本的な表現方法を学習し、機能性を考慮すると共に「イメージが 木素材を通してどう表現されるのか」ということを探る授業である。		
授業の達成目標／Course Goals	鋸・鑿・鉋などの木工具、及び糸鋸・ジグソーなどの電動工具の使用方法・加工効果、多様な木材種について学習し、木工の基本的な表現方法を体験しながら、どのような表現の可能性が見いだせるのか探り、テーマに沿った機能を満たした作品を制作する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	工芸IIは、学校教育教員養成課程の専門教育科目の美術の中学校教科として専門性を深める授業ある。また総合人間形成課程では、芸術文化領域専門科目として芸術の領域の専門性を深める授業である。高等学校一種「工芸」必修科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	工芸Iを受講していること。かつ美術の基礎的な実技授業（デッサン・平面構成・立体構成・彫塑等）を受講しているか、同等の実技経験をもっていること。		
関連科目／Related Courses	工芸I, 工芸II, 工芸III, 工芸III, 工芸理論, 立体構成I, 立体構成II, 美術表現基礎, 工芸科教育法I, 工芸科教育法II, 美術演習A, 美術演習B		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回授業のはじめに、その日の実技作業の重要事項（材料について・道具の取り扱い・技術・技法等）を説明し、毎回の授業の到達目標に沿って、実技課題に取り組んでいく。授業で進めた課題の制作工程を記録しまとめていく。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1 回課題説明木工材料と道具の説明 第2 回木工道具の整備 第3 回糸鋸と鑿による表現?テーマ「杓子」 第4 回テーマに基づいたアイデアスケッチの展開 第5 回木材の切断と鑿による加工 第6 回仕上げ 第7 回板材による表現?テーマ「木工玩具」 第8 回テーマに基づいたアイデアスケッチの展開 第9 回模型制作 材料の扱い・作業手順・安全性・有効性の検討 第10 回板材の切断 第11 回切断した部材の加工 第12 回ホゾの加工 第13 回組み立て 第14 回仕上げ 第15 回講評		
教科書・参考書等／Textbooks	材料・工具の一部・消耗品類は一括して購入する。(1万円程度) スケッチブック（エスキース用）、筆記用具、その他必要に応じて指示する。木材・刃物などの材料・道具代がかかる。		
成績評価の方法／Evaluation	提出作品と制作レポート（70％）と、授業への取り組み(30％)を総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	授業初回到課題説明の他、道具・材料の手配をするので、必ず出席すること。 毎回授業のはじめに、その日の実技作業の重要事項(材料や素材の取り扱い事項・技術・技法等)を説明するので遅刻しないよう様々な工芸素材にふれ、その加工や表現を知ることにより、教育現場での多彩な指導につながるよう期待する。工芸を知る上で参考になる展覧会・資料があれば、可能な限り紹介し参観するようにすすめる。		
キーワード／Keywords	工芸, 漆芸, 金工, 陶芸, ガラス, 染織, 木工, craft, urushi, lacquer		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	家庭（平成23年度以降入学用）		
担当教員(所属)／Instructor	陣内 雄次(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S101500
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	<p>家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活の分野から教科・家庭の内容に関して、4名の教員が講義を行います。家庭生活領域については、家庭生活と家族など、家庭科のガイダンスにあたる内容を講義します。消費生活領域については、宇都宮市消費生活センターの方から悪徳商法などに関する内容となります。食生活領域については、世界や日本における食の現状と課題、なぜ食べるのか、栄養と食品との関わり、調理の基礎とは何か、家庭科の食生活に関する教育と「食育」との共通点と相違点等について展開します。衣生活領域については、小学校家庭科における衣生活の学習内容、すなわち衣服の着方、洗濯・管理、布を用いた製作などについて概説するとともに、それらに関して科学的な観点から論じます。また、「もの」をつくるという視点をもつ衣生活領域の果たして行くべき役割について講義をします。住生活領域については、豊かな生活を創造していくため、住環境の物的・質的基準を具体的に要求できる知識を習得し、また、少子高齢化社会を支えることができる住環境形成の主体となりうる力を育成していく教育（「まちづくり教育」）が重要に課題になっています。このため、小学校家庭科における住生活の学習を「まち環境」と関連させつつ、講義を行います。</p>		
授業の達成目標／Course Goals	家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活の分野から家族生活に関する理解を深めます。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	小学校教員免許取得に必要な教科です。小学校家庭科の必要な家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活分野の知識を獲得することを目指します。		
前提とする知識／Prerequisites	日常生活経験の意識化・客観化主体的・自立的な生活の創造的態度。		
関連科目／Related Courses	日常生活経験の意識化・客観化主体的・自立的な生活の創造的態度。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教科書は使わず、その都度必要な資料を配布します。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週 授業についてのオリエンテーション、家庭生活領域 第2週 消費生活領域 第3週～第5週 食生活領域 第6週～第10週 住生活領域 第11週～第15週 衣生活領域 ※担当順は変更になることがあります。		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は使用しません。授業中必要に応じて資料を配布し、課題図書などを指定します。		
成績評価の方法／Evaluation	各教員の試験、小レポート、出席により評価します。小レポート(80%)、出席点(20%)を総合して、到達目標に対する到達度を評価します。4人の教員の授業に出席し、及第点をとることが必要です。		
学習上の助言／Learning Advice	第一回目は、履修上重要なことをガイダンスしますので、第一回目には出席しないものは原則として履修できません。		
キーワード／Keywords	家庭生活、消費生活、食生活、衣生活、住生活		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	音楽B		
担当教員(所属)／Instructor	平井 李枝(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S101630
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	平井 李枝(rie@cc.utsunomiya-u.ac.jp 028-649-5356)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	平井 李枝(水曜 9:45～10:20 事前にメールでご連絡ください。)		
授業の内容／Course Description	小学校の教員が音楽科の授業を行う際に必要な、簡単な楽典、歌唱、ピアノ奏法を扱います。		
授業の達成目標／Course Goals	小学校音楽科の授業を行うのに最低限必要な知識、技能の習得をめざす授業です。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学校教育教員養成課程の選択科目です。 小学校音楽科の授業を行うのに最低限必要な知識、技能の習得をめざす授業です。		
前提とする知識／Prerequisites	小・中学校での音楽経験 音楽Aを履修済みであること		
関連科目／Related Courses	小・中学校での音楽経験 音楽Aを履修済みであること		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	楽典では、内容の説明の後、問題演習を行います。 歌唱は、クラス全員で実習を行います。 ピアノは、個人レッスンを中心とします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 オリエンテーション 第2回 小学校1年生の歌唱共通教材弾き歌い(1) 楽典(1) 楽譜の読み方 第3回 小学校1年生の歌唱共通教材弾き歌い(2) 楽典(2) コードネームの基礎 第4回 小学校2年生の歌唱共通教材弾き歌い(1) 楽典(3) コードネームによる簡易伴奏 第5回 小学校2年生の歌唱共通教材弾き歌い(2) 第6回 小学校3年生の歌唱共通教材弾き歌い(1) 第7回 小学校3年生の歌唱共通教材弾き歌い(2) 第8回 小学校4年生の歌唱共通教材弾き歌い(1) 第9回 小学校4年生の歌唱共通教材弾き歌い(2) 第10回 小学校5年生の歌唱共通教材弾き歌い(1) 第11回 小学校5年生の歌唱共通教材弾き歌い(2) 第12回 小学校6年生の歌唱共通教材弾き歌い(1) 第13回 小学校6年生の歌唱共通教材弾き歌い(2) 第14回 その他歌唱教材の弾き歌い 第15回 発表 実技のため、進捗状況により内容が前後することがあります。		
教科書・参考書等／Textbooks	初等科音楽教育法 音楽之友社 4訂版 歌はともだち 教育芸術社		
成績評価の方法／Evaluation	弾きうたいの達成状況(50%)、楽典の理解度(50%)を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	実技授業の関係上、原則として20名程度とします。ピアノの実技では、出された課題を練習して弾けるようにして来ることが必要です。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	図画工作B		
担当教員(所属)／Instructor	本田 悟郎(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S101797
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	図画工作科の題材について理解を深めるため、学習指導要領、教科書、また、発達段階や、造形要素など、題材作成に不可欠な視点を演習と講義およびグループ学習から取り上げる。		
授業の達成目標／Course Goals	小学校における図画工作科の役割と教科性について理解を深め、個性や主体性、創造性を育む指導実践の能力を高めることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	小学校図画工作科で学習指導を実践するための諸能力の向上を図る。		
前提とする知識／Prerequisites	教育や美術に関するこれまでの経験を出発点としながらも、さらに、その枠組みを刷新するような学習姿勢を求めたい。		
関連科目／Related Courses	図画工作科教育法、図画工作A		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	実技制作を軸に適宜講義形式を取り入れて授業を展開する。グループの活動を通して題材を考案し課題を検討する。レポート等の作成と発表を行う。また、必要に応じて、実際の教育現場等で実践力を高めるための活動を取り入れることがある。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週 ガイダンス(授業計画、授業方法等の説明) 第2週 小学校学習指導要領図画工作の内容検討 第3週 図画工作教科書、材料と用具 第4週 題材研究-観察表現・想像表現・記憶表現 第5週 題材案の試作-学習のねらい 第6週 題材案の試作と発表-学習支援の方法 第7週題材案Aの実践と考察（1）導入から表現へ 第8週題材案Aの実践と考察（2）表現と鑑賞 第9週 題材案Aの実践と考察（3）まとめ 第10週 題材案Bの実践と考察（1）導入から表現へ 第11週 題材案Bの実践と考察（2）表現と鑑賞 第12週 題材案Bの実践と考察（3）まとめ 第13週 題材案Cの実践と考察（1）導入から表現へ 第14週 題材案Cの実践と考察（2）表現と鑑賞 第15週 題材案Cの実践と考察（3）まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：『文部科学省学習指導要領解説 図画工作』、他、 必要資料を配布する。 参考書：『ベーシック造形技法』建帛社、2006年 『形・色・イメージ+これからの図画工作』日本文教出版、2009年 他、参考となる図書や文献は授業時に随時紹介する。		
成績評価の方法／Evaluation	出席とレポート、また、授業時等の取り組みを総合して成績を評価する。成績の秀は90%以上、優は80%以上90%未満、良は70%以上80%未満、可は60%以上70%未満。なお、2/3以上の出席がないと単位は取得できない。		
学習上の助言／Learning Advice	なるべく図画工作Bを先に受講することはさけ、図画工作科教育法および図画工作Aでの経験・理解をもとに受講を検討してください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	算数科教育法		
担当教員(所属)／Instructor	日野 圭子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S102115
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	小学校算数科の学習指導に関わる基本的な知識の習得をねらい、算数科の目標、内容、指導方法、評価について、具体的な教材を例に挙げながら講義する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・算数科の目標、内容、指導方法、評価についての基礎的な知識・技能を修得する。 ・指導案や授業展開の仕組みなど、指導法の基礎について理解する。 ・児童の算数の学習指導上の実態についての理解を深める。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	小学校教員免許取得に必須の科目である。教科科目「算数」で教科内容の専門的理解を深めるのに対して、ここでは、教職の観点から、児童の発達に即した算数の学習指導の基本的事項を学ぶ。		
前提とする知識／Prerequisites	図書館等で適宜小学校教科書を参照していること。 また、「算数」を受講済みであること。		
関連科目／Related Courses	図書館等で適宜小学校教科書を参照していること。 また、「算数」を受講済みであること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は、講義および演習によって進めていく。 授業時間外の学習では、復習に力を入れて欲しい。授業で配布する資料を読み直し、理解を深めるとともに、関連する資料を調べる。また、宿題は必ず行う。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回授業の目的と方法 第2回算数教育の変遷 第3回日本の子どもの現状 第4回学習指導要領について 第5回数と計算 第6回量と測定 第7回図形 第8回数量関係 第9回算数的活動（1）操作的活動 第10回算数的活動（2）発展的活動 第11回算数的活動（3）言語活動 第12回指導案について 第13回算数科授業の実際 第14回評価 第15回振り返りとまとめ ※時間などの都合により内容を多少変更することがあります。		
教科書・参考書等／Textbooks	資料は適宜プリントで配布をする。また、 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習指導要領解説（算数編），文部科学省，2008年 ・新編算数科教育研究，算数科教育学研究会編，学芸図書，2012年 ・初等科数学科教育学序説，杉山吉茂著，東洋館出版社，2008年 を参考にする。		
成績評価の方法／Evaluation	授業中の課題への取り組み等の状況 20％ 試験 50％ レポート（指導案を含む） 30％		
学習上の助言／Learning Advice	自分が受けてきた算数科教育を振り返りながら，教員養成段階での課題意識を持って受講してください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	初等体育科教育法		
担当教員(所属)／Instructor	茅野 理子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S102808
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	体育科の目標と内容、児童の発達特性と学習課題、運動の特性とその効果的な指導法や指導計画の立案などについて、実践例を紹介しながら概説する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・体育に必要な基礎的知識を理解することができる。 ・体育における基礎的な指導方法を理解することができる。 ・体育の指導計画および学習指導案を作成することができる。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学校教育教員養成課程共通科目における小学校教科教育法の選択専門教育科目として、小学校の教員に求められる体育科指導における知識や技能を身に付ける科目としての意義を持つ。		
前提とする知識／Prerequisites	受講の前提としての知識・経験は問わない。		
関連科目／Related Courses	受講の前提としての知識・経験は問わない。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	前半は体育の授業を展開していく上で必要となる、目標論、内容論、児童論、教材論など理論を中心に講義する。後半は、小学校体育科の6運動領域について、その運動特性をいかした授業のあり方について具体的に考察していく。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週 オリエンテーション（授業方針についての説明） 第2週 小学校における体育科の役割とその目標 第3週 児童の発達特性と発達の課題 第4週 よい体育の授業の条件 第5週 教材づくり（1）：体づくり運動 第6週 学習形態論：ボール運動 第7週 教材・教具論：器械運動 第8週 学習過程論：水泳 第9週 学習評価論：陸上運動 第10週 教材づくり（2）：表現運動（授業観察） 第11週 学習指導の実際（1）実地指導講師① 第12週 学習指導の実際（2）実地指導講師② 第13週 学習指導計画と指導案の立て方 第14週 学習指導案作成 第15週 模擬授業		
教科書・参考書等／Textbooks	それぞれ適宜紹介するとともに、授業時にプリントを配付します。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への参加態度（30%）、模擬授業の指導・学習指導案・課題図書レポート（70%）等を総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	体育が不得意である場合は、教師として子どもたちを支援できるよう、その方法を習得する努力ができる学生を望みます。「よい体育の授業とは」を考え、ひいては「よい教師とは」を模索できる授業にします。		
キーワード／Keywords	体育科の目標、発達特性、6運動領域、教材、学習内容、学習指導案		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	総合学習の指導		
担当教員(所属)／Instructor	川島 芳昭(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S107800
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	小・中・高等学校で実施されている「総合的な学習の時間」の学習指導を実践するための基礎的な知識・技能を習得します。		
授業の達成目標／Course Goals	従来の総合学習の理論や実践を概観するとともにカリキュラムにおける統合や教育方法の特質を理解することが大切です。その上で、小・中・高の各学校における「総合的な学習の時間(以下 総合学習)」が設置された背景やねらい、その教育的意義について理解を深めるとともに、総合学習の実践事例等を参考に指導上必要な基本的な考え方を身に付けることを到達目標としています。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	小・中・高等学校の教員免許を取得するために必要な”教職”に関する選択必修科目であり、教育学部の教育目標”教職・教科に関する知識を習得し、自らの専門分野について深く理解する”に対応しています。具体的には、教員に求められる「総合的な学習の時間」に関する知識や指導法を修得し、課題解決の意義を知ることをめざします。		
前提とする知識／Prerequisites	教育実習を経験していること		
関連科目／Related Courses	教育実習Ⅱを終了していることを前提としています。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教育学部の3・4年生を対象とした授業です。総合学習は、これまでの教科学習と異なり1つの専門的な認識を深めるだけでは対応することが難しい教育課程です。そのため、本授業は、3人の教員が、それぞれの専門的な立場から総合学習について指導します。内容は、総合学習の概要から始まり、理論、実践方法、教師の考え方、課題解決の手法、そして評価方法と一連の流れをもって構成し、体系的な理解と実践的な指導力を身につけることを目的としています。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回：オリエンテーション 第2回：「総合的な学習の時間」の内容・方法 第3回：総合学習の歴史と教育課程における位置づけ 第4回：総合学習の代表的実践の検討 第5回：総合学習の模擬実践 第6回：総合的な学習の時間の実践 附中の実践から・創設期の総合的な学習の時間 第7回：総合的な学習の時間の実践 附小の実践から・現在の総合的な学習の時間 第8回：総合的な学習の時間の実践 単元計画の書き方 第9回：総合的な学習の時間の実践「総合の時間」の単元計画を作成する 第10回：課題解決と情報メディア活用の実践(1)情報活用能力の育成との対応 第11回：課題解決と情報メディア活用の実践(2)実践事例と考え方 第12回：課題解決と情報メディア活用の実践(3)情報メディアの活用 第13回：課題解決と情報メディア活用の実践(4)課題演習 第14回：総合学習における評価の在り方(1)評価方法の基礎、具体事例 第15回：総合学習における評価の在り方(2)評価の実践と授業設計演習		
教科書・参考書等／Textbooks	小・中・高の学習指導要領を全て生協等で入手してください。 その他の参考書等については授業の中で随時紹介します。また必要な資料は配付します。		
成績評価の方法／Evaluation	演習課題やレポート等3種類(各30%)と受講態度(10%)を統合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	・本授業科目は、後期授業開始の最初の金曜日から開講します。ただし、3・4年生を対象としているので教育実習Ⅱが10月にかかるときは、終了後の最初の金曜日から開講します。 ・本授業は、3人の教員により行います。第1回目のオリエンテーションでは、各担当教員より授業の概要と準備物の連絡がありますので、受講する人は必ず出席するようにしてください。 ・授業内容により教室変更がありますので、事前に掲示板でよく確認するようにしてください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	発達心理学特講		
担当教員(所属)／Instructor	橘川 眞彦(教育学部学校教育教員養成課程学校教育コース 学校教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S166008
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	今日の子どもの発達や教育についてのトピックスを取り上げ、発達心理学の研究ではどのようなところまで成果が得られているか講義する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ、不登校、児童虐待、非行などの背景にある心理的発達の問題について理解する。 ・ 発達問題を解決する指導法や環境構成についての技能や能力を習得する。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学校教育教員養成課程学校教育専攻の専門選択科目であり、総合人間形成課程人間発達領域の専門選択科目である。トピックスとして、いじめ、不登校、児童虐待、非行などの背景にある心理的発達の問題について学ぶ。		
前提とする知識／Prerequisites	教育心理学、発達心理学の単位を取得していること。		
関連科目／Related Courses	教育心理学、発達心理学の単位を取得していること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	レジュメなどを提示しながらの講義討論を基本とする。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. 今日の子どもの発達 2. 学校適応の問題 3. いじめの定義と特徴 4. いじめの発生と実態 5. いじめへの介入と対策 6. いじめの予防と指導 7. 不登校の定義と分類 8. 不登校の発生と実態 9. 不登校の療法論 10. 不登校の予防と指導 11. 児童虐待の定義と分類 12. 児童虐待の発生と実態 13. 児童虐待への対応 14. 児童虐待の予防と対策 15. まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	適宜プリントを配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	出席状況(20%)・課題レポート(30%)及び期末試験(50%)を総合評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	発達現象に興味があり、これから進んで発達心理学で卒業論文を作成する意欲のある学生の受講を希望します。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	中等国語科教育法Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	飯田 和明(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S206522
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	飯田 和明(028-649-5259／kz-iida@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	飯田 和明(金曜日 12:10～12:50。飯田研究室。事前にメールで予約を取ることが望ましい。)		
授業の内容／Course Description	中学校、高等学校の「国語」について、主に「書くこと」「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する教材研究方法、および指導法について講義する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校高等学校国語教材(「書くこと」「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」)の教材研究方法について、基礎的な知識・技能を修得する。 ・中学校・高等学校教科「国語」を教えるための、基礎的な指導法を修得する。 ・上記教材研究法・指導法について、その理論的基盤の基礎を理解する。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	「中等国語科教育法Ⅰ」に続くものである。中学校・高等学校免許（国語）取得のための必須科目。中学校・高等学校教科「国語」に係る専門科目（国文学、国語学等）で修得した知識を援用し、国語を教えるための知識・技術（教材研究法・指導法）を修得する。対象校種は違うが、「初等国語科教育法」で修得した知識・技術をさらに発展させるように組み立てられている。学校教育教員養成課程の「学習・教育目標」達成のためには、特に（Ａ）、（Ｃ）、（Ｄ）に強く関係する。		
前提とする知識／Prerequisites	「中等国語科教育法Ⅰ」の学習内容。		
関連科目／Related Courses	「中等国語科教育法Ⅰ」を履修していること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教科書教材や日常的な言語表現などから、具体的な教材を用意し、授業者が提出した課題に受講生が答えていく形式を基本にして、授業を進める。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回ガイダンス 第2回中等国語科教育の概論1（歴史的課題） 第3回中等国語科教育の概論2（現代的課題） 第4回「書くこと」の教材研究法1（概説） 第5回「書くこと」の教材研究法2（文種別） 第6回「書くこと」の教材研究法3（場面設定） 第7回「書くこと」の教材研究法4（まとめ） 第8回「話すこと・聞くこと」の教材研究法1（概説） 第9回「話すこと・聞くこと」の教材研究法2（独話系） 第10回「話すこと・聞くこと」の教材研究法3（対話系） 第11回「話すこと・聞くこと」の教材研究法4（まとめ） 第12回「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教材研究法1（漢字・語句） 第13回「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教材研究法2（文法） 第14回「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教材研究法3（古典） 第15回「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教材研究法4（まとめ）		
教科書・参考書等／Textbooks	基本的に、こちらで資料を用意する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業中に課す課題（30％）と、試験(70％)によって評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	教職科目のため、出席を重視します。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	中等国語科教育法Ⅳ		
担当教員(所属)／Instructor	森田 香緒里(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S207502
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	森田 香緒里(TEL/FAX：028-649-5258、e-mail：kaorin@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	森田 香緒里(水曜12:10～12:50。事前にメールで予約をとることが望ましい。)		
授業の内容／Course Description	中学校・高等学校「国語」についての、指導法及び教材研究法（特に表現指導と、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導）について講義する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究法の基礎的知識を生かし、表現教材や「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教材を、分析することができる。 ・生徒の発達段階や授業における反応を具体的に想定して、教材開発や指導案の構想を行うことができる。 ・模擬授業等のグループでの活動を通して、主体的・協力的に課題に取り組む姿勢を身に付ける。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	「中等国語科教育法Ⅲ」に続くものである。中学校教員免許一種（国語）取得に必須の科目。「中等国語科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で修得した教材研究法及び指導法を、教材作成や模擬授業等の活動を通して実践的・発展的に学ぶ。DP達成のためには、特に(A)、(C)、(E)に強く関係する。		
前提とする知識／Prerequisites	「初等国語科教育法」「中等国語科教育法Ⅰ」「中等国語科教育法Ⅱ」「中等国語科教育法Ⅲ」の単位を修得していること。同時履修は原則として認めない。なお、この授業の受講者は、「国語」で教育実習および模擬授業を行うことになるので、留学生の受講は認めない。		
関連科目／Related Courses	「初等国語科教育法」「中等国語科教育法Ⅰ」「中等国語科教育法Ⅱ」「中等国語科教育法Ⅲ」の単位を修得していること。同時履修は原則として認めない。なお、この授業の受講者は、「国語」で教育実習および模擬授業を行うことになるので、留学生の受講は認めない。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	表現（話すこと・聞くこと、書くこと）教材、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教材を中心とした教材研究を行うとともに、教材開発から模擬授業に至るまでの指導法研究の過程を実践的に学ぶ。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回ガイダンス：講義内容の概要説明、授業の進め方 第2回表現指導の現代的課題 第3回表現指導の研究1（海外の国語教育との比較1） 第4回表現指導の研究2（海外の国語教育との比較2） 第5回表現指導の研究3（発想指導） 第6回表現指導の研究4（要約力、描写力） 第7回表現教材の開発1（主張と根拠） 第8回表現教材の開発2（反論と論証） 第9回伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の指導1（古典） 第10回「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導2（文法） 第11回グループ別指導案の作成1（新しい教材の提案） 第12回グループ別指導案の作成2（教材開発のための討議） 第13回模擬授業と討議1（指導案の検討） 第14回模擬授業と討議2（授業展開の工夫） 第15回模擬授業と討議3（学習活動の工夫）		
教科書・参考書等／Textbooks	香西秀信『反論の技術』明治図書、1995年		
成績評価の方法／Evaluation	授業中に出す課題の成績（40％）と、期末レポートの成績（60％）を合計して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	教職科目なので、出席は特に重視する。		
キーワード／Keywords	国語、教材研究、指導法研究、模擬授業		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	電磁気学		
担当教員(所属)／Instructor	堀田 直巳(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 理科教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S362702
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	堀田 直巳(028-649-5311 hotta@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	堀田 直巳(月, 金: 12:10～12:40 8号館C棟5階堀田研究室)		
授業の内容／Course Description	磁場から初めてマックスウェルの電磁場方程式に至るまでの思考過程を辿りながら電磁気現象の基本法則を理解する。		
授業の達成目標／Course Goals	電磁気現象の基本法則を定量的に理解することを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	実践的で専門的な知識を習得するための専門教育を行う。		
前提とする知識／Prerequisites	「基礎の物理学」と「物理学」を履修しておくことが望ましい。		
関連科目／Related Courses	「基礎の物理学」と「物理学」		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	少人数なのでゼミ形式で学習する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. 磁場とローレンツ力 2. 磁場によるループ電流に働くトルク 3. 演習 4. ビオサバールの法則 5. アンペールの法則 6. 演習 7. ファラデーの法則 8. レンツの法則 9. マックスウェルの方程式 10. 演習 11. インダクタンス 12. LC回路に生じる振動 13. 交流回路 14. マックスウェルの方程式とヘルツの発見 15. 平面電磁波		
教科書・参考書等／Textbooks	「科学者と技術者のための物理学III電磁気学」 R.A.Serway 著、松村訳 (学術図書出版)		
成績評価の方法／Evaluation	演習問題のレポートと期末試験を総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	授業で使われる数学の復習を心がけてください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	器楽B／Instrumental Music B		
担当教員(所属)／Instructor	高島 章悟(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S410092
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	高島 章悟(028-649-5352(研究室直通)またはtakashima@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	高島 章悟(水曜11:00~12:00)		
授業の内容／Course Description	<ul style="list-style-type: none"> ・ギター、篠笛、アルトリコーダーを主とした技術を中心に学ぶ。 ・広く一般に行なわれている楽器(リコーダー、ギター、篠笛等)の技能の習得を目指し、実技を中心に授業を進める。 		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽実技を通じて表現、指導指導を行う上での基礎的な知識技術を身につけることを目標とする。 ・リコーダー、ギター、篠笛等の実技の実践を通して演奏を学んでいく。ここで学ぶ基礎は将来の音楽活動の土台となるものである。音楽を表現する上で、また音楽を活動する上での基礎的な事柄をリコーダー、ギターを通して身に付ける。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	・中学校教科「音楽」に係る科目であり、免許取得のため必修。		
前提とする知識／Prerequisites	入試課題程度の知識		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	音楽を表現、指導を行う上で必要な基礎知識、技術を身につける。篠笛の実技を通して、日本音楽の美意識を学ぶ。さらに楽曲演習を取り入れ、レパートリーの拡充にも努める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 オリエンテーション、ギターの基礎知識及び基本奏法(1) 第2週 ギターの基本奏法(2)及び楽曲演習(1) 第3週 ギターの基本奏法(3)及び楽曲演習(2) 第4週 楽曲演習(3)及び演奏発表 第5週 篠笛 オリエンテーション 音を出す・呂音 第6週 篠笛 簡単な楽曲 甲音 第7週 篠笛 わらべうた・抒情歌(指使い) 第8週 篠笛 // (息のコントロール) 第9週 篠笛 // (リズムにのって吹く) 第10週 篠笛 長唄 (クリアーな音で吹く) 第11週 篠笛 民謡 (ダイナミックに吹く) 第12週 篠笛 合奏・試験 (笛でうたう) 第13週 リコーダー 基本奏法 第14週 リコーダー 楽曲演習(1) 第15週 リコーダー 楽曲演習(2) 第16週 リコーダー 楽曲演習(3)、発表		
教科書・参考書等／Textbooks	アルトリコーダー持参 しの笛ー(鯉沼廣行) プラスチック製篠笛7竿調子		
成績評価の方法／Evaluation	授業の理解度(40%)、貢献度(40%)、発表(20%)の結果を通じて総合的に評価		
学習上の助言／Learning Advice	自発性、感受性を常に心がけること。 授業だけに限らず普段の練習を怠らないこと。		
キーワード／Keywords	ギター、篠笛、リコーダー		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	音楽研究セミナーAⅡ		
担当教員(所属)／Instructor	新井 恵美(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S440006
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	新井 恵美(arai@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	新井 恵美(前期)金13:00～14:00 (後期)金14:30～15:30 これ以外はEメール等で予約をしてください。)		
授業の内容／Course Description	音楽(科)教育に関する論文を書くための、基礎的な手法を学習します。		
授業の達成目標／Course Goals	音楽(科)教育に関する論文を書くための、基礎的な手法を知り、活用できることを目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	音楽(科)教育についてより深く知るための科目。		
前提とする知識／Prerequisites	初等音楽科教育法、中等音楽科教育法Ⅰ・Ⅱを修得済みであること。 また、音楽研究セミナーAⅠを修得済みであること。 音楽(科)教育に興味を持っていること。		
関連科目／Related Courses	初等音楽科教育法、中等音楽科教育法Ⅰ・Ⅱを修得済みであること。 また、音楽研究セミナーAⅠを修得済みであること。 音楽(科)教育に興味を持っていること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	音楽(科)教育に関する、基礎的な先行研究の検討を受講者で行います。先行研究については授業者が指定することもあります。受講者で各自選択してもらうこともあります。また、卒業研究に向けたテーマ設定に向け、文献リストなどの作成も行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回ガイダンス 第2回先行研究の検討(1) 幼児教育 第3回先行研究の検討(2) 専門教育 第4回先行研究の検討(3) 生涯教育 第5回先行研究の検討(4) その他 第6回研究テーマの検討(1) 第7回研究テーマの検討(2) 第8回研究テーマの検討(3) 第9回中間発表 第10回先行研究の文献リスト作成、資料の検索(1) 第11回先行研究の文献リスト作成、資料の検索(2) 第12回先行研究の文献リスト作成、資料の検索(3) 第13回先行研究の検討(1) 第14回先行研究の検討(2) 第15回発表		
教科書・参考書等／Textbooks	授業時に指定します。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への参加度50%、発表及びレポート50%		
学習上の助言／Learning Advice	研究は終わりがありません。各自が決めた研究テーマを出来る限り追究してください。そのために、日々努力しましょう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	技術科教育法 I b		
担当教員(所属)／Instructor	戸田 富士夫(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S615007
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	授業設計, 授業の診断と評価, 学習指導法, 技術科の施設設備と安全管理, 教材研究について学びます。6週を实地指導講師に講義をお願いし, 指導案作り並びに学級経営, 学校経営等について学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの力で指導案, 教材開発や授業設計を行うことができる。 ・授業の内容や方法を創造的に改善する能力を修得します。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校(技術)の教員免許状を取得するための必修科目です。自らの力で教材開発や授業設計ができ, 授業の内容や方法を創造的に改善する能力を培うことを目標とします。		
前提とする知識／Prerequisites	技術教育専攻で開講している科目を履修していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses	技術教育専攻で開講している科目を履修していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義を中心と進めますが, 随時演習を取り入れます。また, 外部講師による講義も行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 ガイダンス 第2週 学習指導要領の指導① 第3週 学習指導要領の指導② 第4週 学習指導要領の指導③ 第5週 授業の診断と評価 第6週 技術科の施設設備と安全管理 第7週 教科としての運営 第8週 教材研究 第9週 学校経営 第10週 学級運営 第11週 指導案作成① 第12週 指導案作成② 第13週 指導案作成③ 第14週 指導案作成④ 第15週 模擬授業		
教科書・参考書等／Textbooks	1. 日本産業技術教育学会技術科教育分科会著, 「技術科教育の研究」, 朝倉書店, (宇大生協で販売) 2. 文部科学省, 「中学校学習指導要領解説ー技術・家庭編ー(平成20年9月)」, 教育図書(宇大生協で販売)		
成績評価の方法／Evaluation	受講態度, レポート提出状況, 期末試験の結果を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	1. 本講義は技術科担当教員を目指す学生諸君にとって必須のものです。欠席しないようにしてください。 2. 技術科担当教員として最小限必要な知識を確実に身につけてください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	アメリカ文化論		
担当教員(所属)／Instructor	幡山 秀明(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S659004
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	「アメリカの夢と悪夢」というテーマで米国の文化や歴史を多角的な観点から概観する。また、中学・高校の英語の教科書内容を吟味しながら、それに関連する米文化関連事項をピックアップして、実際の授業に直接的、間接的に役立つ情報を集め、理解を深める。「歌」、「詩」、伝記」、「社会風俗」等について、語学教育の背景としての豊かな知識を形成する。		
授業の達成目標／Course Goals	米国の文化や歴史について基礎的知識を身につけ、幅広い視点から理解する能力を身につける。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	達成目標1「教育の視点に基づいた人間の発達と社会や文化の形成に関する知識を習得し、自らの専門分野について深く理解している」に関連する。 また、英語教員育成のために異文化理解のための関連知識を身につけ、教える際の幅広い背景知識を修得する。		
前提とする知識／Prerequisites	高校卒業レベルの国語力、英語力、世界史の知識があれば望ましい。文学史や英・米文学演習で得た知識も役立てるようにしてください。		
関連科目／Related Courses	高校卒業レベルの国語力、英語力、世界史の知識があれば望ましい。文学史や英・米文学演習で得た知識も役立てるようにしてください。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業初日に受講生数に対応した予定をたてます。20名以下の場合は、受講生による発表も織り込みます。そのための資料収集と準備が必要になるかもしれません。20名以上の場合は、シラバスに沿って講義を進めていきます。映画等の映像も活用します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	(受講者数により変更有) 1 回目 オリエンテーション: 授業の進め方の説明、アメリカ文化概観。 2 回目 (1) アメリカの夢と悪夢 移民と西部開拓 3 回目 (2) アメリカの夢と悪夢 4 回目 (1) 資本主義の功罪 チャップリンの「モダン・タイムス」等 5 回目 (2) 資本主義の功罪 6 回目 (3) 資本主義の功罪 7 回目 (1) 自由・平等の裏レイシズム リンカーン伝記等 8 回目 (2) 自由・平等の裏 9 回目 (3) 自由・平等の裏 10 回目 (1) 消費文明: 風俗、娯楽、スポーツ、映画、音楽、映画、写真、ポップアート、カウンターカルチャー、性差別と性文化、ドラッグ文化等 11 回目 (2) 消費文明 12 回目 (3) 消費文明 13 回目 (1) 戦争の悪夢 愛国心の罠 14 回目 (2) 戦争の悪夢 15 回目 (3) 戦争の悪夢 16 回目 レポート試験		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書、参考書: 必要場合は授業中に紹介する。		
成績評価の方法／Evaluation	出席状況(15%)、レポート試験(70-85%)、[*発表(15%) 受講生数による]などから総合的に評価する。総合点90%以上「秀」、80%以上「優」、70以上「良」、60以上「可」、59以下「不可」とする。		
学習上の助言／Learning Advice	使用した中学・高校の英語の教科書を保存していれば、利用してください。教員養成の観点から、文化的教材収集・選択・分析、DVDの活用・教材化の工夫など、実践的な知識と指導力を身につけることも目指します。さらに、英語教科書に散見する文化的情報を整理し、現代社会や人間の問題を考察する知識を得るように努めてください。		
キーワード／Keywords	American Dream and Nightmare		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	環境・資源経済学		
担当教員(所属)／Instructor	加藤 弘二(農学部農業経済学科)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S950440
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 3, 水/Wed 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	経済学(主にミクロ経済学)の理論をベースに、環境・資源問題がなぜ起こっているのか、どのような方法で解決することが可能であるかを理解する。		
授業の達成目標／Course Goals	環境税や排出権取引制度など環境政策手段の基本的な考え方を理解するとともに、現状の環境・資源問題と経済との関係を知る。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	ミクロ経済学、マクロ経済学、農業経済学で得た知識をベースに、環境・資源問題に対して経済学の視点から理解を深める。		
前提とする知識／Prerequisites	「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」を受講していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回配布するプリントに沿って講義を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1) 経済成長と持続可能な発展 2) 競争市場の効率性 3) 市場の失敗と環境問題 4) 環境政策その1, 環境税 5) 環境政策その2, 排出権取引制度 6) プロパティライトと環境問題 7) 自然資源の最適利用 8) 再生可能資源 9) 再生可能資源の最適利用 10) 漁業資源管理 11) コモンズ 12) 費用便益分析と環境評価 13) 農産物貿易と日本農業 14) 農産物貿易と農村環境 15) 貧困問題と環境・資源		
教科書・参考書等／Textbooks	特に指定しない。		
成績評価の方法／Evaluation	期末試験(100%)		
学習上の助言／Learning Advice	環境問題に対する経済学からのアプローチを学びます。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	教育社会学		
担当教員(所属)／Instructor	小原 一馬(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S103350
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	小原 一馬(koharak@cc)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	小原 一馬(原則として水曜・木曜 7－8 限だが、教員が研究室にいるときには随時受け付ける)		
授業の内容／Course Description	<p>「どうして勉強しなきゃいけないの？」 そういうことを自分の生徒が言ったら、どう答えますか？自分の子どもが言ったら？ 「それはあなた自身のためだから」というのがふつうかもしれませんが、でもそれなら、本人が勉強しなくてもいいといえば、それまでなんでしょうか？ この授業では、このような素朴でかつ根源的ないくつかの問いを軸にして、個人と社会の関係を教育を通じて考えていきます。</p>		
授業の達成目標／Course Goals	教育を、個人の視点からだけではなく、社会というレベルで見られるようになる、つまり社会学的な見方で見られるようになること。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	共通教職の選択科目の一つであり、教師になる上で、教育を社会と個人の関係から見ていく能力を育む。		
前提とする知識／Prerequisites	小学校「社会」をさきに受講しておくことを強く勧めます。		
関連科目／Related Courses	この授業より高度な内容を「社会学概論」で扱います。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回の授業では、まず教員が大きな枠組みについて説明し、様々な統計などの資料を提示した上で、受講者に問題の理解を深めるような設問を行います。グループごとにその課題に対する答えを出して、発表してもらいながら、さらに教員が説明する、という循環を重視します。またそれとは別に、毎回受講者には感想と質問を紙に書いてもらい、それに対する教員の説明も重視します。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1 教育社会学とは？ 2 どうして勉強するの？素朴な疑問の意味 3 日本は学歴社会でなくなっているの？ 4 学歴の国際比較 5 勉強することの、個人的意味と社会的意味 6 勉強の内容や過程が意味のないことを評価することの意味 7 教育の社会的機能 8 なぜ義務教育が必要なのか4つの仮説 9 学校はどのようににはじまったのか 1 0 義務教育はどのようににはじまったのか（ドイツ） 1 1 義務教育はどのようににはじまったのか（イギリス） 1 2 義務教育の延長と想像の共同体 1 3 現代の教育問題と情報化 1 4 現代の教育問題と個人化 1 5 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	特になし		
成績評価の方法／Evaluation	レポートによる		
学習上の助言／Learning Advice	この授業ではグループでの議論が中心になります。自分がよく知っているはずの「教育」について、社会学という視点からみるとどのようなことが考えられるのか、一緒に考えていきましょう。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	法学概論		
担当教員(所属)／Instructor	黒川 亨子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S252508
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	黒川 亨子(メールアドレス kurokawa@cc. 電話番号(内線) 5285)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	黒川 亨子(前期:水曜10:30~11:30 後期:水曜14:30~15:30 (事前にメールでアポを取ってください))		
授業の内容／Course Description	本講義では、法学を学ぶ基礎を修得したうえで、わが国の司法制度をその担い手や手続の観点から概観する。また、憲法学、民法学および刑法学について、基本的な考え方を学ぶとともに、各法分野における論点をひとつずつ取り上げ、さまざまな角度から検討する。さらに、最高裁判例などの事例も可能な限り紹介し、考察を加える。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・わが国の司法制度の枠組みを理解し、これからの司法制度のあり方を考えるための基礎的な知識を身につけること ・法学を学んでいくうえで必要な能力(六法全書の使い方や条文・判例の読み方等)を身につけること ・論理的に思考し、法を根拠として自分の意見を表明できるようになること 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学校教育教員養成課程:中学校「社会」および高等学校「公民」の免許を取得するための選択必修科目である。社会科教育専攻の1専門分野である「法学」に関する専門科目の入門編として位置づけられる。 総合人間形成課程:地域公共領域の1専門分野である「法学」に関する専門科目の入門編として位置づけられる。なお、高等学校「公民」の免許を取得するための選択必修科目でもある。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし		
関連科目／Related Courses	基盤教育科目:「日本国憲法」および「法学入門」 専門科目:「法学特講A」および「法学特講B」		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式で行う。毎回配付するレジュメに従って講義をすすめる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 ガイダンス、法学を学ぶ意義 第2回 法とは何か、法の位置づけ(国際法を含む) 第3回 法の解釈と三段論法、法的意見表明の技術 第4回 憲法(1)憲法の存在意義 第5回 憲法(2)憲法の事例検討 第6回 民法(1)民法の基本原則 第7回 民法(2)民法の事例検討 第8回 刑法(1)刑法の基本原則 第9回 刑法(2)刑法の事例検討 第10回 わが国の司法制度(1)わが国の裁判制度、裁判所の種類 第11回 わが国の司法制度(2)民事裁判と刑事裁判 第12回 わが国の司法制度(3)司法の担い手たち(裁判官・検察官・弁護士) 第13回 わが国の司法制度(4)裁判員制度の概要 第14回 わが国の司法制度(5)裁判員制度の意義と課題 第15回 まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	最新版の六法(ポケット六法(有斐閣)またはデイリー六法(三省堂))を毎回持参すること。レジュメや資料は、こちらで用意し配付する。参考文献等は、適宜紹介する。 教科書は以下の物を指定する。2冊とも購入すること。 伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』(有斐閣、2005年) 市川正人・酒巻正・山本和彦『現代の裁判〔第6版〕』(有斐閣、2013年)		
成績評価の方法／Evaluation	学期末試験(論述式)で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	身近な事例を素材にした議論を通じて、法学の面白さを体感してもらいたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	哲学概論		
担当教員(所属)／Instructor	山田 有希子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S255000
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	<p>「哲学とはなにか？」という素朴な問いに対して、「その問いこそが常にすでに哲学である」という、いかにも哲学的な答え方が可能である。哲学における、そうした一見興味深く、しかし同時に、無責任ともいえるあり方を克服すること、つまり、曖昧で抽象的な要素を哲学という学問から排除していくこと、それが本講義の目標のひとつである。西洋哲学史を概観した上で、とりわけ近代哲学者たちの議論を紹介しながら、主に次の二つの問いに迫る。第一に、哲学において「考える」ということはどのようなことかを明らかにすること、第二に、「自由と責任」という概念に軸に、「いかに生きるべきか」という、古くかつ新しい哲学的問いを探究することである。</p>		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋哲学史に関する基礎知識、および、哲学的に「考える力」を身につける。 ・学校教育全般において求められる「考える力」とは何か、を考えることができるようになる。 ・中学校「社会」・高等学校「公民」との関連では、とりわけ本講義で言及する「応用倫理の諸問題」を通じて、自らの問題意識をもち、その問題への探究心を養う。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校免許教科「社会」、および、高等学校教員免許教科「公民」を取得するための選択・必修科目である。また、社会科教育専攻の1専門分野である「哲学」に関する入門編としての意義を持つ。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。ただし、受講生のみなさんには、教員の説明を素直に鵜呑みにするのではなく、常に自身の考えをめぐらせつつ、積極的かつ批判的な姿勢で講義に臨んでほしい。		
関連科目／Related Courses	哲学特講A, 哲学特講B		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回プリントを配布するので、受講者は、講義を通し、そのプリントに基づいてオリジナルの教科書を作成しながら探究をすすめてほしい。また§ごとに当該ポイントに関する「問題」を提示するので、各自その「回答」を作成することで、自分なりの意見や考えを論理的に展開する作業を重ねて欲しい(希望者には添削)。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第 1 週 ガイダンス 第 2 週 § 1 はじめに哲学とは何か (1) 哲学の起源 (2) 「哲学界」の活動 第 3 週 (3) 哲学の「目的」について 第 4 週 § 2 われわれの「日常性への疑い」 (1) デカルトの方法的懐疑 第 5 週 (2) デカルトの懐疑への懐疑 第 6 週 § 3 西洋哲学史概観 (1) 西洋哲学史の時代区分 第 7 週 (2) 中世から近代への三大革命 第 8 週 § 4 「考える」ことを考える (1) 論理的思考法 第 9 週 (2) 科学的思考法 ① 第 10 週 ② 第 11 週 § 5 自由と責任の問題について 第 12 週 (1) 「自由」という概念の変遷について 第 13 週 (2) 「いかに生きるべきか」を求めてその 1 第 14 週 その 2 第 15 週 おわりに 言葉と哲学		
教科書・参考書等／Textbooks	必要な資料・レジュメは適宜配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	学期末試験の結果(100点満点)で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	毎回の出欠カードに受講者のみなさん自身の意見や批判、質問等をまとめてもらい、次回の講義内容はそれにもとづいて再編成していく双方向型の授業を目指しています。そのため、受講者には、積極的な参加を求めます。		
キーワード／Keywords	言葉 自由 責任 倫理 哲学		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	数学科教育法Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	牧野 智彦(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S312128
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	数学的活動のねらい、指導方法、評価などについて、具体的な教材・指導事例に即して講義する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的活動の目標、内容、指導方法、評価についての知識を修得する。 ・数学的活動を中心とした授業づくりの留意点についての理解する。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校教員免許取得に必須の科目である。中学校・高等学校数学科において一層重視される数学的活動について学ぶ。		
前提とする知識／Prerequisites	1年次で受講可能な教育学、心理学や数学関係の科目、並びに算数科教育法と数学科教育法Ⅰを履修していること。		
関連科目／Related Courses	1年次で受講可能な教育学、心理学や数学関係の科目、並びに算数科教育法と数学科教育法Ⅰを履修していること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義と演習を中心に進める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. 学習指導要領の改訂について：背景と経緯 2. 日本の中学生の数学学習の実態：国内調査の問題と結果 3. 日本の中学生の数学学習の実態：国外調査の問題と結果 4. 中学校数学科の学習指導要領の変遷 5. 中学校数学科の目標 6. 中学校数学科の内容：図形(平面図形) 7. 中学校数学科の内容：図形(空間図形) 8. 中学校数学科の内容：証明 9. 中学校数学科の内容：資料の活用 10. 中学校数学科の教材研究：授業づくり(実地指導講師担当分) 11. 中学校数学の教材研究：指導案の作成(実地指導講師担当分) 12. 数学的活動(1) 数学を見出す活動 13. 数学的活動(2) 数学を利用する活動 14. 数学的活動(3) 説明し伝え合う活動・言語活動 15. 中学校数学科の評価：評価の意味と評価規準		
教科書・参考書等／Textbooks	講義資料は配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業参加の様子(出席状況も含む)(20%)、期末試験(80%)で評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	まずは、学ぶ立場での数学と教える立場での数学の違いを実感するとともに、数学は公式や計算の手続きを覚え、それを適用して答えを求めることだけではないことを理解して、数学を教えるとはどういうことかを再考して下さい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	物理学		
担当教員(所属)／Instructor	堀田 直巳(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 理科教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S354009
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	堀田 直巳(028-649-5311 hotta@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	堀田 直巳(月, 金: 12:10～12:40 8号館C棟5階堀田研究室)		
授業の内容／Course Description	ニュートン力学に引き続き「電気・磁気現象, 物質の構造, 核エネルギー等」の物理学についての理解を深める。		
授業の達成目標／Course Goals	この授業科目は、教員免許中学校教科「理科」に係る科目である。電気と磁気, 物質の微視的な構造, 核エネルギーについて、われわれの生活や技術と物理学の関わりについて知る。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	実践的で専門的な知識を習得するための専門教育を行う。		
前提とする知識／Prerequisites	「基礎の物理学」を履修しておくこと。		
関連科目／Related Courses	「基礎の物理学」		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	各項目の基礎的な事項について講義し、例題の解説、小テストを適宜行い理解を深めるよう努力する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回授業計画、講義、成績評価、参考書等の紹介を行う。 第2回静電気とは: 電子の構造と静電気, クロンの法則 第3回静電気とは: 電場, 電気力線, 電位 第4回静電気とは: 導体, 半導体, 絶縁体, 電気容量 第5回電流と抵抗: オームの法則、抵抗 第6回電流と抵抗: ジュール熱 第7回磁気 第8回電磁誘導と電磁波 第9回電気と磁気に関する小テストを行う。 第10回物質の構造: 原子の構造 第11回物質の構造: 物質の三態, 結晶, 半導体, エックス線 第12回核エネルギー: 原子核の成り立ち 第13回核エネルギー: 核分裂と核融合 第14回核エネルギー: 放射能、質量欠損、核分裂 第15回総合演習		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書: 木下紀正他著「物理学の基礎」東京教学社(宇大生協で販売) 参考書: 原 康夫著「力学と電磁気学」東京教学社(図書館にある) 配布教材		
成績評価の方法／Evaluation	小テスト(20%), 期末試験(80%)。		
学習上の助言／Learning Advice	物理学の理解は、化学や地学、ときには生物学や工学、農学の理解を助ける基礎となる場合がある。物理教材についての実践的理解を深め、教材に対する資質能力を確実に身につけるように取り組んで下さい。		
キーワード／Keywords	学校教育教員養成課程, 理科教育, 物理学		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	立体構成 I		
担当教員(所属)／Instructor	松島 さくら子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S454007
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	松島 さくら子(松島研究室 sakurako@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	松島 さくら子(質問・相談がありましたら、躊躇せずにメールにて問い合わせの上訪ねてください。Students wishing to meet with me should first email.)		
授業の内容／Course Description	私たちの生活環境はあらゆる立体物に囲まれている。普段特に意識して立体物に接していないかもしれないが、現実には思い描いた立体的イメージを形成するためには、どのような認識が必要なのか、イメージ・素材・空間・機能性など様々なアプローチを通して立体を形成するための基礎的な実技を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	具体的な題材をイメージ化し立体物として実現させる課題、紙・スタイルフォームなどそれぞれ材質・加工要領の異なる素材を使用し立体物を形成していく課題を行う。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	立体構成Iは、学校教育教員養成課程の専門教育科目の美術の中学校教科として専門性を深める必修の授業である。また総合人間形成課程では、芸術文化領域専門科目として芸術の領域の専門基礎力を養う授業である。高等学校一種「工芸」必修科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	基礎的な美術表現経験があることが望ましい。立体構成IとIIを同期に履修すること。		
関連科目／Related Courses	デッサン, 平面構成, デザイン, 彫塑, 工芸I, 工芸II, 工芸III, 工芸III, 立体構成I, 立体構成II, 美術表現基礎, 工芸科教育法I, 工芸科教育法II, 美術演習A, 美術演習B		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回授業のはじめに、その日の実技作業の重要事項（材料について・道具の取り扱い・技術・技法等）を説明し、毎回の授業の到達目標に沿って、実技課題に取り組んでいく。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	<p>課題1 与えられた自然物のモチーフを観察・スケッチし、モチーフからイメージを引き出し、スタイルフォームを削り加工して、立体構成をおこなう。 第1回課題説明とアイデアスケッチ 第2回模型作成 スタイルフォームの加工 第3回スタイルフォームの加工 仕上げと講評</p> <p>課題2 与えられた機能や条件を満たしたイメージを、ケント紙を使用し切る・折る・組む・接着する等加工して、立体構成をおこなう。 第4回課題説明 紙の特徴や扱いについて アイデアスケッチと模型作成 第5回ケント紙の加工 アウトラインの加工 第6回ケント紙の加工 細部の加工 第7回ケント紙の加工 仕上げと講評</p> <p>課題3 与えられた形体や機能を満たした立体物を構成する。 第8回課題説明と材料・材料の加工について 第9回アイデアスケッチ 第10回アイデアスケッチの展開 第11回素材の特徴や扱いについて 第12回素材の加工 第13回素材細部の加工 第14回仕上げ 第15回講評</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	スケッチブック（エスキース用）、鉛筆、その他必要に応じて指示する。 教材（2000円前後）はまとめて購入するが、一部加工に必要な材料や道具は指示をするので各自用意する。		
成績評価の方法／Evaluation	提出作品（70％）と、授業への取り組み（30％）を総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	立体構成の授業を通し、様々な素材と立体造形にふれ、教育現場での多彩な指導につながるよう期待する。		
キーワード／Keywords	工芸, 漆芸, 金工, 陶芸, ガラス, 染織, 木工, craft, urushi, lacquer		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	美術史		
担当教員(所属)／Instructor	本田 悟郎(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S461005
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	西洋美術の変遷を軸に美術史を概観する。美術史の通史理解に留まらず、特に近代以降の芸術運動や美術概念の変遷を主要な論点として講義する。また、日本美術についても、文化的様相を包括的に捉え、近代以降の西洋美術との関係性に視点を置き、その生成と展開を解説する。		
授業の達成目標／Course Goals	専門領域としての美術史に学的に関わるための姿勢とその基礎的素養を育むとともに、美術史研究を通して、美術への理解を深め、芸術観、教育観の視野を広げることを目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校教科美術および高等学校芸術(美術)に関わる科目であり、美術の変遷から表現の多様性を理解し、理論的な裏付けを踏まえた、表現と鑑賞の指導を充実させることに対応している。		
前提とする知識／Prerequisites	教育や美術に関するこれまでの経験と知識を出発点としながらも、さらに、新たな知見を得ようとする姿勢を求める。日本美術史の中世以前に関しては「美術実地調査演習」で扱われており、また、時間配分の都合から、この授業では扱いを最小限にとどめる。同授業も関連する科目として受講することが望ましい。		
関連科目／Related Courses	美術理論、近現代美術論		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	視聴覚教材等を活用し講義形式の授業を行う。テーマごとにレポートの作成と発表があり、意見の交換と共有を図り、美術史への関心を高める。また、必要に応じて美術館での作品調査や鑑賞に関連する実践活動への参加を取り入れる。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第 1週 授業計画等の説明／西洋美術と日本美術美術の始源 第 2週 西洋美術史①古代・ギリシア・ローマ美術 第 3週 西洋美術史②中世・ゴシック 第 4週 西洋美術史③ルネサンス 第 5週 西洋美術史④バロック・新古典主義 第 6週 美術の近代 印象派・後期印象派 第 7週 20世紀美術①フォーヴィスム・キュビズム 第 8週 20世紀美術②ダダと未来派 第 9週 20世紀美術③シュルレアリスム 第10週 20世紀美術④アンフォルメルと抽象表現主義 第11週 20世紀美術⑤ミニマルアート・アースワーク 第12週 20世紀美術⑥ポップアート 第13週 日本の美術①近代の西洋美術受容 第14週 日本の美術②戦中・戦後の美術 第15週 現代美術の諸相		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：『カラー版西洋美術史』高階秀爾、美術出版社、2002年 参考書：『カラー版日本美術史』辻惟雄、美術出版社、2003年、他、参考となる図書・文献・図録は授業時に随時紹介する。		
成績評価の方法／Evaluation	出席や発言、レポート等の取り組みを総合して成績を評価する。成績の秀は90%以上、優は80%以上90%未満、良は70%以上80%未満、可は60%以上70%未満。なお、2/3以上の出席がないと単位は取得できない。		
学習上の助言／Learning Advice	美術史および美術概念の変遷を学ぶことで、過去から現在へとつながる文脈に、今日の美術表現を見つめ直し、今を生きる自身の活動に新たな視点を加えられることを期待する。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	ダンス A		
担当教員(所属)／Instructor	茅野 理子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S503004
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	運動、イメージ、構成課題などを手がかりとした課題学習を中心とし、踊る・創る・観るというダンス技能の基礎習得をめざす。それとともに、様々な教育現場におけるその指導法を実習する。あわせてフォークダンス、現代的なリズムのダンスについても実習する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンス領域指導に必要な基礎的技術を体得することができる。 ・ダンス領域指導における基本的な知識と技能を習得することができる。 ・ダンス領域領域の授業設計をすることができる。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学校教育教員養成課程専門教育科目の選択必修科目であり、保健体育科のダンス領域指導の基盤となる技能を深く学習し実践する。		
前提とする知識／Prerequisites	受講の前提としての知識・経験は問わない。		
関連科目／Related Courses	受講の前提としての知識・経験は問わない。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業は体ほぐしの内容から始める。リズムにのって楽しく「踊る」こと(弾みのある動きの体得)から「創る・観る」楽しさへ発展させられるように授業を展開していく。また、小・中学校の教材を、児童生徒の立場で実践することにより、その授業展開、指導上の留意点などの指導技術について学習する。誰もがリーダーとなる授業場面を設定するとともに、指導者としての練習(パーカッションやことばかけ)も行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. オリエンテーション 2. リズムにのって楽しく踊ろう！ー体ほぐしからダンスへー 3. 物を使って(1)新聞紙で動き作り 4. 物を使って(2)典型教材「しんぶんし」を用いた1時間完結学習 5. フォークダンスの指導：基本知識と技能 6. 現代的なリズムのダンスの指導：基本知識と技能 7. 現代的なリズムのダンスの指導：応用ー動きの変化・発展ー 8. 「ひと流れの動き」の学習 9. イメージ課題(1)デッサン 10. イメージ課題(2)多様化と極限化 11. 運動会・体育祭作品のまとめ方(1)イメージ課題の提示 12. 運動会・体育祭作品のまとめ方(2)群・構成課題の提示 13. グループ作品発表と鑑賞 14. 模擬授業1 15. 模擬授業2		
教科書・参考書等／Textbooks	授業時にプリントを配付する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への参加態度(30%)、実技点(模擬授業を含む50%)、レポート(20%)を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	外界(他者や運動教材を含む)と関わり、自己を見つめなおす…気づきと学びの場にしたいと思います。		
キーワード／Keywords	創作ダンス、現代的なリズムのダンス、フォークダンス、指導法		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	中等保健体育科教育法（体育2）		
担当教員(所属)／Instructor	加藤 謙一(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 保健体育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S518001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	中学校および高等学校における保健体育の授業に必要な知識や技能とそれらにかかわる指導方法について学習します。		
授業の達成目標／Course Goals	中学校および高等学校における保健体育の授業に必要な知識や技能とそれらにかかわる指導方法について理解を深める。 体育や保健の授業を客観的に観察し、良い点や問題点を指摘することができたり、また、そうした指摘をもとに授業を改善するための具体的な方法を提案できるようにします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための必修科目であり、教育実習などの研究授業を省察し、保健体育の指導力を高める科目としての意義を持ちます。		
前提とする知識／Prerequisites	初等体育科教育法、中等保健体育科教育法（体育1）を履修し、さらに教育実習Ⅱを終えていること。		
関連科目／Related Courses	初等体育科教育法、中等保健体育科教育法（体育1）を履修し、さらに教育実習Ⅱを終えていること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	VTRによる授業観察による省察を行いながら授業を進めます。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1週授業観察の仕方と省察の方法 第2週教育実習Ⅱ（中学校体育）における授業観察とその省察1 第3週教育実習Ⅱ（中学校体育）における授業観察とその省察2 第4週教育実習Ⅱ（中学校体育）における授業観察とその省察3 第5週現職教員（中学校体育）による授業観察とその省察1 第6週教育実習Ⅱ（中学校体育）における授業観察とその省察4 第7週教育実習Ⅱ（小学校体育）における授業観察とその省察5 第8週教育実習Ⅱ（小学校体育）における授業観察とその省察6 第9週教育実習Ⅱ（小学校体育）における授業観察とその省察7 第10週教育実習Ⅱ（中学校体育）における授業観察とその省察8 第11週教育実習Ⅱ（中学校体育）における授業観察とその省察9 第12週教育実習Ⅱ（中学校保健）における授業観察とその省察10 第13週現職教員（中学校体育）による授業観察とその省察2 第14週総括 第15週予備日		
教科書・参考書等／Textbooks	教育実習Ⅱに使った学習指導案、中学校保健体育教科書、学習指導要領解説（小学校体育編、中学校保健体育編、高等学校保健体育編・体育編）		
成績評価の方法／Evaluation	出席状況（授業への取り組み方：20%）とレポート（80%）によって評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	保健体育教員になるイメージを描きながら、教員としての使命感や責任感、専門性および教育的愛情なども念頭におきながら積極的に受講してください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	保育論		
担当教員(所属)／Instructor	良 香織(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S554016
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	生命がどのように誕生し、成長発達するのか、その特徴と発達課題について学習する。また、子どもの人権が福祉、教育、労働などの分野でどのように保障されているか/いないかについて考える。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちと環境との関係について、子どもの心身の発達を踏まえて理解する。 ・子どもの育ちに必要な環境とは何かについて具体的に考える。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	家政教育専攻の教科専門科目として保育に関する基本的知識を提供するとともに、次世代の子どもに必要な環境は何か、具体的に考える。		
前提とする知識／Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> ・保育・教育に関する基礎的な知識(社会保障、子ども福祉、またはそれに関する時事等) ・自らの保育・教育経験を含む「子どもの育ち」をさまざまな側面から捉えられること。 		
関連科目／Related Courses	<ul style="list-style-type: none"> ・保育・教育に関する基礎的な知識(社会保障、子ども福祉、またはそれに関する時事等) ・自らの保育・教育経験を含む「子どもの育ち」をさまざまな側面から捉えられること。 		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	・個人または小グループによる討論、ワーク、課題研究・発表、関連した教材の紹介等を適宜行なう。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1)オリエンテーション(アイスブレイク、授業の計画、方法について、保育に関する簡単なアンケート) 2)保育とは何か(昨今の課題を含む) 3)~4)ライフステージと性 5)~7)現行の保育制度 8)~10)子どもの権利とは何か 11)~14)保育とは何か(グループワーク、課題研究・発表等) 15)まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	◆教科書： 全国保育団体連絡会・保育研究所編『保育白書2015』、ひとなる書房 ◆参考書： 中西新太郎著『〈生きづらさ〉の時代の保育哲学』、ひとなる書房 ◆教材： 適宜配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	出席・授業考察文(40%、但し出席2/3以上)、発表等(40%)、期末テスト(20%)。60%以上合格。		
学習上の助言／Learning Advice	<ul style="list-style-type: none"> ・「講義を受ける」と考えるのではなく、積極的に参加し、自分で考えること。そのプロセスを評価します。 ・学生の皆さんは、今後、保育・教育に関わる者として、1つの物事を多面的に見ることができるようになってほしいです。「当たり前」「自然」と思ってきたことを改めて社会科学的に考えてみる。生きること全般に関する事象を様々な視点から考える&様々な情報を集める。それによって本当の意味での「想像力」が身に付くのではないのでしょうか。学生時代、そして社会人になってからも継続してそういう経験を積み重ねることは、子どもたちに向き合う時にとても重要になるのではないかと思います。焦らずに、積み重ねていきましょう。 		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	電気工学Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	苫米地 義郎(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S612008
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	苫米地 義郎(金曜日12:30～12:50(苫米地研究室) 非常勤ゆえ未定)		
授業の内容／Course Description	交流回路における3つの電力(有効、無効及び皮相電力)や共振回路における共振周波数やクオリティファクターを算出する手法を学ぶことにより、電気回路学的重要性を学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・皮相電力、有効電力、無効電力、共振周波数及びクオリティファクターの物理的意味を説明できる。 ・与えられた回路において、皮相電力や有効電力等を算出できる。また、力率改善の手法も理解できる。 ・共振回路において、その回路が共振しているときの、有効電力と無効電力の関係を定量的に理解できる。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校一種(技術)の教員免許状の取得要件となる科目です。		
前提とする知識／Prerequisites	電気工学Ⅰで学んだ知識があれば十分である。		
関連科目／Related Courses	電気工学Ⅰで学んだ知識があれば十分である。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	電気工学Ⅰと同様、授業者が各週における学習テーマについて解説を行う。受講者は下記に示した教科書に記載されている演習問題を解き、それを黒板を用いて全員に説明する。最後に授業者は補足説明をするとともに、誤っている場合は訂正をする。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週ガイダンス(本講義の電気工学における位置、授業計画、授業方法、成績評価方法) 第2週3つの電力の定義及びそれらの関連性 第3週力率の定義 第4週複素電力の導入 第5～7週力率改善の方法 第8週最大電力供給の法則 第9～10週直列共振 第11～12週並列共振 第13週Q値の定義とその電気的意味 第14～15週ベクトル軌跡図 第16週定期試験		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書:「電気回路」エドミンスター著村崎憲雄訳コロナ社(宇都宮大学生協にて購入してもらう。価格は2500円程度。 参考書:電気回路に関する参考書は数多く販売されているが、本学図書館にも数多く用意されているので、図書館の利用を薦める。		
成績評価の方法／Evaluation	演習課題(20%)、学期末試験(60%)、出席状況(20%)等を総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	我々の生活に身近な存在である電化製品において電力や共振現象の概念は非常によく利用されている。本講義を受講する際にはただ数式を追うのではなく、これら電気的な現象がどのように電化製品に生かされているかを念頭において臨みたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	イギリス文化論		
担当教員(所属)／Instructor	出羽 尚(国際学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S658008
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	出羽 尚(izuha@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	出羽 尚(月曜日14:30-16:00)		
授業の内容／Course Description	イギリスの文化を形成する様々な側面について広く学ぶ。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリス文化についての基礎的な知識を獲得する。 ・獲得した知識をもとに、その他の分野・地域の文化的事象に対しても積極的に興味を広げられるようにする。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	国際学部のディプロマ・ポリシー(A)世界における文化のありようを歴史的(時間軸)・地理的(空間軸)観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけたうえで、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する、に対応する。		
前提とする知識／Prerequisites	様々な文化に興味を持とうとする積極性		
関連科目／Related Courses	「英語圏文化論」、「ヨーロッパ地域文化論(基盤)」、「芸術と自然(基盤)」		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義形式が基本ではあるが、人数によっては、発言をしたり、考えをまとめたりする機会もある。併せて、文献を要約する作業と作品調査を複数回行ってもらう。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 イントロダクション：イギリスの現状・地理 第2-3回 言語 第4-5回 美学・文学 第6-7回 庭園 第8回 見学(庭園と建築) 第9-10回 建築 第11回 博物館・美術館 第12-13回 美術 第14回 大衆文化 第15回 まとめ 第16回 期末テスト		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は定めない。必要な参考文献を提示した資料を配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	授業時の活動(文献要約、作品調査等)40%と期末試験60%の割合で算出し評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	主体的に様々な文化に触れるよう努めて欲しい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	特別支援教育概論		
担当教員(所属)／Instructor	池本 喜代正(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S702130
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	障害概念、特別ニーズ教育の国際的動向、我が国の特別支援教育制度などに関する内容を扱う。		
授業の達成目標／Course Goals	障害に関する今日的な捉え方を踏まえて、特別支援教育に関心を持ち、我が国の特別支援教育の理念・制度について理解し、特別支援学校や特別支援学級の教師として必要な基礎的な知識を習得することを目指します。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	特別支援教育に関する基礎的知識を獲得し、特別支援学校への関心を持たせ、教師への志向を高める。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。		
関連科目／Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教員の作成するPP資料や、ビデオ視聴などにより、進めていく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週「障害」とは何か障害の捉え方 第2週ICFの考え方 第3週我が国戦前の障害児教育 第4週戦後の障害児教育 第5週外国における障害児教育の歴史 第6週特別支援教育の国際的動向 第7週我が国の特別支援教育制度 第8週障害幼児の特別支援教育 第9週就学指導と学校選択 第10週小・中学校における特別支援教育 第11週通常学級における特別支援教育の対象 第12週特別支援学級・通級指導教室の教育 第13週個別の指導計画 第14週特別支援学校の教育 第15週センター的機能とその役割 第16週試験		
教科書・参考書等／Textbooks	・参考書：渡邊健治他、特別支援教育の基礎、田研出版 ・参考書：日本発達障害福祉連盟、発達障害白書2016年版、日本文化科学社 ・教員が作成したプリントにより講義は進める。		
成績評価の方法／Evaluation	定期試験80%、小テスト20%		
学習上の助言／Learning Advice	わからない点は遠慮なく質問してください。		
キーワード／Keywords	特別支援教育、インクルーシブ教育、教育制度、ICF		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	音楽A		
担当教員(所属)／Instructor	新井 恵美(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S101615
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	新井 恵美(arai@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	新井 恵美（（前期）金13：00～14：00 （後期）金14：30～15：30 これ以外はEメール等で予約をしてください。）		
授業の内容／Course Description	小学校の教員が音楽科の授業を行う際に必要な、音楽の基礎、簡単な楽典、楽器（リコーダー、打楽器など）の奏法などを扱います。また、楽譜を読む練習をしたり歌を歌ったりなどの実技や鑑賞も全体で行います。		
授業の達成目標／Course Goals	実技等の実践を通して、小学校音楽科の授業を行うのに最低限必要な知識、技能の習得をめざします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学校教育教員養成課程の必修科目です。 小学校音楽科の授業を行うのに最低限必要な知識、技能の習得をめざす授業です。		
前提とする知識／Prerequisites	小・中学校での音楽経験（＃ｂ１つまでの調号を持つ楽譜を読むことができるなど）。		
関連科目／Related Courses	小・中学校での音楽経験（＃ｂ１つまでの調号を持つ楽譜を読むことができるなど）。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	楽典では、内容の説明の後、問題演習を行います。 打楽器、ソプラノリコーダーの実習は、奏法の確認の後、実技を行います。 歌唱（楽譜を読む練習も含む）やリズム打ちなどは、クラス全員で実習を行います。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回オリエンテーション 第2回鑑賞（１）、楽典（１）楽譜とは 第3回鑑賞（２）、楽典（２）音符と休符 第4回鑑賞（３）、楽典（３）五線と音名 第5回鑑賞（４）、楽典（４）拍子の表し方（指揮法） 第6回鑑賞（５）、楽典（５）反復記号、強弱記号など 第7回鑑賞（６）、打楽器（１）概説 第8回鑑賞（７）、打楽器（２）タンブリン、トライアングル、カスタネット、すず 第9回鑑賞（８）、打楽器（３）ウッドブロック、クラベス、マラカス、シェイカー 第10回鑑賞（９）、打楽器（４）ギロ、カバサ、カウベル、アゴゴー、ヴィブラスラップ、ウィンド・チャイム 第11回鑑賞（10）打楽器（５）ボンゴ、コンガ、シンバル、大太鼓、小太鼓、ティンパニ、木琴、鉄琴 第12回鑑賞（11）、打楽器（６）トーンチャイム、ベル、リコーダー（１）リコーダーの種類、持ち方、構え方など 第13回鑑賞（12）、リコーダー（２）左手の練習、右手の練習 第14回鑑賞（13）リコーダー（３）サミング 第15回鑑賞（14）リコーダー（４）派生音 実技のため、進捗状況によって内容が前後することがあります。 また、適宜、歌唱（合唱を含む）や合奏なども行います。その際、楽譜を音名（ドレミ）で歌う演習やリズム打ちなども行います。		
教科書・参考書等／Textbooks	科書 改訂版楽譜が読めると音楽がおもしろいメトロポリタンプレス 参考書 知っておきたいおとなのための音楽知識カワイ出版 五線譜の約束明星大学出版部 初等音楽科教育法ハートフルメッセージ明星大学出版部 ミッキーといっしょ楽譜のやくそくヤマハ 高校生のための新・楽典ワークドレミ楽譜出版社 問題・解答付きでわかる！楽譜の読み方デプロMP よくわかるやくにたつザ・楽典ヤマハ きれいにうたいましょうソルフェージュ１～３ヤマハ リズムに強くなるソルフェージュショパン リズム練習とソルフェージュ１～３全音楽譜出版社 器楽合奏にチャレンジ１～３汐文社		
成績評価の方法／Evaluation	リアクションペーパーの記入状況（30％）ペーパーテスト（70％）で評価します。		

学習上の助言／Learning Advice	ソプラノリコーダーを使用します。小学生の時に使用していたもので構いませんが、新たに購入する場合には、いくつかの注意事項がありますので、初回の説明を聞いてから購入してください。 各教員のクラスの学生数は、実技授業の関係上、原則として50名程度とします。 実技能力の向上のために、予習・復習をしっかりと行ってください。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) ／Course Title	図画工作 A		
担当教員(所属)／Instructor	山口 喜雄(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 美術教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S101775
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	小学校でよりよい図画工作指導を行うために必要な表現と鑑賞の実技を体験します。楽しく充実した授業づくりに不可欠な各学年児童の発達の理解および見通をもった具体的で多様な指導法、学習指導案作成の基礎となる図画工作の沿革・時代認識・学習指導要領・学力観・評価なども実技と関係的に解説します。		
授業の達成目標／Course Goals	多様な状況に対応し図画工作の授業実践を創造的に行える教師としての態度と能力の育成を目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	各授業の開始時に当日の学習課題を焦点化させ、終了時に自分の到達点を自覚できるように授業を展開します。また、毎回の学習内容が興味深い活動の連続的な展開となり、受講者が自分の「よさ」に気づき、自他の可能性を自覚できるように設定し、その過程で児童期に形成された受講者の不得意意識の解消を図り、同様の悩みをもつ児童への共感的な態度を養います。さらに、図画工作の理念や理論、多様な題材・教材の実践事例、多様な状況に応じた児童への接し方、評価・評定などを関係的に理解できるように授業を進めます。		
前提とする知識／Prerequisites	上記を理解し、やる気と必要な用具の持参、準備をして受講すれば、特に必要なことはありません。		
関連科目／Related Courses	美術教育専攻生は、「美術科指導法Ⅱ」で現代文化状況下での中学校美術の多様な学習指導法を学べます。また「美術科指導論」では、実資料に基づき明治・大正期、昭和前期・後期、平成期の美術教育の沿革や学習指導法を多様な観点から学ぶことができます。美術教育専攻生でなくとも、興味がある他専攻生が多数受講した実績があります。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	1)【学生の視点】毎授業開始時に前記の「学習課題」に関する理解状況を記入します。 2)【児童の視点】小学生にできる「表現」「鑑賞」の実習に取り組みます。 3)【教師の視点】表現や鑑賞の指導に求められる理念や具体的な指導法等々を学びます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	[a基礎編：理念・理論実践の全体像の形成]……以下は各回の「学習課題」例 1. 進学熱の高い小学校に赴任、6年生の初授業で学習方針をどのように語るか 2. 《自分を伝える》絵の導入時、6年生のやる気が高まるようにどう語るか 3. ひとり一人のよさを引き出す《自分を伝える》絵の鑑賞活動をどう展開するか 4. 自分の作品を「児童作品」としてとらえ、そのよさを教師としてどう語るか 5. 6年生からの「図画工作でいう個性って何ですか」との質問にどう応えるか 6. ハサミを使う2年生の《より高く美しいタワー》の安全指導をどう語るか 7. 5年生の問い「”芸術”と子どもの表現とどうちがうの」にどう応えるか 8. 筆を使わずに描く5年生の《グチャグチャ君の芸術》をどう評価するか 9. 図画工作で使う画材の特性(基礎知識)を実習を通して6年生にどう伝えるか 10. 高学年生への美術館での鑑賞学習の事前指導・レポート作成をどう指導するか 11. 1年生の問い「図画工作ってどうしたらできるようになるの」にどう語るか 12. 「日本文化」を図画工作学習にどう具体的に反映させた授業をつくるか 13. つくり・描き・鑑賞時の発表の際にどのような言葉かけが励ましとなるか 14. 低・中・高学年の図画工作を見通して、子どもの「想い」をどう培っていくか 15. 新学習指導要領「図画工作」の「新しさ」を学校教育と子どもの視点で考える		
教科書・参考書等／Textbooks	新井・天形・山口編『小学校図画工作科の指導』建帛社(2010年刊)、文部科学省編『小学校学習指導要領解説図画工作編平成20年8月』、色鉛筆12色、パス類16色、はさみ、水彩絵具セット、他の必要な教材授業等は各々前回に連絡します。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への積極的な参加や学習課題への主体的な考察・表現意図の発表・授業ノートや表現した作品等々60%、毎回のレポート提出・最終回的小論文40%、両者を総合的に評価します。授業への出席は、教育実習等を除く4/5以上が必須条件です。		
学習上の助言／Learning Advice	本授業(後期水曜日7-8 時限)は、数学教育専攻、美術教育専攻、技術教育専攻および英語教育専攻の2年生41名(予定)の指定科目です。受講条件の低下に全受講者が同意できれば、総定員40名までの若干名の受講希望者は受け入れられます。 【重要】他に専攻指定がない図画工作Aは、前期木曜3-4 時限と同5-6 時限があります。→後期水曜3-4があります。その際、座席数を超えない範囲で4年次生・次に3年次生を優先し、2年生以下は初回授業で抽選や相談を行うので初回出席が必須条件です。空きがない場合は、2回目以降の受講希望は受け入れられません。(今年度から登録用紙事前記入は行いません)		
キーワード／Keywords	図画工作、美術教育、造形の表現と鑑賞、造形遊び、評価・評定		
備考／Notes	2015年度までは宇都宮大学教授、2016年度からは非常勤講師として本授業を担当します。勤務時間帯は前後期共に7-8・9-10時限なので、相談がある場合はその前後に本学8号館1階図画工作室に来てください。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	書写		
担当教員(所属)／Instructor	中島 宗皓(望)(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S203000
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	中島 宗皓(望)(shodoken@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	中島 宗皓(望)(・原則として授業期間の水・木曜日(17:30～18:00)とする。 ・Eメールで事前に予約。(電話では受け付けません。))		
授業の内容／Course Description	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科「書写」の目標、内容を理解し、それに沿った指導法、硬筆・毛筆の基礎的な技法の習得を目指す半期講座。 ・学生自らが授業を行う模擬授業などを通して、教員に求められる実践力を身につけてゆく。 		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科「書写」の教材研究の基礎的な知識・技能を修得する。 ・国語科「書写」の授業展開の仕組みや指導法について理解する。 ・児童、生徒の文字への興味や関心、手書き文字の実態を理解する。 ・深い教養、豊かな専門性、高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、主として学習・教育目標の項目記号(D)に関連する。 		
前提とする知識／Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を正確に書くためには「文字が毛筆によって発展した」ことを知る必要がある。よって、何より毛筆の性能を知ることから始めねばならない。 ・今も毛筆で学ぶ理由はそこにある。「書道」「書写」「習字」、その異なる意味を調べてから受講してほしい。 		
関連科目／Related Courses	<ul style="list-style-type: none"> ・書法演習B 		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマは「子どもたちは、書写の授業で何をしているのか」である。 ・書き終えた文字の優劣だけにこだわるだけの書写教育は無意味である。 ・まずはみなさんが学んできたはずの「書写」の反省から始めたい。 		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 今日の書写指導の問題点 3. 書写指導の方法について 4. 教科書研究(小学校低学年) 5. 教科書研究(小学校中学年) 6. 教科書研究(小学校高学年) 7. 教科書研究(中学校) 8. 学習指導案が作成について 9. 教材研究(課題) 10. 教材研究(グループ) 11. 模擬授業(小学校低学年) 12. 模擬授業(小学校中学年) 13. 模擬授業(小学校高学年) 14. 模擬授業(中学校) 15. 総括 		
教科書・参考書等／Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な課題のみレジュメを配布する。 ・参考書については授業中に指示する。 ・実習に必要な用具・用材については初回に指示、毛筆と下敷は指定する。(共同購入) 		
成績評価の方法／Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での到達目標が達成され、書写指導の意義と目的の理解60%、課題(作品、レポート)による認識40%を合計し、60%以上を合格とする。 		
学習上の助言／Learning Advice	<ul style="list-style-type: none"> ・書写(2単位)の履修で教壇に立つことになる。書写は文字を毛筆で上手に書くことが目標ではないにしても、自学自習の時間を十分に確保すること。 		
キーワード／Keywords	<ul style="list-style-type: none"> ・字体 ・字形 		
備考／Notes	<ul style="list-style-type: none"> ・国語教育の「ことばの学習」に対し、書写は「文字(言語)の学習」である。 ・国語に限らず、教員として備えておきたい「正しい文字」の知識、実践的な技能を修得し、児童や生徒の心身の発達の特徴等に応じた指導法について学ぶ。 ・The class is not designed for studying Japanese as foreign and second language. ・不是学日。 ・這節課不是學習日語課。 ・ 		

授業科目名(英文名) ／Course Title	外国史概説 A		
担当教員(所属)／Instructor	倉橋 圭子(その他)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S250505
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	倉橋 圭子(kei@dolphin.email.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	中国を中心とする東アジアの前近代における政治・経済・社会・文化などを概観し、日本も含めた東アジア諸国の交流と相互影響を認識すると同時に、異文化理解に際しての歴史の重要性を確認する。		
授業の達成目標／Course Goals	中国を中心とする東アジア史の基礎的な知識を身につけ、外国史と異文化を教え考える発想法に触れる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校「社会」・高等学校「地理歴史」の免許を取得するための選択必修科目であり、外国史に関する基礎的な知識・理解を身につける。		
前提とする知識／Prerequisites	高校の世界史・日本史教科書の知識。		
関連科目／Related Courses	高校の世界史・日本史教科書の知識。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回、講義内容についてプリントを配布し、画像や文献資料なども提示する。高校の教科書・世界史年表などを参照しながら受講してほしい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1, 中国文明の多元性 2, 帝国の統一と文化 3, 「唐宋変革」とその影響 4, モンゴル帝国と交易の道 5, 明朝と朝貢システム 6, 「北虜南倭」の時代 7, 「境界」に生きる人々 8, 世界をめぐる銀 9, 清朝「盛世」のシステム 10, 貿易統制と技術移転 11, 清朝の衰退と社会変容 12, 清末の改革と革命 13, 華僑とチャイナタウン 14, 五四運動と中国社会 15, 補足とまとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は使用せず、代わりにプリントを配布する。毎回の授業時に参考文献を紹介する。		
成績評価の方法／Evaluation	期末試験70%、出席カード(毎回要提出)の内容30%。		
学習上の助言／Learning Advice	紹介する参考文献を実際に読み、自主的に知識を深める習慣を身につけて欲しい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	環境生命科学演習		
担当教員(所属)／Instructor	井口 智文(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S373000
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	井口 智文(inokuchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	井口 智文（月）10：30～12：00 AM 井口研究室（左記以外はe-mailで予約してください）		
授業の内容／Course Description	中・高等学校理科を教える上で基礎となる生物学や地学の教養的理解は理科教育専攻の「教科」科目で学習してきているはずだが、実際に教壇に立ったときに直接必要となるような教科内容の理解を深めることと単元間のつながりの理解には多少のギャップがある。この授業ではこのギャップをうめることを目指す。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高等学校で学ぶ生物・地学分野の内容の階層性と関連性を理解する。 ・専門性の高い文献の内容を正しく理解することができる。 ・理解したことを他者に伝えることを行い、基礎的な説明能力を身に付ける。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	この授業は、理科教育専攻の選択科目の一つである。実際に教壇に立ったときに直接必要となるような教科内容の理解を深めることと、専門に関する論文から学問の進展状況を理解する。		
前提とする知識／Prerequisites	小学校理科、中学校理科（特に生物分野と地学分野）の内容を理解しておく事を勧める。		
関連科目／Related Courses	「基礎の生物科学」「生物科学」「基礎生物学実験」「基礎の地球科学」「地球科学」「基礎地学実験」を受講しておくことが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	基本的に演習形式で授業を進める。前半は、各学年の生物分野の学習内容と学習指導要領の「目標」「内容」「内容の取扱」を紹介、それぞれについて解説する。後半は、地学分野について取り扱う。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回ガイダンス 第2回学習内容の確認と指導要領解説（小学校3年・4年の生物分野） 第3回学習内容の確認と指導要領解説（小学校5年・6年の生物分野） 第4回学習内容の確認と指導要領解説（中学校1年の生物分野） 第5回学習内容の確認と指導要領解説（中学校2年前半の生物分野） 第6回学習内容の確認と指導要領解説（中学校2年後半の生物分野） 第7回学習内容の確認と指導要領解説（中学校3年前半の生物分野） 第8回学習内容の確認と指導要領解説（中学校3年後半の生物分野） 第9回学習内容の確認と指導要領解説（小学校3年・4年の地学分野） 第10回学習内容の確認と指導要領解説（小学校5年の地学分野） 第11回学習内容の確認と指導要領解説（小学校6年の地学分野） 第12回学習内容の確認と指導要領解説（中学校1年の地学分野） 第13回学習内容の確認と指導要領解説（中学校2年の地学分野） 第14回学習内容の確認と指導要領解説（中学校3年前半の地学分野） 第15回学習内容の確認と指導要領解説（中学校3年後半の地学分野） ※ 順番については入れ替わることがあります。		
教科書・参考書等／Textbooks	参考書：小学校学習指導要領解説理科編文部科学省、 中学校学習指導要領解説理科編文部科学省 小・中学校の「理科」の教科書 教材：必要に応じてプリント等を配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	発表（課題を含む）（70％）、授業への参加態度（発表に対する質問などを含む）（30％）で、総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	能動的な姿勢で授業に参加して欲しい。		
キーワード／Keywords	学校教育教員養成課程、理科教育、		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	ソルフェージュ		
担当教員(所属)／Instructor	高島 章悟(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S410040
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	高島 章悟(028-649-5352(研究室直通)またはtakashima@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	高島 章悟(水曜11:00~12:00)		
授業の内容／Course Description	初見視唱、初見ピアノ演奏、リズム、聴音、スコアリーディング等を随時実践する。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の基礎であるソルフェージュの実践を通じて、教育現場での実践能力や専門的な勉強をする上での基本的な能力を養う。 ・初めて見た楽譜を準備なしで歌うことができる。(初見視唱) ・初めて見た楽譜を準備なしでピアノで演奏することができる。(初見視奏) ・楽譜に書かれたリズムを正確に再現できる。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	・音楽教育専攻専門科目で必修		
前提とする知識／Prerequisites	音楽教育専攻の入試課題をこなせる程度		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	視唱、ピアノは入試程度のレベルから徐々に難易度を高めていき、更なる読譜力を身につける、聴音は単旋律から二声、三声、四声までピアノだけではなく、様々な器楽を用いて行う。オーケストラ、吹奏楽のスコアを通じて移調楽器の楽譜の読み替えを行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 オリエンテーション、単旋律聴音(1) 第2週 新曲視唱(1)、スコアリーディング(1) 第3週 新曲視唱(2)、スコアリーディング(2) 第4週 クレ読み(1)、スコアリーディング(3) 第5週 新曲視唱(3)、クレ読み(2)、スコアリーディング(4) 第6週 単旋律聴音(2)、複旋律聴音(1)、スコアリーディング(5) 第7週 単旋律聴音(3)、複旋律聴音(2)、スコアリーディング(6) 第8週 単旋律聴音(4)、複旋律聴音(3)、スコアリーディング(7) 第9週 単旋律聴音(5)、複旋律聴音(4)、スコアリーディング(8) 第10週 複旋律聴音(5)、四声体聴音(1)、スコアリーディング(9) 第11週 四声体聴音(1)、スコアリーディング(10) 第12週 四声体聴音(2)、スコアリーディング(11) 第13週 四声体聴音(3)、スコアリーディング(12) 第14週 四声体聴音(4)、スコアリーディング(12) 第15週 四声体聴音(5)、スコアリーディング(13)		
教科書・参考書等／Textbooks	随時指示する 参考書：スコア ○モーツァルト：「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」何版でも可 ○ベートーヴェン：「交響曲第5番」何版でも可 ○ベートーヴェン：「交響曲第7番」何版でも可 ○ベートーヴェン：「交響曲第9番」何版でも可 ○チャイコフスキー：組曲「くるみ割り人形」何版でも可 ○ドヴォルザーク：「交響曲第9番 新世界」何版でも可		
成績評価の方法／Evaluation	授業理解度(50%)、授業貢献度(50%)を総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	ソルフェージュの能力がしっかり身に付くには何年も続ける必要があるが、限られた授業時間の中で、今後自分が勉強していく上での問題点を見つけること。		
キーワード／Keywords	新曲視唱、聴音、スコアリーディング		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	立体構成Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	松島 さくら子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S454015
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	松島 さくら子(松島研究室 sakurako@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	松島 さくら子(質問・相談がありましたら、躊躇せずにメールにて問い合わせの上訪ねてください。Students wishing to meet with me should first email.)		
授業の内容／Course Description	私たちの生活環境はあらゆる立体物に囲まれている。普段特に意識して立体物に接していないかもしれないが、現実思い描いた立体的イメージを形成するためには、どのような認識が必要なのか、イメージ・素材・空間・機能性など様々なアプローチを通して立体を形成するための基礎的な実技を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	具体的な題材をイメージ化し立体物として実現させる課題、紙・スタイルフォームなどそれぞれ材質・加工要領の異なる素材を使用し立体物を形成していく課題を行う。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	立体構成Ⅱは、学校教育教員養成課程の専門教育科目の美術の中学校教科として専門性を深める必修の授業である。また総合人間形成課程では、芸術文化領域専門科目として芸術の領域の専門基礎力を養う授業である。高等学校一種「工芸」必修科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	基礎的な美術表現経験があることが望ましい。立体構成ⅠとⅡを同期に履修すること。		
関連科目／Related Courses	デッサン, 平面構成, デザイン, 彫塑, 工芸Ⅰ, 工芸Ⅱ, 工芸Ⅲ, 工芸Ⅳ, 立体構成Ⅰ, 立体構成Ⅱ, 美術表現基礎, 工芸科教育Ⅰ, 工芸科教育Ⅱ, 美術演習Ⅰ, 美術演習Ⅱ		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回授業のはじめに、その日の実技作業の重要事項（材料について・道具の取り扱い・技術・技法等）を説明し、毎回の授業の到達目標に沿って、実技課題に取り組んでいく。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回課題説明とアイデアスケッチ 第2回模型作成 スタイルフォームの加工 第3回スタイルフォームの加工 仕上げと講評 課題2 与えられた機能や条件を満たしたイメージを、ケント紙を使用し切る・折る・組む・接着する等加工して、立体構成をおこなう。 第4回課題説明 紙の特徴や扱いについて アイデアスケッチと模型作成 第5回ケント紙の加工 アウトラインの加工 第6回ケント紙の加工 細部の加工 第7回ケント紙の加工 仕上げと講評 課題3 与えられた形体や機能を満たした立体物を構成する。 第8回課題説明と材料・材料の加工について 第9回アイデアスケッチ 第10回アイデアスケッチの展開 第11回素材の特徴や扱いについて 第12回素材の加工 第13回素材細部の加工 第14回仕上げ 第15回講評		
教科書・参考書等／Textbooks	スケッチブック（エスキース用）、鉛筆、その他必要に応じて指示する。 教材（2000円前後）はまとめて購入するが、一部加工に必要な材料や道具は指示をするので各自用意する。		
成績評価の方法／Evaluation	提出作品（70％）と、授業への取り組み（30％）を総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	立体構成の授業を通し、様々な素材と立体造形にふれ、教育現場での多彩な指導につながるよう期待する。		
キーワード／Keywords	工芸, 漆芸, 金工, 陶芸, ガラス, 染織, 木工, craft, urushi, lacquer		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	病弱児教育概論		
担当教員(所属)／Instructor	池本 喜代正(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S702170
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 7, 水/Wed 8	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	病弱児教育の制度、対象、そして病弱・虚弱の児童生徒の特性、病弱児教育の在り方に関する内容を扱う。		
授業の達成目標／Course Goals	病弱の児童生徒に関する理解と病弱教育の特色と内容について理解することを目的とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	特別支援教育(病弱)に関する基礎的知識を獲得し、特別支援教育への関心を持ち、教職への志向を高める。		
前提とする知識／Prerequisites	障害児教育に関する基礎的知識を必要とする。特別支援教育概論を受講していることが望ましい。		
関連科目／Related Courses	障害児教育に関する基礎的知識を必要とする。特別支援教育概論を受講していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義が中心となるが、ビデオなどを視聴し、その内容についての討論も行う。調べ学習として、レポート報告も行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週オリエンテーション 第2週病弱児教育の歴史 第3週病弱の子どもの理解(1) 病弱・虚弱児の学習上の課題 第4週病弱の子どもの理解(2) 病弱・虚弱児についての理解と対応 第5週病弱特別支援学校、特別支援教室の概要 第6週病弱特別支援学校の児童生徒の実態 第7週病弱児に応じた教育課程編成 第8週宮越由貴奈さんから学ぶこと 第9週「私の中のあなた」視聴 第10週ICF関連モデルと個別の指導計画 第11週病弱養護学校における教育の実際(実地指導講師、ビデオ) 第12週自立活動の指導の実際(実地指導講師) 第13週病弱教育の現状と課題(1) 第14週病弱教育の現状と課題(2) 第15週まとめ 第16週期末試験		
教科書・参考書等／Textbooks	参考書：全国病弱養護学校長会「病弱教育Q&A (Part1)」～「病弱教育Q&A (Part3)」，ジ・アース教育新社。		
成績評価の方法／Evaluation	レポート20%、期末テスト80%		
学習上の助言／Learning Advice	調べ学習においては、グループでの討議、発表等を行う場合があります。受講生の主体的、積極的な参加を期待しています。		
キーワード／Keywords	病弱児教育制度、特別支援学校、病弱特別支援学級、院内学級、教育課程、学習の空白		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	教職入門		
担当教員(所属)／Instructor	南 伸昌(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S103006
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	教職の意義について考え、教師という仕事や学校教育の現状に関する基本的な内容を扱う。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・教職に対する関心を深め、教員が学校で行っている仕事について理解をする。 ・子ども理解を深め、教職に対する意欲を喚起する機会とする。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学部専門教育科目教育実践科目群の教育実践総合科目で、教員免許取得のための必修科目である。教職に関する基礎的な知識を獲得するとともに、主体的に物事を考察する基本的な態度・意欲を養う。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。		
関連科目／Related Courses	教職科目全般。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	教員による講義とともに、学校見学などの体験活動や学生自身の調査研究発表などを組み合わせて進めていく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週ガイダンス 第2週講話 1 (教育委員会が求める教師像) 第3週講話 2 (幼稚園教諭の役割・幼児の実態・めざす教育) 第4週講話 3 (小学校教諭の役割・児童の実態・めざす教育) 第5週講話 4 (中学校教諭の役割・生徒の実態・めざす教育) 第6週講話 5 (特別支援学校教諭の役割・児童生徒の実態・めざす教育) 第7週全体活動 1 (講話振り返り) 第8週学校見学 1 (公立小学校での観察・参加) 第9週学校見学 2 (公立小学校での観察・参加) 第10週学校見学 3 (附属小／中学校での観察) 第11週学校見学 4 (附属小／中学校での観察) 第12週グループ活動 1 (学校見学振り返り) 第13週グループ活動 2 (文献からの学び) 第14週グループ活動 3 (目指す教師像のまとめ) 第15週全体活動 2 (総括：学びの共有)		
教科書・参考書等／Textbooks	「教職入門授業要覧」：授業時に配布する。 グループごとに指示された書籍。		
成績評価の方法／Evaluation	全ての活動を体験することが評価の前提条件となる。活動から学んだことを「教育実践ノート」への記録や「目標と振り返りシート」の記入によって「ポートフォリオ」としてまとめる。ポートフォリオの完成をもって単位を認定する。		
学習上の助言／Learning Advice	6月頃、履修申込みについて掲示を出すので、見落とさないように注意すること。対象者は、教育学部教員養成課程は1年生、教育学部総合人間形成課程は2年生、国際学部は2～3年生、農学部は1～3年生であるので、注意すること。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	書道史		
担当教員(所属)／Instructor	中島 宗皓(望)(地域デザイン科学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S220002
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	中島 宗皓(望)(shodoken@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	中島 宗皓(望)(・原則として授業期間の水・木曜日(17:30～18:00)とする。 ・Eメールで事前に予約。(電話では受け付けません。))		
授業の内容／Course Description	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業は、平成27年度以前の入学生を対象とする。 ・中国の書法史から、現代日本の書字教育、藝術教育に至るまでの歴史を振り返る半期講座。 ・日本の書道の歴史は漢字の渡来から始まり、常に中国や朝鮮の影響下に展開してきたが、その公的・私的・古典性・現代性・美術性・工芸性といったさまざまな性格を観照する。 		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史上、文字が果たしてきた役割と意義に関心をもつ。 ・文化史として、文学や美術、工芸の歴史との関係を理解する。 ・文字と書の変遷について、書体、書風を中心に鑑賞(臨書)する力を深める。 ・深い教養、豊かな専門性、高い見識等に向けた自学自習の態度を養う。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、主として学習・教育目標の項目記号(D)に関連する。 		
前提とする知識／Prerequisites	<ul style="list-style-type: none"> ・書道史を史学や伝記として学ぶことは読書で足りる。 ・知識や経験など不要であるが、「こと」の歴史以前に「もの」を観る力を養ってほしい。 ・その意味での「臨書」は授業でも行う。 		
関連科目／Related Courses	<ul style="list-style-type: none"> ・書道教育法 ・書藝美学(書論、鑑賞) ・書法演習 ・書藝制作 		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	<ul style="list-style-type: none"> ・書には、公的・私的、古典性・現代性、美術性・工芸性といった多様な性格がある。 ・そして、その書の長い歴史は、言葉表現する文学と共存し、藝術として発展した。 ・授業では、古典から現代の書に至るまで、時代の書を臨書しながら観照する。 		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文字史と美術史〔古代から近代〕 2. 書道史と文学史〔実用と表現〕 3. 中国書法史概説〔技術と技法〕 4. 殷代の文字と社会〔用の美Ⅰ〕 5. 周代の文字と社会〔用の美Ⅱ〕 6. 秦代の文字と社会〔用と個人Ⅰ〕 7. 漢代の文字と社会〔用の美Ⅲ〕 8. 随代の文字と社会〔用と個人Ⅱ〕 9. 唐代の文字と社会〔個人美Ⅰ〕 10. 宋代の文字と社会〔個人美Ⅱ〕 11. 明清時代の文字と社会〔個人美Ⅲ〕 12. 文字の実用と藝術〔デザイン美〕 13. 東西美学の思潮〔美術と藝術〕 14. 書写(お習字)と言葉の教育 15. 藝道と日本の教育 		
教科書・参考書等／Textbooks	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な課題のみレジュメを配布する。 ・参考書については授業中に指示する。 ・臨書に必要な用具・用材については初回に指示、毛筆と下敷は指定する。(共同購入) 		
成績評価の方法／Evaluation	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での到達目標が達成され、特に臨書(デッサン程度)による理解60%、課題(レポート)による認識40%を合計し、60%以上を合格とする。 		
学習上の助言／Learning Advice	<ul style="list-style-type: none"> ・書道をアートとっていては理解できない内容である。 		
キーワード／Keywords	<ul style="list-style-type: none"> ・文字史 ・書法史 ・藝術史 ・美術史 ・工芸史 ・藝術教育史 ・藝道 		
備考／Notes	<ul style="list-style-type: none"> ・書の歴史は文字の歴史から個人表現の歴史へと移り変わった。文字はすべての文化の基礎であり、時代性を反映しながら変遷してきた。個人表現の歴史をどのように捉えるか。それが書道史を正しく捉える捉え方となる。 ・さまざまな性格をもつ文字と書だけに、国、時代ごとに異なる歴史や鑑賞法についても考察する。 		

授業科目名(英文名) ／Course Title	美術科教育法Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	山口 喜雄(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 美術教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S463010
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	中学校美術科の学習指導に関する制度・生徒理解・多様な指導法をさまざまな具体的事例や体験的学習などをとおして、中学校の美術教師として主体的に学習指導が行える能力や態度の形成を目指し、自分らしい考えと授業実践の方法を形成できるように展開します。また、中学校美術の表現(絵や彫刻など・デザインや工芸など)や鑑賞の課題に体験的取り組みことにより中学生の気持ちを再体験し、教育実習や教職に就いてからの生徒の心情に添った授業づくりに反映させます。		
授業の達成目標／Course Goals	多様な生徒状況に対応し、美術教育実践を創造的に行える教師としての態度と能力の育成を目標とします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校・高等学校の「美術」免許取得のための選択必修科目であり、美術科教育を理念・理論および実践力の形成のために意義があります。		
前提とする知識／Prerequisites	上記を理解し、造形・美術教育への関心や学習への熱意や授業課題への準備や復習が必要です。		
関連科目／Related Courses	上記を理解し、造形・美術教育への関心や学習への熱意や授業課題への準備や復習が必要です。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	1)【学生の視点】毎授業開始時に前記の「学習課題」に関する理解状況を記入します。 2)【児童の視点】中学生にできる「表現」「鑑賞」の実習に取り組みます。 3)【教師の視点】表現や鑑賞指導の理念や指導法、評価・評定等々を具体的に学びます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1. 荒れた中学校で学習指導方針を中学3年生にどのように伝えるか 2. デザイン《：自分のためのポスター》題材をどのように授業化するか 3. 制作過程で生徒のやる気を引き出すためには、何を伝えたらよいか 4. 「指導目標」および「この題材で特に育てる能力・態度等」をどう設定するか 5. 評価の観点、評価・評定を生徒にどう具体的に伝えるか 6. 修学旅行に関連させた美術の学習活動をどのように授業化するか 7～9. 切り絵《：〇〇中学校の私》の授業実践・表現と鑑賞・評価を通して 10～12. 彫刻・工芸《：青春の記念碑としての印鑑をつくる》の授業実践・表現と鑑賞・評価を通して 13. 学級経営における美術教師の役割とは何か 14～15. 21世紀における美術科教育の意義と課題、美術教師の外的・内的課題		
教科書・参考書等／Textbooks	福田・福本・茂木編『美術科教育の基礎知識』(2010年四訂版：建帛社)、ポスターカラーセット・黒色ベルクルール紙・カッター・篆刻石と篆刻彫刻の用具・他は授業毎に連絡します。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への出席は教育実習等を除く4/5以上、積極的な参加や学習課題への主体的な考察・授業ノート等々60%、毎回のレポート提出・最終回小論文40%、それらを総合的に評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	前期の美術教育法Ⅰを受講しておくことが望ましい。栃木県研修センターや宇都宮市の指導主事等、附属中学校教諭等の特別講話を予定しています。また、宇都宮大学近隣小学校での地域行事や附属小学校イラストクラブ・附属中学校美術部活動などとのフレンドシップ事業にも参加を予定しています。		
キーワード／Keywords	美術科教育、学習指導目標と評価、絵や彫刻など、デザインや工芸など、鑑賞、授業実践、評価・評定		
備考／Notes	2015年度までは宇都宮大学教授、2016年度からは非常勤講師として本授業を担当します。そのため、相談がある場合は水曜日の7-8・9-10時限の前後に本学8号館1階図画工作室にて対応いたします。		

授業科目名(英文名) ／Course Title	初等理科教育法		
担当教員(所属)／Instructor	人見 久城(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S102317
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	人見 久城(hitomi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	人見 久城(月 13:00～14:20)		
授業の内容／Course Description	小学校理科に関わる目的・内容・方法等についての講義、及び実習形式の観察・実験を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	小学校理科を対象として、理科教育の内容と方法についての理解を深める。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学部専門科目の小学校教科教育法に関する必修科目である。小学校理科の学習内容と指導方法についての基礎的な理解を深めることを目標とする。		
前提とする知識／Prerequisites	前提とする知識や経験は特に問いません。		
関連科目／Related Courses	理科, アドバンスド小学校理科実験		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	<p>理科教育法に関わる講義、及び理科に関わる実験(実習形式)を行う。なお、学習指導案の書き方等の実践的な内容について、附属小学校教員による講義(1時間)を行う。</p> <p>※ 重要(受講時限の割り振りについて)</p> <p>①学校教育教員養成課程2年次生は、専攻によって指定された時限を受講してください。</p> <p>②学校教育教員養成課程2年次生以外の受講希望者(3年次生以上、教員免許状取得プログラムを受けている大学院生等)は、第1回授業で、受講希望の旨を担当教員へ申告してください。実験室の収容人数等から、希望する時限での受講にならない場合がありますから、第2希望の時限についてもあらかじめ検討しておいてください。</p>		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>授業は概ね以下の内容に基づいて進める。実験の実施時期等については、授業の中で別途連絡する。</p> <p>第1回 受講ガイダンス 第2回 小学校理科の目標 第3回 小学校理科の教育課程 第4回 小学校理科の教材 第5回 理科授業のビデオ視聴、実験受講に関する説明 (第6～9週は、以下の4題目をローテーションして受講する)</p> <p>第6回 実験(題目1: オームの法則とジュール熱) 第7回 実験(題目2: 熱の伝導) 第8回 実験(題目3: でんぶん) 第9回 実験(題目4: 動植物の表皮細胞)</p> <p>第10回 小学校理科の指導法 (第3学年の内容) 第11回 小学校理科の指導法 (第4学年の内容) 第12回 小学校理科の指導法 (第5学年の内容) 第13回 小学校理科の指導法 (第6学年の内容) 第14回 小学校理科授業の実際(附属小学校教員による) 第15回 学習指導案の書き方</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	<p>○教科書: 文部科学省「小学校学習指導要領解説 理科編」(2008), 大日本図書.</p> <p>○テキスト: 教材プリントを適宜配布する。実験では、「理科教育法A実験指導書」を配布する。</p>		
成績評価の方法／Evaluation	試験, 実験レポート, 出席状況等の総合評価とする。		
学習上の助言／Learning Advice	<p>○自然を対象とする理科では観察・観察が不可欠です。本科目での実験・観察を通して、小学校教師として必要な実験操作に関するスキルが身につきます。</p> <p>○教員養成の観点から、教員として最低限必要な資質能力を確実に身に付くように取り組んでください。</p>		
キーワード／Keywords	小学校理科, 指導法, 観察・実験		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	日本文学演習Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	守安 敏久(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 国語教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S205004
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	守安 敏久(028-649-5260, t-moriya@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	守安 敏久(木) 12:00～12:30(守安研究室)		
授業の内容／Course Description	森鷗外の短編小説を、受講者に割り当て、担当発表してもらう。作品についての高度で創意ある考察と口頭発表が求められる。		
授業の達成目標／Course Goals	文学作品を題材として、創意ある口頭発表の訓練を積むことを目的とする。テキストの読解を前提として、それに関する諸文献の調査を踏まえたうえで、各自の分析と考察を論評する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校・高等学校の免許教科「国語」を取得する場合は選択必修科目となる。日本文学を通して、教員として必要な知識と思考を身につける。 あるいは総合人間形成課程の言語文化領域の専門科目として、「日本文学」、特に「近代文学」に関する基礎的演習科目として、近代文学を研究する際に必要な知識と技能を育成する。		
前提とする知識／Prerequisites	課題に対して文献を調べる力と、それを踏まえて自分なりに考察していく力。「日本文学演習Ⅰ」の修了者を対象とする。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	発表はテキストの読解を前提として、それに関する諸文献の調査を踏まえたうえで、各自の分析と考察を論評する形となる(担当発表は受講者全員に課す)。他の受講者の議論を喚起するような創意ある独自の発表を望む。なお演習という性格上、受講者の人数を制限することがある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週ガイダンス 第2週図書館利用案内(文献探索法) 第3週文学史概説 第4週「杯」 第5週「普請中」 第6週「カズイシチカ」 第7週「妄想」 第8週「百物語」 第9週「興津弥五右衛門の遺書」 第10週「護持院原の敵討」 第11週「山椒大夫」 第12週「二人の友」 第13週「最後の一句」 第14週「高瀬舟」 第15週補説		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書:「山椒大夫・高瀬舟」森鷗外、新潮文庫(宇大生協で販売) 参考書:「日本文学研究資料叢書」〈森鷗外〉、有精堂(図書館所蔵) 「日本文学研究資料新集」〈森鷗外〉、有精堂(図書館所蔵) 「日本近代文学大系」第11、12巻(森鷗外集Ⅰ・Ⅱ)、角川書店(図書館所蔵) 「鷗外選集」全21巻(小堀桂一郎解説)、岩波書店(図書館所蔵) 「鷗外の歴史小説」尾形侑、岩波書店(図書館所蔵) 「鷗外歴史文学集」全13巻、岩波書店(図書館所蔵) 「鷗外近代小説集」全6巻、岩波書店(図書館所蔵) 別冊国文学「森鷗外必携」竹盛天雄・編、学燈社(図書館所蔵) 教材:特になし		
成績評価の方法／Evaluation	担当発表(70%)、および毎回出席をとり、授業態度も参照材料とする(30%)。 わかりやすく、かつ問題提起の豊かな口頭発表が評価される。出席は重視され、また授業中討論に積極的に参加しているか否かも、評価基準に加わる。教員をも啓発するような創意ある受講者にのみ「秀」を与える。		
学習上の助言／Learning Advice	先行研究での議論と、発表者本人の立論との区別を明確にしつつ、発表すること。つまり先行研究を咀嚼することは重要だが、その上で発表者独自の立論がどう展開できたか、が問題となる。		
キーワード／Keywords			

授業科目名(英文名) ／Course Title	運動学		
担当教員(所属)／Instructor	加藤 謙一(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 保健体育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S512003
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	本授業は、運動学習論および力学、生理学、解剖学などの基礎知識をもとに体育の学習指導やスポーツのコーチングの方法について習得します。		
授業の達成目標／Course Goals	本授業の内容をもとに運動学習論の理解およびスポーツバイオメカニクスについて理解を深めることや理論的な観点から運動指導の具体的方法が理解できるようにします。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校・高等学校の「保健体育」免許を取得するための必修科目であり、運動学習論やバイオメカニクスなどの専門理論を通して実技の指導力を高める科目としての意義を持ちます。		
前提とする知識／Prerequisites	高等学校保健体育、生物、物理の教科書の内容		
関連科目／Related Courses	高等学校保健体育、生物、物理の教科書の内容		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	主に講義を中心に進め授業の終わりに授業の要約を行います。それをもとに毎時の授業内容を確認します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週運動学習論(1) 運動系の学習 第2週運動学習論(2) 運動の理解 第3週運動学習論(3) 運動の修正指導 第4週運動学習論(4) 「知る」から「できる」の間を考える 第5週運動学習論(5) 運動の質 第6週運動学習論(6) 運動の観察と分析 第7週スポーツバイオメカニクスとは？運動学としてのバイオメカニクス 第8週スポーツバイオメカニクス(1) 重力と慣性力、重心 第9週スポーツバイオメカニクス(2) 力の合成・分解と力の効果 第10週 スポーツバイオメカニクス(3) 内力と外力、運動量と力積 第11週 スポーツバイオメカニクス(4) 反動動作と振込動作、共働筋と拮抗筋 第12週 スポーツバイオメカニクス(5) 回転と慣性モーメント、角運動量 第13週 スポーツバイオメカニクス(6) 空気抵抗と水の抵抗 第14週 スポーツバイオメカニクス(7) 運動の力学的エネルギーと効率 第15週 予備日		
教科書・参考書等／Textbooks	資料はこちらで用意します。		
成績評価の方法／Evaluation	出席状況(授業への取り組み方:10%)とレポート(20%)および試験(70%)によって評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	保健体育教員になるイメージを描きながら、教員としての使命感や責任感、専門性および教育的愛情なども念頭におきながら積極的に受講してください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	地理歴史科教育法		
担当教員(所属)／Instructor	熊田 禎介(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S915000
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	熊田 禎介(kumata@cc.)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	高等学校地理歴史科の教員免許状取得希望者を対象に、地理歴史科に関する目標・内容・方法に関する基礎的な理解を得るとともに、教材研究、指導案作成および模擬授業を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	地理歴史科の目標・内容・方法に関して、基礎的な知識・理解を得ることができる。また、教材研究、指導案作成および模擬授業を通して、地理歴史科の授業に関する基本的な理解と技能を習得することができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	高等学校地理歴史科の教員免許取得のための必修科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	3～4年次に履修することを原則とする。高等学校地理歴史科免許状取得のみを希望する者は、免許取得に必要な単位ではないが、事前に「中等社会科教育法Ⅰ」及び「中等社会科教育法Ⅱ」を受講することをすすめる。		
関連科目／Related Courses	3～4年次に履修することを原則とする。高等学校地理歴史科免許状取得のみを希望する者は、免許取得に必要な単位ではないが、事前に「中等社会科教育法Ⅰ」及び「中等社会科教育法Ⅱ」を受講することをすすめる。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	高等学校地理歴史科の目標・内容・方法について概観した上で、テーマ・科目を決定し、各自・各グループごとに教材研究を進め、指導案作成、模擬授業を行う。その際、随時、各自・各グループごとに発表・質疑を行うとともに、必要に応じて地域を選定し、巡検を行う。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第 1回 オリエンテーション 第 2回 世界史 A・世界史 B の目標・内容・方法 第 3回 日本史 A・日本史 B の目標・内容・方法 第 4回 地理 A・地理 B の目標・内容・方法 第 5回 テーマ・科目の決定 第6～11回 教材研究・指導案作成および発表・質疑 第12～14回 模擬授業および検討 第15時 本授業のまとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	資料・教材等は、毎回プリントを配布します。 参考書：文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（教育出版、2010年） その他、高等学校の教科書は、図書館等で参照してください。		
成績評価の方法／Evaluation	毎回の授業における参加状況(40%)、模擬授業(30%)および最終レポート(30%)の総合評価によって評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	高等学校地理歴史科の授業に必要なのは、大学入試レベルの歴史や地理に関する知識ではなく、地理的あるいは歴史的に社会を見る視点です。高等学校における地理教育や歴史教育について考究することを通して、それらに必要な視点を受講者とともに考えていきたいと思っています。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	保育表現技術 B		
担当教員(所属)／Instructor	石野 健二(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 音楽教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S926108
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石野 健二(ishino-k@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石野 健二(「火曜日」10時30分～12時)		
授業の内容／Course Description	保育実践における音楽、造形及び体育の技能領域に関して、小学校低学年までを視野に入れて、幼児期の遊びを援助する上での基礎的な技能について検討するなかで、それぞれの技能の習得を図る。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽及び造形に関する基本的な知識や技能を身につけ、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を習得する。 ・身体運動に関する基本的な知識を理解し、身体能力や運動技能を高める。また、保育の中で取り上げる運動遊びに関する教材を作成したり、それらに必要な知識や技能を習得する。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	本授業は、保育士資格取得のための必修科目のうち、基礎技能にかかわるものであり、実践力を身につけることを目標としている。		
前提とする知識／Prerequisites	小学校低学年までを視野に入れているので、小学校教科「音楽」「図画工作」「体育」を修得していることが望ましい。密接な関連科目は「保育表現技術 A」(旧：保育技能 a)である。		
関連科目／Related Courses	小学校低学年までを視野に入れているので、小学校教科「音楽」「図画工作」「体育」を修得していることが望ましい。密接な関連科目は「保育表現技術 A」(旧：保育技能 a)である。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	3つの技能領域のそれぞれに数回の授業を当て、不定時に短期集中的に実施する。授業の進め方についてはオリエンテーションまたはそれぞれの担当教員の授業の開始期に説明する。(日時や場所等の調整は保育士養成専門委員会が行い、掲示及びメールによって受講生に周知することとする。)		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回オリエンテーション 第2回行進曲の教材の実技(石野先生) 第3回旋律の表現 第4回弾き歌いの表現と発表 第5回平面造形表現(株田先生) 第6回平面造形表現の展開 第7回立体造形表現(松島先生) 第8回立体造形表現の展開 第9回身体表現指導の実際(茅野) 第10回手遊び・歌遊び 第11回リズムで遊ぼう 第12回動きのスケッチ 第13回絵本を動こう 第14回・第15回学習した技能について練習、ロールプレイ、相互学習による習熟		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は用いない。参考書や教材等は必要に応じて、その都度、担当教員が提示する。		
成績評価の方法／Evaluation	担当者ごとに評価について指示がある。担当教員による評価を合計して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	前期開講の「保育表現技術 A」(旧：保育技能 a)とセットにして通年の授業という意識をもって受講し、1年を通して基礎技能の習熟に励んでほしい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	デザインAⅡ		
担当教員(所属)／Instructor	梶原 良成(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S457014
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 2, 木/Thu 3, 木 /Thu 4	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	梶原 良成(kajihara@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	梶原 良成(木曜日 13:00-14:00)		
授業の内容／Course Description	立体・空間デザイン(プロダクト、建築・環境デザインの基礎的内容)を主とする。生活における立体・空間メディアの創造について身近なテーマの実技課題を行う。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して、基本的なデザインプロセスを踏んで取り組める。 ・課題として与えられたテーマに対して、デザイン的な思考による発想や構想の方法の基礎を身につける。 ・生活の視点で造形をとらえて、妥当性が判断できるようにする。 ・デザインの意図を適切なプレゼンテーションで表現できるようにする。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	「美術」中学校一種免許・高等学校一種免許、「工芸」高等学校一種免許必修科目であり、中学校高校教員として「デザイン」に関する授業を構築するための基礎となる実技科目としての意義を持つ。		
前提とする知識／Prerequisites	デザインAIから通年の受講が原則です。 図法Ⅱの履修をすすめます。		
関連科目／Related Courses	デザインAIから通年の受講が原則です。 図法Ⅱの履修をすすめます。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	実技が中心となります。与えられた課題に対して、デザイン・プロセスの各段階をポートフォリオにまとめながら制作をすすめて行きます。各段階で個人指導をおこない次の段階に進みます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 オリエンテーション(授業の進め方、用具・材料などについて) 第2週 立体デザイン課題(課題説明, エスキース) 第3週 立体デザイン課題(エスキース1) 第4週 立体デザイン課題(エスキース2) 第5週 立体デザイン課題(制作1) 第6週 立体デザイン課題(制作2) 第7週 立体デザイン課題(制作3) 第8週 立体デザイン課題(プレゼンテーション講評) 第9週 空間デザイン課題(課題説明、エスキース) 第10週 空間デザイン課題(エスキース1) 第11週 空間デザイン課題(エスキース2) 第12週 空間デザイン課題(制作1) 第13週 空間デザイン課題(制作2) 第14週 空間デザイン課題(制作3) 第15週 空間デザイン課題(プレゼンテーション講評)		
教科書・参考書等／Textbooks	必要な用具・材料はその都度指示します。		
成績評価の方法／Evaluation	課題への取り組み(50)、提出作品とプレゼンテーション(50)で総合的に評価します。遅刻・欠席は減点となります。		
学習上の助言／Learning Advice	1. 実技の進行に関わるので、欠席・遅刻のないように。 2. 授業に必要な用具・材料等は、事前に準備してくる。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	工芸Ⅳ		
担当教員(所属)／Instructor	松島 さくら子(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S476033
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 2, 木/Thu 3, 木 /Thu 4	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可（出願前面談有）		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact	松島 さくら子(松島研究室 sakurako@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours	松島 さくら子(質問・相談がありましたら、躊躇せずにメールにて問い合わせの上訪ねてください。Students wishing to meet with me should first email.)		
授業の内容／Course Description	漆工芸に用いられる材料は多様である。工芸Ⅳでは、漆・布・貝・金属板や金属粉・土などの素材を用いた漆芸加飾表現を学習し、イメージが素材を通してどう表現されるのか、どのような表現の可能性が見いだせるかということを考える。		
授業の達成目標／Course Goals	定められたテーマのもと、漆芸の造形表現技法（乾漆）を学び、テーマに沿った乾漆作品を制作する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	工芸Ⅳは、学校教育教員養成課程の美術教育の専門教育科目として、また総合人間形成課程の芸術文化領域専門科目として、専門性を深める授業である。高等学校一種「工芸」必修科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	工芸Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを受講していること。かつ美術の基礎的な実技授業（デッサン・平面構成・立体構成・彫塑等）を受講しているか、同等の実技経験をもっていること。		
関連科目／Related Courses	工芸Ⅰ, 工芸Ⅱ, 工芸Ⅲ, 立体構成Ⅰ, 立体構成Ⅱ, 美術表現基礎, 工芸科教育法Ⅰ, 工芸科教育法Ⅱ, 美術演習A, 美術演習B		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回授業のはじめに、その日の実技作業の重要事項（材料について・道具の取り扱い・技術・技法等）を説明し、毎回の授業の到達目標に沿って、実技課題に取り組んでいく。授業で進めた課題の制作工程を記録しまとめていく。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	第1回 課題説明 乾漆とは何か 第2回 材料と道具の整備 第3回 テーマに沿ったイメージを展開、エスキース 第4回 モックの制作、材料と道具の扱いについての基礎 第5回 離型剤塗布 糊漆準備 第6回 麻布貼り1枚目 布目調整 目摺り 第7回 麻布貼り2枚目 布目調整 目摺り 第8回 麻布貼り3枚目 布目調整 目摺り 第9回 脱型 下地塗布 荒・中 第10回 下地塗布 細 第11回 下地塗布 極細 第12回 色漆の調合 下塗り 第13回 色漆による表現 中塗り 第14回 色漆の応用 上塗り 第15回 仕上げと鑑賞		
教科書・参考書等／Textbooks	スケッチブック（エスキース用）、鉛筆、その他必要に応じて指示する。 作品制作に必要な道具や材料は各自用意する。教材の一部は一括して購入する（3500円前後）		
成績評価の方法／Evaluation	提出作品と制作レポート（70％）と、授業への取り組み（30％）を総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	授業初回到課題説明の他、道具・材料の手配をするので、必ず出席すること。 工芸の作業は毎日の作業の積み重ねにより、技術を習得し表現方法を学んでいく。道具や環境の整備から始まり、材料の管理、作業後の道具の手入れにまで時間を要する。工芸を受講する者は授業の時間内だけでなく積極的に取り組むよう望む。 工芸を知る上で参考になる展覧会・資料があれば、可能な限り紹介し参観するようにすすめる。工芸の授業を通し、様々な工芸素材にふれ、その加工や表現を知ることにより、教育現場での多彩な指導につながるよう期待する。		
キーワード／Keywords	工芸, 漆芸, 金工, 陶芸, ガラス, 染織, 木工, craft, urushi, lacquer		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	心理統計学		
担当教員(所属)／Instructor	石川 隆行(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S169007
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石川 隆行(【石川隆行】 takayuki-i@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石川 隆行(月曜日 12:10～12:50 事前にメールでのご連絡をお願いいたします。)		
授業の内容／Course Description	心理学の実証研究で用いられる統計の基礎と使い方について体験的に学ぶ授業です。		
授業の達成目標／Course Goals	心理学に関する実験や調査、基礎的な統計の学習を通じて、教育心理学に関する基本的な研究法の習得を目的としています。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	卒業論文(4年次)の作成に当たっての基礎力や、将来教員になった場合に必要となる「データを読み取る力」を養うことにも関連しています。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。ただし、教育心理学演習(3年次)や教育心理学関係における卒業論文(4年次)を履修するための必須科目となりますのでご注意ください。		
関連科目／Related Courses	特にありません。ただし、教育心理学演習(3年次)や教育心理学関係における卒業論文(4年次)を履修するための必須科目となりますのでご注意ください。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	心理学における実験・調査とは何かについての理解を深めるために、実際に簡単な実験や調査によるデータを扱っていくこと(エクセルが中心となります)を通じて、心理統計の基礎を体験的に学んでもらいます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>※以下の内容については、授業の進度や学生の理解度によって変更が生じることがあります。</p> <p>第1回ガイダンス：記述統計と推測統計 第2回記述統計①：平均／標準偏差 第3回記述統計②：正規分布／尖度／歪度 第4回記述統計③：相関係数／自由度 第5回推測統計①：帰無仮説／対立仮説 第6回推測統計②：無相関検定／t値 第7回推測統計③：t検定／F検定 第8回推測統計④：対応のないt検定／対応のあるt検定 第9回推測統計⑤：カイ自乗検定／カイ自乗値 第10回推測統計⑥：残差分析／直接確率計算 第11回推測統計⑦：被験者間要因／被験者内要因 第12回推測統計⑧：一要因分散分析／多重比較 第13回推測統計⑨：二要因分散分析／交互作用 第14回推測統計⑩：主効果／単純主効果／単純交互作用 第15回まとめ：授業内容の復習と到達度の確認</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	参考書：向後千春・富永敦子〔著〕『統計学がわかる』（技術評論社） 向後千春・富永敦子〔著〕『統計学がわかる一回帰分析・因子分析編一』（技術評論社）		
成績評価の方法／Evaluation	授業中に実施する内容の到達度確認から総合的に評価します（基準：100%）		
学習上の助言／Learning Advice	学校教育専攻の2年生で、教育心理学分野で卒業論文を書くことを想定している学生、ならびに総合人間形成課程の人間発達領域に進もうと考えている学生は、この科目を必ず修得しておいてください。		
キーワード／Keywords	統計、エクセル、HAD		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	教育学演習Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	久保田 善彦(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S177100
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）／Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）／Office Hours			
授業の内容／Course Description	受講者が各自の問題意識（テーマ）に則して発表をおこない、全体で検討する		
授業の達成目標／Course Goals	教育に関わる諸問題について自ら課題を設定し、原理的に、また複眼的に考えることができる。また、他者と対話しながら、思考を深化させていくことができる。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	学校教育専攻の専門科目であるが、他の科目とは異なり、受講者が自らの研究テーマについて探求し、発表、対話していく。卒業論文作成のための準備段階の学習として位置づけられる。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし		
関連科目／Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	一回に一人の発表者を決めおこなう。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule	1回：オリエンテーション 2～15回：発表及び検討		
教科書・参考書等／Textbooks	特になし		
成績評価の方法／Evaluation	出席及びレポート内容による		
学習上の助言／Learning Advice	よい教師になるためには、何をすべきかを考えながら授業を進めます。文献調査だけでなく学校現場での調査もする予定です。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	日本文学講読A		
担当教員(所属)／Instructor	守安 敏久(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 国語教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S215114
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	守安 敏久(028-649-5260, t-moriya@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	守安 敏久(木) 12:00～12:30(守安研究室)		
授業の内容／Course Description	昭和初期の中・短編小説をとりあげ、講義講読を行う。特に授業後半は牧野信一の作品を読み解く。 原則として隔年開講。		
授業の達成目標／Course Goals	様々な日本文学に触れ、その特色や魅力を深く理解する。日本文学を読解・解釈・鑑賞するための知識・態度・方法を修得する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	国語教育専攻の専攻専門科目の一つとして、文学作品を教材に、作品を解釈・鑑賞するための学術的な知識・態度・方法を学ぶ。教員として必要な文学的な知識と思考を身につける。あるいは総合人間形成課程の言語文化領域の専門科目の一つとして、作品を解読・鑑賞するための学術的な方法を学ぶ。		
前提とする知識／Prerequisites	未知の作家をも読んでみようとする学習欲。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	受講者がテキスト(下記の教科書)の予習をしていることを前提として授業を進める。テキストを補う資料を適宜配布する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 ガイダンス 第2週 小林秀雄「私小説論」概説 第3週 小林多喜二「蟹工船」 第4週 嘉村礒多「業苦」 第5週 嘉村礒多「崖の下」「途上」 第6週 梶井基次郎「檸檬」 第7週 梶井基次郎「闇の絵巻」 第8週 北条民雄「いのちの初夜」 第9週 牧野信一略述 第10週 牧野信一「ゼーロン」 第11週 牧野信一「酒盗人」「鬼の門」 第12週 牧野信一「泉岳寺附近」 第13週 牧野信一「夜見の巻」 第14週 牧野信一「鬼涙村」 第15週 補説		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書: 青空文庫ホームページ http://www.aozora.gr.jp/ 「ゼーロン・淡雪」牧野信一 岩波文庫(宇大生協で販売) 参考書: <日本文学研究資料叢書>「梶井基次郎・中島敦」有精堂出版(図書館所蔵) <日本文学研究資料新集25>「宇野浩二と牧野信一」柳沢孝子編 有精堂出版(図書館所蔵) 「牧野信一の文学」近田茂芳 夢工房(図書館所蔵) 「バロックの日本」守安敏久 国書刊行会(図書館所蔵) 教材: 特になし。		
成績評価の方法／Evaluation	論述試験を評価の基本とする(70%)。毎回出席をとり、成績評価に際して参照材料とする(30%)。教員をも啓発するような創意ある受講者にのみ「秀」を与える。		
学習上の助言／Learning Advice	受講者には、毎回テキストの予習を前提として課す。したがって予習をしていない受講者は理解の及ばないことがある。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	中等社会科教育法Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	溜池 善裕(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 社会科教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S256120
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	溜池 善裕(tameike @cc.utsunomiya-u.ac.jp(送信する際には, tameikeの後ろのスペースを取って下さい))		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	溜池 善裕(水3・4)		
授業の内容／Course Description	中等社会科の目的や内容, 方法について, 教材研究・模擬授業等を通して考える。		
授業の達成目標／Course Goals	中等社会科の教科内容を理解し, その内容にもとづく授業について構想することが出来るようになること。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	授業に関わる基本的なことがらに関わる科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	前期に実施される中等社会科教育法Ⅰ その他, 教育に関する科目等		
関連科目／Related Courses	前期に実施される中等社会科教育法Ⅰ その他, 教育に関する科目等		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	この授業ではグループごとに2回程度の模擬授業を実施する。1回目は, 教科書を使い, ある程度の教材研究を行なって実施するものであり, 2回目は, 取材等, 独自の教材研究にもとづいて実施するものである。特に2回目の模擬授業については, どのような授業を実施するか, そのためにどこに何を取材に行くか等をあらかじめグループで相談し, 日程等を調整して実際に取材に行くことが求められる。取材では足りないものは文献等で補うことになるので, 関連する専門書等がどこにどのようなものがあるかといった調べ方や, その他資料の集め方等の基本的な方法論は, 関連する本等で勉強しておくこと。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	1 オリエンテーション 2 社会科授業について考える 3 教材研究の方法単元・指導計画・教材研究 4 以降模擬授業(1)指導要領・教科書・教材研究・発問・資料・板書 9 以降模擬授業(2)指導計画・指導案・教材研究・主発問・展開・指示 15 中等社会科教育法でわかったこと		
教科書・参考書等／Textbooks	その都度, 指示する。		
成績評価の方法／Evaluation	2回の模擬授業および教材研究への参加・協力の状況70%, 最終レポート30%		
学習上の助言／Learning Advice	教材研究の方法を身に付けることができるよう, 真摯に取り組んでもらいたい。後半の教材研究は, 自分の足を使って教材研究をすること。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	地域調査法		
担当教員(所属)／Instructor	松村 啓子(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 社会科教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S273700
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	松村 啓子(kwmatsu@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	松村 啓子(水曜日16:10-17:00, 金曜日11:00-12:00)		
授業の内容／Course Description	本授業では、人文地理学における地域調査の手法、調査計画の立て方、調査結果の考察、データの加工、主題図作成の基礎を学びます。		
授業の達成目標／Course Goals	地理教育や地理学の論文作成に必要な、市町村規模の調査の計画を立て、景観、土地利用、統計などから地域の総合的特色を明らかにすることを目指します。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	小学校・中学校・高等学校における学校区または市町村規模の地域の野外調査や、地誌学習の教材作成に必要な地理的技能と、指導計画を立案する力を育成します。		
前提とする知識／Prerequisites	エクセルの基本操作(データの入力・並べ替え・簡単な計算)が行えること。		
関連科目／Related Courses	「地理学実地調査」「地域調査実習」を履修する学生は、本授業をあわせて履修してください。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	地理学の論文作成に用いる地図や統計類についての講義と、野外での土地利用調査、データの加工・分析、主題図作成という実験をあわせて行います。第5週から総合メディア基盤センターの教育用端末室を使用します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 ガイダンス 第2週 地形図の読図 第3週 土地利用調査 第4週 調査計画の立案 第5週 統計の種類と利用法(1) e-stat(政府統計の総合窓口)の利用法 第6週 統計の種類と利用法(2) 統計GIS 第7週 統計分析(1) データの整理 第8週 統計分析(2) 人口動態 第9週 統計分析(3) 産業構造 第10週 主題図の作成(1) 散布図と人口ピラミッド 第11週 主題図の作成(2) 特化係数のレーダーチャート 第12週 主題図の作成(3) コロプレスマップ 第13週 主題図の作成(4) 2つの指標の重ね合わせによる描画 第14週～第15週 主題図を用いた研究成果発表		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：野間晴雄ほか著「ジオ・パルNEO 地理学・地域調査便利帖」海青社2500円 参考書： 梶田真・仁平尊明・加藤政洋編「地域調査ことはじめーあるく・みる・かくー」ナカニシヤ出版 大友篤「地域分析入門」東洋経済新報社 浮田典良・森三紀「地図表現ガイドブックー主題図作成の原理と応用ー」ナカニシヤ出版 谷謙二「MANDARAパーフェクトマスター」古今書院		
成績評価の方法／Evaluation	出席(70%)とプレゼンテーション(30%)によって評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	地域のありようを知るツールとして、地形図や地域統計を有効活用してください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	幾何学Ⅱ		
担当教員(所属)／Instructor	北川 義久(教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース 数学教育専攻)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S319009
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	曲面に関する微分幾何学について講義する。		
授業の達成目標／Course Goals	(1) 曲面の第1基本量と第2基本量について理解する。 (2) 曲面論の基本定理を理解する。 (3) 曲面のガウス曲率と平均曲率について理解する。 (4) ガウス驚異の定理を理解する。 (5) 測地線について理解する。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	数学教育専攻の選択専門科目である。中高における数学の内容の背景にある幾何学の理論について学習する。		
前提とする知識／Prerequisites	幾何学Ⅰ		
関連科目／Related Courses	幾何学Ⅰ		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義と演習を中心に授業を進めていく。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第01回 オリエンテーション 第02回 曲面のパラメータ表示 第03回 曲面の第1基本量(曲線の長さ) 第04回 曲面の第1基本量(曲面の面積) 第05回 曲面の第2基本量(曲面の形) 第06回 曲面論の基本定理(Gauss-Weingartenの式) 第07回 曲面論の基本定理(基本定理の証明) 第08回 中間試験 第09回 曲面の曲率(ガウス曲率, 平均曲率) 第10回 曲面の曲率(表現公式) 第11回 曲面の曲率(計算例) 第12回 曲面の曲率(ガウス驚異の定理) 第13回 曲面上の距離(等長写像) 第14回 測地線(測地線の方程式) 第15回 測地線(第1変分公式の証明)		
教科書・参考書等／Textbooks	参考書:「曲線と曲面の微分幾何」小林昭七著(裳華房)		
成績評価の方法／Evaluation	レポート(10%), 中間試験(30%), 期末試験(60%)を総合評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	演習問題をたくさん用意しています。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	中等理科教材論		
担当教員(所属)／Instructor	井口 智文(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	S357008
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	井口 智文(inokuchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	井口 智文((月) 10:30~12:00 AM 井口研究室 (左記以外はe-mailで予約してください))		
授業の内容／Course Description	中学校理科に関する教材について、物理、化学、生物の各分野の専門的観点から解説を行ない、受講者には必要に応じて準備した資料についての発表をしてもらう。また、必要に応じて教える内容についての解説も行なう。		
授業の達成目標／Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校理科における教材についての考え方を深める。 ・中学校で学習する理科の内容が、小学校・高等学校での学習内容と密接に関連することを理解する。 		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	中学校の「理科」1種免許を取得するための必修科目である。中学校理科の教科内容と適切な教材について理解することを目指す。		
前提とする知識／Prerequisites	小・中学校理科の内容を理解しておく事を勧める。		
関連科目／Related Courses	「基礎の物理学」、「基礎物理学実験」、「基礎の化学」、「基礎化学実験」、「基礎の生物科学」、「基礎生物学実験」、「基礎の地球科学」、「基礎地学実験」の8科目を履修済みか履修中であることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義と演習形式の混合した形式で進める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回ガイダンス 第2回物理分野(物体の運動、運動の法則に関する教材について) 第3回物理分野(運動の法則、運動量と力積に関する教材について) 第4回物理分野(仕事とエネルギー、熱とエネルギーに関する教材について) 第5回物理分野(放射線に関する理論と歴史について) 第6回中学校理科における新たな教材の開発について1(放射線教材) 第7回化学分野(物質理解と状態変化に関する教材について) 第8回化学分野(化学変化と酸化還元に関する教材について) 第9回化学分野(イオン・電気分解・電池に関する教材について) 第10回中学校理科における新たな教材の開発について2(マイクロスケール実験) 第11回 生物分野(植物に関する教材について) 第12回生物分野(動物に関する教材について) 第13回生物分野(生物の殖え方と遺伝に関する教材について) 第14回中学校理科における新たな教材の開発について3(植物の水の通り道) 第15回教材作成のための情報収集について ※ 順番については入れ替わることがある。		
教科書・参考書等／Textbooks	参考書：中学校学習指導要領解説理科編文部科学省 中学校の「理科」の教科書 教材：必要に応じてプリント等を配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	各分野での課題 80%、授業への参加態度(授業時の課題等を含む) 20%とし、総合して評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	教育実習IIでの活動をイメージし、能動的態度での授業参加を臨む。		
キーワード／Keywords	学校教育教員養成課程、理科教育、教科理科の指導法		
備考／Notes			